

法令全書

詔勅

朕帝國憲法第四十五條及衆議院議員選舉法第三十條ニ依リ明治二十五年二月十五日ヲ以テ衆議院議員ノ臨時選舉ヲ行フコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年一月十一日(官報一月十二日)



內閣總理大臣兼大藏大臣	伯耆松方	正義
外務大臣	伯耆大木	喬任
文部大臣	伯耆本武	揚
軍務大臣	伯耆後藤	象二
海軍大臣	伯耆山資	紀
農商務大臣	陸奥宗	光
司法大臣	高島綱之助	
內務大臣	子爵田中不二	麻呂
	子爵品川彌二郎	

朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ明治二十五年ヲ以テ巖手縣秋田縣及和歌山縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員議員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年一月 詔勅

727-47

484

明治二十五年一月二十七日(官報一月二十八日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

朕帝國憲法第七條及第四十五條ニ依リ本年五月二日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治二十五年三月十八日(官報三月十九日)

農務	内務	司法	陸軍	海軍	逓信	外務	文部	内閣總理大臣兼大藏大臣
ナ	大	大	大	大	大	大	大	伯爵松方正義
臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	伯爵大木喬任
河野敏錄	伯副島種臣	子爵田中不二麻呂	子爵高島綱之助	子爵樺山資紀	伯爵後藤象二郎	伯爵榎本武揚	伯爵大木喬任	

朕本年五月二日ヲ以テ召集スル帝國議會ハ四十日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年三月十八日(官報三月十九日)

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義
文部大臣 伯爵大木喬任

外務	大	臣子爵榎本武揚
逓信	大	臣伯爵後藤象二郎
海軍	大	臣子爵樺山資紀
陸軍	大	臣子爵高島綱之助
司法	大	臣子爵田中不二麻呂
內務	大	臣伯爵副島種臣
農商務	大	臣伯爵河野敏鎌

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十五年六月四日ヲ以テ貴族院伯爵議員一名
 關員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年四月八日(官報四月九日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十五年六月二十五日ヲ以テ貴族院子爵議員
 一名關員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年四月二十九日(官報四月三十日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ五月六日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年五月四日

農商務	大	臣	河野敏鎌
內務	大	臣	伯爵副島種臣
司法	大	臣	子爵田中不二麻呂
陸軍	大	臣	子爵高島綱之助
海軍	大	臣	子爵樺山資紀
遞信	大	臣	伯爵後藤藤象二郎
外務	大	臣	子爵榎本武揚
文部	大	臣	伯爵大木喬任
內閣總理大臣兼大藏大臣	伯爵松方正義		

朕帝國憲法第七條ニ依リ五月十六日ヨリ二十二日迄七日間帝國議會ノ停會ヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年五月十六日

遞信	大	臣	伯爵後藤藤象二郎
外務	大	臣	子爵榎本武揚
文部	大	臣	伯爵大木喬任
內閣總理大臣兼大藏大臣	伯爵松方正義		

海軍大臣	臣子爵樺山資紀
陸軍大臣	臣子爵高島綱之助
司法大臣	臣子爵田中不二麻呂
內務大臣	臣伯爵副島種臣
農商務大臣	臣河野敏鎌

○ 朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十五年七月三十日ヲ以テ貴族院子爵議員三名關員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年六月四日(官報六月六日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

○ 朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ明治二十六年ヲ以テ福井縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員關員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年六月二十四日(官報六月二十五日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十一月二十五日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治二十五年十月十二日(官報十月十三日)

- 内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
- 司法大臣 伯爵山縣有朋
- 遞信大臣 伯爵黑田清隆
- 内務大臣 伯爵井上馨
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 農商務大臣 伯爵後藤象二郎
- 外務大臣 陸奥宗光
- 文部大臣 河野敏鎌
- 海軍大臣 子爵仁禮景範
- 大藏大臣 渡邊國武

朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ明治二十六年ヲ以テ長崎縣及宮崎縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員關員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年十月二十一日(官報十月二十二日)

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

○ 朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十一月二十九日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年十一月二十五日

- 内閣總理大臣伯爵伊藤博文
- 司法大臣伯爵山縣有朋
- 逓信大臣伯爵黑田清隆
- 内務大臣伯爵井上馨
- 陸軍大臣伯爵大山巖
- 農商務大臣伯爵後藤象二郎
- 外務大臣 陸奥宗光
- 文部大臣 河野敏謙
- 海軍大臣伯爵仁禮景範
- 大藏大臣 渡邊國武

法令全書

法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十三日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

法律第一號(官報 六月十四日)

震災地方租稅特別處分法

- 第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス
- 第二條 水源涸渇水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
- 第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得
- 第四條 過半ノ家屋燒失若ハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若ハ市街ニ準スヘキ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得
- 第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得
- 第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ

之ヲ免除ス

- 第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受タルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得
- 第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ賣塊ニ依リ震災前検査済ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得
- 第九條 醬油菓子賣藥烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ賣況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限リ減免スルコトヲ得
 - 一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ稅金
 - 一 醬油營業稅菓子賣藥稅賣藥營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ稅金
- 第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス
- 第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小包郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十六日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
遞信大臣 伯耆後藤藤三郎

法律第二號(官報 六月十七日)

小包郵便法

第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコトヲ得

トヲ得

- 第一 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但シ第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得
- 第二 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若ハ音信文記入ノ物品
- 第二條 小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト爲スコトヲ得但シ其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三條 小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責ニ任ス
- 第四條 小包郵便料保險料賠償金額並ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責ニ任セス
 - 第一 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ
 - 第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ
 - 第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ
- 第四 本法郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ
- 第六條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ
- 第七條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ差出人ヨリ遞信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此ノ期限ヲ經過スルトキハ政府其ノ責ヲ免ル
- 第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル

日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若ハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權者ハ第二者ニ對スル請求權ヲ當然承繼ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互運送スル小包郵便物ハ郵便料ヲ免除ス

第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メサル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條

例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百

四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條 第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第十三條 本法ノ施行細則ハ逓信大臣之ヲ定ム

第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

附則

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便聯合國郵便切手類保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十七日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
逓信大臣 伯爵 後藤藤象二郎

法律第三號 (官報 六月十八日)

郵便聯合國郵便切手類保護法

第一條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手 封皮 葉書又ハ帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ

知テ之ヲ使用シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 已ニ貼用シタル郵便聯合條約國政府發行ノ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第三條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

附則

第五條 此ノ法律ハ明治二十五年七月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道敷設法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日

内閣總理大臣 兼 伯耆松方正義
大藏大臣 內務大臣 陸軍大臣
臣 伯爵 高島綱之助

法律第四號 (官報 六月二十一日)

鐵道敷設法

第一章 總則

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

司法大臣 子爵 田中不二麻呂

第一條 豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

中央線

- 一 神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
- 一 長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
- 一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道
- 中央線及北陸線ノ連絡線
- 一 岐阜縣下岐阜若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道
- 北陸線
- 一 福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ石川縣下七尾ニ至ル鐵道
- 北陸線及北越線ノ連絡線
- 一 富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道
- 北越線
- 一 新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道
- 北越線及奥羽線ノ連絡線
- 一 新潟縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道若ハ新潟縣下新津ヨリ福島縣下若松ヲ經テ白河本宮近傍ニ至ル鐵道
- 奥羽線
- 一 福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道

一 宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小午田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道

一 岩手縣下黒澤尻若ハ花巻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 岩手縣下盛岡ヨリ宮古若ハ山田ニ至ル鐵道

總武線及常磐線

一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉、佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ水更津ニ至ル鐵道

一 茨城縣下水戸ヨリ福島縣下平ヲ經テ宮城縣下岩沼ニ至ル鐵道

近畿線

一 奈良縣下奈良ヨリ三重縣下上柘植ニ至ル鐵道

一 大阪府下大阪若ハ奈良縣下八木又ハ高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ奈良縣下奈良ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道

山陽線

一 廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道

一 廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

山陰線

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豊岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道

山陰及山陽連絡線

一 兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨ

リ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道
 一兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下米子及境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道
 一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道
 四國線
 一香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道
 一德島縣下德島ヨリ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
 一香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道
 九州線
 一佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下佐世保及長崎ニ至ル鐵道
 一熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道及宇土ヨリ分岐シ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道
 一熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道
 一福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道
 一福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道
 一福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道
 以上ノ線路ニ變更増減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定スヘシ
 第三條 鐵道工事ハ緩急ニ應ジテ其ノ期限ヲ數期ニ區分シ每期ノ工事ヲ繼續事業トス
 第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
 第五條 鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス
 第六條 鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第二章 第一期鐵道及公債募集

第七條 豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス
 一中央豫定線ノ内神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
 一北陸豫定線ノ内福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道
 一北越豫定線ノ内新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下野野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道
 一奥羽豫定線ノ内福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道
 一山陽豫定線ノ内廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道
 一九州豫定線ノ内佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下長崎及佐世保ニ至ル鐵道及熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道
 一近畿豫定線ノ内京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道
 一近畿線ノ内大阪府下大阪若ハ奈良縣下高田若ハ八木ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道
 一山陰山陽聯絡豫定線ノ内兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道
 以上線路ノ外ニ尙敷設ノ急ヲ要スヘシト認ムルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ更ニ第一期工事トシ特ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

比較線路ハ政府ニ於テ更ニ調査ヲ遂ケ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定スヘシ
 第八條 第一期鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ成效期限トス
 第九條 第一期鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金六千萬圓ヲ限リ明治二十五年年度ヨリ十二箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ
 第十條 政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第三章 私設鐵道ノ處分

第十一條 既成私設鐵道ニシテ第二條ニ依リ敷設スヘキ線路ノ爲買收ノ必要アリト認ムルモノハ政府ハ其ノ會社ト協議シ上價格ヲ豫定シ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ
 第十二條 私設鐵道買收ノ費用ハ公債ヲ發行シ代價トシテ其ノ會社ニ交付スヘシ
 第十三條 豫定鐵道線路中私設會社ニ敷設ヲ許可シタルモノハ其ノ會社ノ全部線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲナシタル上ニアラサレハ之ヲ敷設セス
 第十四條 豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 鐵道會議

第十五條 政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス
 一 鐵道工事著手ノ順序
 一 第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其ノ都度募集スヘキ公債金額
 第十六條 鐵道會議ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十二日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
 遞信大臣 伯爵後藤藤三郎
 海軍大臣 子爵樺山資紀

法律第五號(官報 六月二十三日)
 海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス
 本法中汽船ト離帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用井サルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用井サルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ
 本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
 本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船 燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ
 第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲グヘカラス
 第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲グヘシ
 一 前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一

筒ヲ掲グヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ヲ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後橋ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周同少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用非中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周同少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用非中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲グヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲グヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得シテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第二十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ燈ヲ掲グヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ燈點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クト

キハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時線光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ線紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲線燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未満ノ汽船及機櫃若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未満ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラズ且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケヘシ

乙

第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ線紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲ケヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 機櫃若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時線光ハ左舷ヨリ紅光ハ

右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲ケハカラス單ニ周囲ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エタル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外線紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時線光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船船ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サハルトキハ其ノ積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲ケヘシ

第九條 凡ソ漁船其ノ業ニ從事スルトキハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但シ航行中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲ケヘシ

一 刺網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二箇ノ白燈ヲ龍骨線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲ケヘシ此ノ燈ハ周囲少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 線網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲スヘシ此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ正横後ノ二點マテハ右舷ハ綠色、左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ホシ又増掲ノ白燈ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周囲ヲ照スヘキモノタルヲ要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周圍ヲ照スヘキ白燈一箇ヲ掲クル外尙少クモ二十秒時間發火スヘキ紅光焰管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ發スヘシ

本項乙ニ記載スル諸船地中海ニアリテハ紅光焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ用ウルヲ得

本項甲乙ニ記載スル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

丙 總積量七噸未満ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル白燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色光明ノ光ヲ發スル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示シ且本條第二項乙ニ規定シタル紅光焰管ヲ發シ或ハ其ノ焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

三 細釣漁業ニ従事スル船碇泊若ハ停留セサルトキハ刺網ヲ用井タル漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發スルヲ得但シ綠網其ノ他桁網ノ類ヲ以テ漁業ニ従事スル船ノ閃火ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レトモ漁具ノ船尾ニ繫キタル場合ニ於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五 漁船碇泊スルトキハ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ表示スヘシ

六 漁船其ノ漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏着シタル爲其ノ所ニ停留スルトキハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信號ヲ爲スヘシ

七 霧中降雪其ノ他暴雨中刺網、綠網、桁網ノ類其ノ他細釣ノ業ニ従事スル漁船ニシテ總積量二十噸以上ナルトキハ汽船ナレハ汽笛又ハ汽角、帆船ナレハ霧中號角ヲ用井一分ヨリ多カラサル時間毎ニ一響ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

八 刺網、綠網又ハ細釣漁業ニ従事スル帆船運輸中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃又ハ其ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄ル他船ニ其ノ漁船ナルコトヲ表示スヘシ

本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ光明ノ光ヲ發シ鐵盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右へ六點間宛射光ノ及フヘキ椽隔板ヲ裝置シ成ルヘク放燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光明ノ光ヲ發シ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

- 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
- 二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス
- 三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ
- 四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ
- 五 船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ボス虞アル場所ニ碇泊シタルトキハ汽船ナレハ汽笛若ハ汽角ヲ用井二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ又帆船ナレハ霧中號角ヲ用井一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ二聲ヲ發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

六 他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セントスル汽船ハ短長短

ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ其ノ三聲ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

八 海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ

三長聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

九 船舶航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ

運轉シ能ハサルトキニ際シ近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ四短聲ヲ連發シ

テ之ニ應スヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信

號ヲ爲サハルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機

關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ

方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避ク

ヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
 二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
 三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ
 五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行進フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ
 本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行進フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鐵路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス
 本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行進ロタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ櫓ト他船ノ櫓ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ
 本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スルテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スルテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス
 第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ三船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鐵路及速力ヲ保ツヘシ
 第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス
 第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ
 第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船舶ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船舶ヲ以テ本法ノ航路横切船舶ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス
 晝間他船ヲ追越サルトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船舶ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ
 第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ
 第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用井テ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖獵ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス
 第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ
 航行中ノ汽船他船ニ近寄り鐵路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船

ニ我船ノ鐵路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ隨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船舶主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル難船信號ヲ表示ス

四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク

五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 船上ノ發煙(タール桶油桶等ヲ燃焼スルノ類)

三 空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル藥品營業並藥品取扱規則追加法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十七日

內閣總理大臣兼內務大臣伯爵松方正義

法律第六號(官報 六月二十八日)

明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第四十六條ニ「醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齢滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下附ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ」トアル「醫科大學藥學科」下ニ「及高等中學校醫學部藥學科」ノ十二字ヲ追加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制第二十七條修正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十七日

内閣總理大臣兼内務大臣伯爵松方正義

法律第七號(官報六月二十八日)

明治二十三年法律第三十五號府縣制第二十七條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

市部會郡部會ヲ置キタル縣ニ於テ縣會ノ職權ニ關スル事件ニシテ專ラ市ニ關スルモノト專ラ其
他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ縣會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スル
コトヲ得但分別シタル縣ニ於テハ此法律中特ニ東京府京都府大阪府ニ關シ定メタル各條項ハ之
ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法及商法施行延期法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年十一月二十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

司法大臣伯爵山縣有朋

遞信大臣伯爵黒田清隆

内務大臣伯爵井上馨

陸軍大臣伯爵大山巖

農商務大臣伯爵後藤象二郎

外務大臣 陸奥宗光

文部大臣 河野敏鎌

海軍大臣子爵仁禮景範

大藏大臣 渡邊國武

法律第八號(官報十一月二十四日)

明治二十三年三月法律第二十八號民法財産編財産取得編債權擔保編證據編同年三月法律第三十二
號商法同年八月法律第五十九號商法施行條例同年十月法律第九十七號法例及第九十八號民法財産
取得編人事編ハ其ノ修正ヲ行フカ爲明治二十九年十二月三十一日マテ其ノ施行ヲ延期ス但シ修正
ヲ終リタルモノハ本文期限内ト雖之ヲ施行スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銀行條例及貯蓄銀行條例施行延期法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年十二月二十六日

内閣總理大臣臨時代理

内務大臣伯耆井上 馨

大藏大臣 渡邊國武

法律第九號(官報十二月二十七日)

明治二十三年法律第七十二號銀行條例及同年法律第七十三號貯蓄銀行條例ハ商法第一編第二章第四章第六章第十二章及第三編施行ニ至ルマテ其ノ施行ヲ延期ス

〔參照〕

明治二十三年四月廿二日法律第三十二號商法第一編第二章ハ商業登記簿、第四章ハ商業帳簿、第六章ハ商會社及ヒ共算商業組合第十二章ハ手形及ヒ小切手第三編ハ破産ナリ

法令全書

豫算

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加並明治二十五年年度大阪砲兵工廠特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日(官報 六月二十一日) 内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

豫算

第一條 明治二十五年年度ノ歳入追加額歳出追加額ヲ各百八拾九萬八千八百七圓拾五錢七厘ト定ム 其款項ノ金額ハ別冊甲號歳入豫算歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其規畫スル所ニ隨テ繼續費ト爲シ若クハ既定ノ年限金額ヲ改定ス

第三條 別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌明治二十六年年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

(別冊)

甲號

歳入臨時部

第七款 前年度繰入金

金百八拾九萬八千八百七圓拾五錢七厘

第一項 前年度繰入金

金百八拾九萬八千八百七圓拾五錢七厘

歳出臨時部

內務省所管

- 第三款 土木費補助
 - 第十六項 三重縣河川震災費補助 金六萬八千參拾參圓九拾貳錢參厘
 - 第十五款 全國鐵道線路調查費 金貳萬貳千五百圓
 - 第一項 俸給及諸給 金七千八百七拾五圓
 - 第二項 廳費 金貳千貳百拾貳圓五拾錢
 - 第三項 旅費 金六千圓
 - 第四項 雜給 金六千四百拾貳圓五拾錢
 - 第十六款 河川調查費 金五萬千貳百貳圓四拾壹錢參厘
 - 第一項 俸給及諸給 金九千七百五拾圓
 - 第二項 旅費 金六千四百拾五圓貳拾錢
 - 第三項 廳費 金壹萬千四百七拾四圓五拾七錢七厘
 - 第四項 測量及試驗費 金貳萬參千八百六拾貳圓六拾參錢六厘
- 內務省所管合計金拾四萬千七百參拾六圓參拾參錢六厘
- 大藏省所管
- 第三款 營繕費 金五千九百六拾壹圓
 - 第二項 震災新營繕費 金四千九百九拾八圓
 - 第三項 震災修繕費 金九百六拾五圓
- 陸軍省所管
- 第一款 砲臺建築費 金參拾五萬千八百圓
 - 第一項 東京灣砲臺建築費 金參拾五萬千八百圓

- 第三款 兵器彈藥費 金五拾壹萬六千九百四圓
 - 第一項 兵器彈藥費 金五拾壹萬六千九百四圓
 - 第四款 營繕費 金七萬六千八百八拾圓四錢貳厘
 - 第二項 震災新營繕費 金貳千九百參拾八圓拾五錢參厘
 - 第三項 震災修繕費 金七萬參千九百四拾壹圓八拾八錢九厘
 - 第五款 連發銃製造費 金參拾貳萬六千八拾八圓
 - 第一項 兵器彈藥費 金參拾貳萬六千八拾八圓
 - 第六款 棉火藥製造場新設費 金參萬七千四百參拾參圓九錢壹厘
 - 第一項 工場新營繕費 金貳萬貳千四百七拾貳錢四厘
 - 第二項 器械購買 金壹萬七千貳百貳拾八圓六拾六錢七厘
 - 第七款 大演習費 金八萬參千參拾壹圓九拾貳錢壹厘
 - 第一項 演習費 金八萬參千參拾壹圓九拾貳錢壹厘
- 陸軍省所管合計金百參拾九萬貳千百參拾七圓參拾五錢四厘
- 司法省所管
- 第二款 營繕費 金四萬七千九百五拾八圓六拾貳錢五厘
 - 第二項 震災新營繕費 金貳萬七千八百七拾四圓拾貳錢五厘
 - 第三項 火災新營繕費 金貳萬圓
 - 第四項 震災修繕費 金八拾四圓五拾錢
- 文部省所管
- 第二款 震災豫防調查會設備費 金四萬千四百五拾貳圓
 - 第一項 器械費 金貳萬九千五百五拾圓

第二項 新營費

金壹萬千九百貳圓

第三款

岐阜縣下小學校設備補助

金拾五萬五千貳百九圓七拾五錢

第一項

岐阜縣下小學校設備補助

金拾萬千拾八圓八拾五錢

第二項

愛知縣下小學校設備補助

金五萬四千九拾圓九拾錢

文部省所管合計

金拾九萬六千六百六拾壹圓七拾五錢

遞信省所管

第三款

營繕費

金拾壹萬四千參百五拾貳圓九錢貳厘

第二項

平磯航路標識新設費

金壹萬參千七拾壹圓拾八錢

第三項

震災新營費

金壹萬六千圓

第四項

火災新營費

金參萬七百八拾圓九拾壹錢貳厘

第五項

明治九修繕費

金五萬四千五百圓

歲出臨時部合計

金百八拾九萬八千八百七圓拾五錢七厘

(別冊)

乙類

第一

歲出臨時部內務省所管第十五款

全國鐵道線路調査費

總額五萬四千圓

內

金貳萬貳千五百圓

明治二十五年

金貳萬七千五百圓
金四千圓

明治二十六年
明治二十七年

第二

歲出臨時部陸軍省所管第一款砲臺建築費第一項

東京海砲臺建築費

總額八百貳拾六萬五千圓

內

金四拾八萬四千四百拾七圓四拾九錢壹厘

明治二十四年度迄支出高

金七百七拾八萬五百八拾貳圓五拾錢九厘

明治二十五年以降至支出高

此改定年割額左ノ如キ

金四拾壹萬四千八百圓

明治二十五年

金參拾壹萬參千圓宛

自明治二十六年

金參拾壹萬八千六百五拾參圓參拾五錢五厘

至明治三十三年

金四拾六萬貳千四百貳拾九圓拾五錢四厘

明治三十四年

金四拾六萬貳千參百圓宛

明治三十五年

自明治三十六年

至明治四十四年

第三

歲出臨時部陸軍省所管第三款

兵器彈藥費

金七百八拾參萬六千參百四拾圓五拾八錢六厘

既定總額

金六拾五萬八千六百六拾圓六拾錢

第三海軍

合計金八百四拾九萬五千壹圓拾八錢六厘

追加額

丙

金八拾四萬五千貳百九圓參拾六錢參厘
金七百六拾四萬九千七百九拾壹圓八拾貳錢參厘
此改定年割額左ノ如シ
明治二十四年度迄支出高
明治二十五年年度以降支出高

- 金九拾壹萬貳千七拾五圓貳拾貳錢 明治二十五年年度
- 金五拾八萬六千七百六拾七圓八拾四錢四厘 明治二十六年年度
- 金五拾九萬四百五拾壹圓九拾五錢四厘 明治二十七年年度
- 金五拾八萬七千四百參拾八圓八拾五錢參厘 明治二十八年年度
- 金五拾八萬八千參圓五拾八錢參厘 明治二十九年年度
- 金五拾八萬四千參百拾八圓九拾七錢六厘 明治三十年年度
- 金五拾八萬五千參百五拾五圓六錢九厘 明治三十一年年度
- 金五拾八萬五千貳百貳拾八圓五拾九錢四厘 明治三十二年年度
- 金五拾八萬參千參百八拾壹圓七錢九厘 明治三十三年年度
- 金四拾萬千參百七拾圓壹錢七厘宛 明治三十四年度
- 金貳拾五萬七千貳百九拾圓五拾八錢參厘 自明治三十五年度
至明治三十七年度
明治三十八年度

兵器彈藥費
歲出臨時部陸軍省所管第五款運送銃製造費第一項
總額百六拾參萬四百參拾九圓參拾壹錢六厘

丙

金參拾貳萬六千八拾八圓宛
金參拾貳萬六千八拾七圓參拾壹錢六厘
自明治二十五年年度
至明治二十九年年度

第五

歲出臨時部陸軍省所管第六款
棉火藥製造場新設費

總額拾壹萬九千六百貳拾四圓

丙

金參萬七千四百參拾參圓參拾九錢壹厘 明治二十五年度
金八萬貳千九百九拾圓六拾錢九厘 明治二十六年度

(別冊)

丙號

第一

歲出臨時部遞信省所管第三款營繕費第四項
火災新營費中札幌郵便電信局新營

特別會計豫算

明治二十五年年度陸軍省所管大阪砲兵工廠ノ歲入歲出豫算追加額ヲ各五拾萬九千五百六拾九圓貳拾六錢五厘ト定ム其款項ノ金額ハ別紙歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別紙)

陸軍省所管

大阪砲兵工廠

歳入

- 第一款 大阪砲兵工廠作業收入 金五拾萬九千五百六拾九圓貳拾六錢五厘
- 第一款 作業收入 金五拾萬九千貳百六拾圓七拾五錢四厘
- 第二款 雜收入 金參百八圓五拾壹錢壹厘

歳出

- 第一款 大阪砲兵工廠作業費 金五拾萬九千五百六拾九圓貳拾六錢五厘
- 第一款 給與費 金拾貳萬七千四百貳拾參圓九拾七錢
- 第二款 作場費 金九千參百九拾四圓七拾四錢九厘
- 第三款 材料素品購買費 金參拾七萬貳千七百五拾圓五拾四錢六厘

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加並明治二十五年年度帝國大學及鹿兒島高等中學造士館特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年十二月二十日(官報十二月二十二日)

内閣總理大臣臨時代理
 内務大臣伯爵井上 馨
 大藏大臣渡邊國武

豫算

- 第一條 明治二十五年年度歳出豫算追加額金百七拾參萬八千八百拾貳圓參拾參錢參厘ト定メ其款項ノ金額ハ別冊甲號歳出豫算ニ據ルヘシ
- 第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ年度未支出殘額ヲ翌明治二十六年年度ニ繰越使用スルコトヲ得

(別冊)

甲號

歳出經常部

内務省所管

- 第八款 北海道本廳 金貳百五拾九圓五拾六錢貳厘
- 第二十項 度量衡檢定費 金貳百五拾九圓五拾六錢貳厘
- 第十一款 府縣 金拾貳萬六千六百拾九圓八拾五錢七厘

第五項 外國人居留地取給及修繕費 金千八百貳拾五圓九拾五錢
第九項 警察費連帶支辨金 金拾貳萬四千七百九拾參圓九拾錢七厘

內務省所管合計金拾貳萬六千八百七拾九圓四拾壹錢九厘

大藏省所管

第三款 恩賞諸祿 金貳拾參萬參千六百四拾貳圓四拾八錢參厘

第二款 文官恩給 金四萬參千貳百貳圓八錢九厘

第三款 陸軍恩給 金拾六萬貳千八百七拾參圓八拾四錢五厘

第四項 海軍恩給 金貳萬七千五百六拾六圓五拾四錢九厘

第六款 貴族院 金四萬五千九百四拾壹圓

第一款 俸給及諸給 金四萬四千四百圓

第三款 旅費 金參千八百四圓

第四項 雜給 金七百參拾七圓

第七款 衆議院 金拾貳萬貳千六百貳拾圓五拾錢

第一款 俸給及諸給 金拾萬參千四百四拾六圓

第三款 旅費 金壹萬參千六百九拾壹圓

第四項 雜給 金千七百六拾貳圓五拾錢

第五項 廳費 金參千七百貳拾壹圓

第十款 官報局 金四萬貳千七百七拾參圓貳拾五錢貳厘

第六項 刊行費 金四萬貳千七百七拾參圓貳拾五錢貳厘

陸軍省所管 大藏省所管合計金四拾四萬四千參百七拾七圓貳拾參錢五厘

陸軍省所管

第二款 軍事費

第四項 糧食費 金參拾七萬九千貳拾四圓九拾五錢四厘

第六項 馬匹費 金貳拾六萬千五百參拾參圓四拾四錢

第三款 憲兵費 金拾壹萬七千四百九拾壹圓五拾壹錢四厘

第四項 屯田兵費 金七百七拾圓四拾九錢七厘

第四項 糧食費 金六萬六千四百七圓四拾七錢貳厘

陸軍省所管合計金四拾四萬六千貳百貳圓九拾貳錢參厘

遞信省所管

第三款 遞信費 金貳拾參萬六千參百六拾參圓拾七錢貳厘

第一款 俸給及諸給 金參萬五千參百貳圓

第三項 遞信事業費 金拾八萬千五百五拾圓六拾七錢

第四項 旅費 金壹萬千參百五拾九圓貳拾六錢參厘

第五項 雜給 金五千九百貳拾四圓四拾參錢

第六項 廳費 金貳千六百貳拾六圓八拾錢九厘

歲出經常部合計金百貳拾五萬參千八百貳拾貳圓七拾四錢九厘

歲出臨時部

內務省所管

第八款 營繕費 金參千四百五拾六圓七拾錢五厘

第一款 新營費 金參千四百五拾六圓七拾錢五厘

第十三款 北海道札幌區役所及警察廳修築費 金千四百八拾四圓壹錢

- 第十四款 北海道拂下土地買上費 金千四百八拾四圓壹錢
- 第二項 北海道拂下土地買上費 金百參拾九圓四拾五錢六厘
- 內務省所管合計金五千八拾圓拾七錢壹厘
- 大藏省所管
- 第一款 補助費 金拾八萬七千參百九拾六圓貳拾貳錢壹厘
- 陸軍省所管 金拾八萬七千參百九拾六圓貳拾貳錢壹厘
- 第一款 日本鐵道會社利益補助
- 第四款 營繕費 金壹萬五千六百九拾參圓七拾五錢
- 海軍省所管 金壹萬五千六百九拾參圓七拾五錢
- 第四項 步兵第二十三聯隊第三大隊兵舍新營
- 第一款 軍艦製造費 金拾七萬八千百拾圓四拾八錢貳厘
- 第一項 軍艦製造費 金拾七萬八千百拾圓四拾八錢貳厘
- 遞信省所管
- 第三款 營繕費 金九萬八千七百八圓九拾六錢
- 第七項 小包郵便新營費 金八萬九千九百八圓九拾六錢
- 第八項 小包郵便修繕費 金壹萬六千八百圓
- 歲出臨時部合計金四拾八萬四千九百八拾九圓五拾八錢四厘
- 歲出總計金百七拾參萬八千八百拾貳圓參拾參錢參厘

(別冊)

乙號

- 第一 歲出臨時部內務省所管第六款 橫濱築港費
- 第二 歲出臨時部遞信省所管第三款第七項 小包郵便新營費
- 各特別會計豫算
- 明治二十五年度文部省所管帝國大學及應山高等中學造士館ノ各歲入歲出豫算追加額及其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

- 文部省所管
- 帝國大學 歲入
- 第一款 帝國大學 經常部 金八百七拾圓
- 第二款 諸收入 經常部 歲出 金八百七拾圓
- 第一款 帝國大學 經常部 金八百七拾圓
- 第二款 廳費 金八百七拾圓

鹿兒島高等中學造士館

歲入

- 第一款 鹿兒島高等中學造士館 金四千參百五拾六圓
- 第三款 特別資金繰入 金四千參百五拾六圓

歲出

- 第一款 鹿兒島高等中學造士館 金貳千六百六拾七圓
- 第二款 廳費 金貳千六百六拾七圓

臨時部

- 第一款 新營費 金貳千八百八拾九圓
- 第一款 新營費 金貳千八百八拾九圓

合計金四千參百五拾六圓

資金部歳出

- 第一款 特別資金支出 金四千參百五拾六圓
- 第一款 學校費資金繰入 金四千參百五拾六圓

御名 御璽

明治二十五年十二月二十二日(官報十二月二十四日)

内閣總理大臣臨時代理 内務大臣伯耆井上 馨

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏大臣 渡邊 國武

豫算

第一條 明治二十五年年度歳出豫算追加額ヲ三百八拾壹万七千七百五拾五圓九拾四錢ト定ム其款項ノ

金額ハ別册甲號歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別册乙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌明治二十六年年度ニ繰越使用スルコトヲ得

(別册)

甲號

歳出臨時部

内務省所管

- 第三款 土木費補助 金三百八拾壹万七千七百五拾五圓九拾四錢
- 第十七項 兵庫縣水害費補助 金八拾貳万四千九百五拾六圓五拾四錢四厘
- 第十八項 岡山縣水害費補助 金百七拾貳万九千三百貳拾五圓四拾壹錢
- 第十九項 德島縣水害費補助 金百拾貳万三千四百九拾七圓九拾貳錢四厘
- 第二十項 山梨縣水害費補助 金五万貳千貳百貳拾五圓五拾壹錢七厘
- 第二十一項 高知縣水害費補助 金八万七千七百五拾圓五拾四錢五厘

(別册)

乙號

第一

歳出臨時部内務省所管第三款土木費補助第十七項

兵庫縣水害費補助

第二

歲出臨時部內務省所管第三款土木費補助第十八項
岡山縣水害費補助

第三

歲出臨時部內務省所管第三款土木費補助第十九項
德島縣水害費補助

第四

歲出臨時部內務省所管第三款土木費補助第二十項
山梨縣水害費補助

第五

歲出臨時部內務省所管第三款土木費補助第二十一項
高知縣水害費補助

法令全書

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日(官報六月二十二日)

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

文部大臣伯爵大木喬任

海軍大臣 臣子爵樺山資紀

陸軍大臣 臣子爵高島綱之助

農商務大臣 河野敏錄

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

第一

東京砲兵工廠ニ於テ新ニ外國人ヲ傭入シ明治二十五年度本邦到着ノ日ヨリ向三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓手當月額百圓馬飼料月額拾貳圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解傭年度ニ於テ歸國旅費千圓ヲ支給スルコトヲ得

第二

海軍被服ニ係ル費額五萬圓迄ヲ限り明治二十六年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第三

海軍艦營需品ニ係ル數額五萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第四

海軍兵器彈藥及水雷ニ屬スル數額八萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第五

海軍造船及修理ニ要スル數額五萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第六

農商務省ニ於テ外國人ノ滿期ニヨリ更ニ備繼キ明治二十五年十一月十六日以降滿二箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百五十圓ヲ支給シ且家具ヲ備ベサル家屋一月ヲ貸與スルノ契約ヲ結ビ而シテ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百圓ヲ支給スルコトヲ得

第七

度量衡副原器及度量衡器具製造費壹萬參千五百圓參拾參圓五拾壹錢ハ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第八

橫濱實業守府ニ於テ特別會計ノ經濟ニ係ル造船材料資金ヲ以テ該造船事業ニ使用スル材料ノ購買ヲ要ス依テ金貳拾壹萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第九

吳鎮守府ニ於テ特別會計ノ經濟ニ係ル造船材料資金ヲ以テ該造船事業ニ使用スル材料ノ購買ヲ要ス依テ金六萬八千圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第十

帝國大學ニ於テ備外國人教師八名滿期ニヨリ更ニ備繼キ若クハ代員ヲ備入レ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 壹名ハ明治二十五年年度(契約ニ定メタル日)ヨリ同二十八年七月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百五十圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 貳名ハ明治二十五年年度(契約ニ定メタル日)ヨリ同二十九年七月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百七拾圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 壹名ハ明治二十五年九月十一日ヨリ同二十八年九月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額四百八拾圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 壹名ハ明治二十五年年度(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ二箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額四百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 壹名ハ明治二十五年年度(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 壹名ハ明治二十五年年度(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス
- 一 壹名ハ明治二十六年八月一日ヨリ同二十八年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百五十圓ヲ支給シ備入年度ニ於テ來航旅費六百五十圓又滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五十圓ヲ支給ス

第十一

高等商業學校ニ於テ備外國人教師二名滿期ニヨリ更ニ備繼キ若クハ代員ヲ備入レ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 登名ハ明治二十五年(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百元ヲ支給ス
- 一 登名ハ明治二十五年(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額百七拾五圓ヲ支給ス

第十二

第一高等中學校ニ於テ備外國人教師五名滿期ニヨリ更ニ備繼キ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 四名ハ明治二十五年七月十一日ヨリ同二十七年九月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給ス
- 一 登名ハ明治二十五年九月九日ヨリ同二十六年九月八日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給ス

第十三

第二高等中學校ニ於テ備外國人教師登名滿期ニヨリ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓借家料月額貳拾圓ヲ支給シ且滿期解備年度ニ於テ旅費百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ又授業上ノ必要アルニヨリ新ニ外國人教師登名ヲ備入レ明治二十五年(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ二箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓借家料月額拾五圓ヲ支給シ且滿期解備年度ニ於テ旅費百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十四

第三高等中學校ニ於テ備外國人貳名滿期ニヨリ登名ハ更ニ備繼キ明治二十五年八月四日ヨリ同二十

十七年八月三日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給シ又登名ハ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十五

第四高等中學校ニ於テ備外國人教師滿期ニヨリ更ニ備繼キ明治二十五年七月二十一日ヨリ同二十六年七月二十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解備年度ニ於テ旅費五拾圓八拾錢ヲ支給スルコトヲ得

第十六

第五高等中學校ニ於テ備外國人滿期ニヨリ更ニ備繼キ明治二十五年(契約ニ定メタル日)ヨリ向フ一箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十七

鹿兒島高等中學造士館ニ於テ備外國人滿期ニヨリ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年六月三十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解備年度ニ於テ歸國旅費參百圓ヲ支給スルコトヲ得

法令全書

勅令

朕近衛師團監督部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第一號(官報一月十二日)

近衛師團監督部條例中左ノ通改正ス

一「近衛師團」ヲ「師團」ニ近衛都督師團長ヲ「師團長」ニ改ム

一第二條ヲ左ノ如ク改ム

師團監督部ハ當該師團ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某師團監督部ト稱ス

〔参照〕

勅令第五十六號近衛師團監督部條例(明治二十三年三月二十八日官報)抄録

第二條 近衛師團監督部ハ其近衛司令部所在地ニ在ルモノヲ近衛監督部ト稱シ師團司令部所在地ニ在ルモノヲ師團監督部ト稱ス

朕陸軍經營部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二號(官報一月十二日)
陸軍經營部條例中左ノ通改正ス
第一條中「近衛及」ノ三字ヲ削ル
第二條中「近衛」ノ下ニ「師團」ノ二字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第五十九號陸軍經營部條例明治二十三年三月二十八日官報抄録
第一條 陸軍經營部ハ近衛及師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ陸軍聯合倉庫並地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且營繕ニ係ル總テノ經理ヲ掌ル所トス但砲兵工兵科ニ關スルモノハ此限外トス
第二條 陸軍經營部ハ近衛監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛經營部ト稱シ師團監督部所在地ニ在ルモノヲ其地陸軍經營部ト稱ス

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三號(官報一月十二日)
陸軍定員令中左ノ通改正ス

一 附表第十一號「近衛監督部定員表」ヲ廢ス
一 附表第十一號「師團監督部定員表」ニ左ノ備考ヲ追加ス
近衛師團監督部各課ニ「(一)(二)(三)等軍吏各一名及同部ニ下士三名ヲ增加ス

〔參照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令明治二十三年十一月四日官報抄録
第十一號等

近衛監督部定員表

區分	階級			計
	第一課	第二課	第三課	
第一課	課長	課長	課長	一
第二課	課長	課長	課長	二
第三課	課長	課長	課長	三
計	一	二	三	一〇
	一	二	三	一八

朕茲ニ外交官領事官貿易事務官公使館領事館書記生ノ本俸支給ニ關スル件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

外務大臣子爵板本武揚

勅令第四號(官報一月十二日)

外交官領事官貿易事務官ノ本俸ハ海外在勤中ニ限り年額ヲ十二分シ共一分ヲ一箇月分ト爲シ毎月末日ニ之ヲ給ス
歸朝又ハ任所替ノ爲メ任地ヲ離ルヽトキハ日割ヲ以テ出發前日ニ之ヲ給ス公使館書記生領事館書記生任地ヲ離ルヽトキ亦同シ

朕府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

文部大臣伯爵大木喬任

勅令第五號(官報一月十二日)

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第一項ニ依リ府縣立師範學校長ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ明治二十三年勅令第百二十五號官吏遺族扶助料法納金收入規則ニ依リ收納スヘシ

府縣立師範學校正教員及公立中學校長正教員ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ每翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第二項ニ依リ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ毎年四月十日及十月十日マテニ其前六箇月分ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

〔參照〕

法律第九十一號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法(明治二十三年十月三日官報抄録)第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ 府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十一日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

- 文部 大臣 伯爵大木喬任
- 外務 大臣 伯爵榎本武揚
- 逓信 大臣 伯爵後藤象二郎
- 海軍 大臣 伯爵樺山資紀
- 農商務 大臣 陸奥宗光
- 陸軍 大臣 伯爵高島綱之助
- 司法 大臣 伯爵田中不二麻呂
- 內務 大臣 伯爵品川彌二郎

勅令第六號(官報一月十二日)

明治二十四年勅令第三號中左ノ通改正ス

第一條 各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中共司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

〔參照〕

法律第二十九號民事訴訟法(明治二十三年四月二十一日官報抄録)
第十四條 國ノ普通裁判權ハ訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル但訴訟ニ付キ國ヲ代表スルニ付テノ規

勅令第三號(明治二十四年一月七日官報抄録)
第一條 各省大臣ハ其所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
第二條 北海道廳長官及府縣知事ハ其司掌又ハ監督スル國ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

朕會計検査院ノ検査確定シタル明治二十年度ノ歳入歳出總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十五年一月十三日 内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七號(官報一月十四日)
第一條 明治二十年度ノ歳入決算額ハ八千八百拾六萬七千七百拾四圓參拾錢歳出決算額ハ七千九百四拾五萬參千參拾六圓拾八錢四厘ナリトス
第二條 前條歳入歳出ノ差額八百七拾萬八千參拾八圓拾壹錢六厘ノ内翌年度へ繰越同年度ノ歳入ニ編入シタル金額ハ六百七拾萬參千貳百四拾貳圓四拾錢壹厘準備金へ繰入シタル金額ハ貳百六拾參萬四千七百九拾五圓七拾壹錢五厘ナリトス

明治二十年度歳入歳出總決算

歳入

第一款 内國稅

- 第一項 地租 金六千貳百拾壹萬九千六百九拾參圓四拾四錢壹厘
第二項 所得稅 金四千貳百拾五萬貳千七百七拾壹圓拾四錢四厘
第三項 國立銀行稅 金五拾貳萬七千七百貳拾四圓四拾七錢七厘
第四項 證券印稅 金貳拾貳萬八千八百五拾圓拾六錢
第五項 訴訟用印紙料 金五拾六萬四千參百五圓九拾六錢九厘
第六項 北海道水產稅 金參拾壹萬參千九百貳拾九圓四拾八錢八厘
第七項 米商會所稅 金貳拾貳萬貳百七拾參圓五錢七厘
第八項 株式取引所稅 金九萬貳千五百拾九錢五厘
第九項 酒造稅 金九萬七千七百五拾六圓五拾六錢五厘
第十項 釀造稅 金千參百六萬九千八百七圓八拾參錢五厘
第十一項 醫藥營業稅 金貳萬六千貳拾貳圓
第十二項 醬油稅 金百貳拾五萬貳千七百貳拾壹圓四拾參錢壹厘
第十三項 菓子稅 金五拾九萬五千七百參拾七圓九拾貳錢四厘
第十四項 烟草稅 金百五拾九萬七百五拾壹圓九拾壹錢四厘
第十五項 賣藥稅 金四拾貳萬四千參拾參圓四拾九錢
第十六項 船稅 金貳拾五萬八千九百四拾五圓貳拾貳錢五厘
第十七項 車稅 金五拾七萬七千參百九拾圓參拾參錢五厘
第十八項 度量衡稅 金貳千四百七拾六圓貳拾壹錢參厘

第十八項 牛馬買賣免許稅	金六萬九千參百六拾九圓九拾五錢五厘
第十九項 銃獵免許稅	金五萬七千五百五拾圓五拾錢
第二十項 舊稅追納	金四千七百七拾圓五拾六錢六厘
第二十一項 海關稅	金四百拾參萬五千六百五拾貳圓四拾六錢六厘
第一項 海關稅	金四百拾參萬五千六百五拾貳圓四拾六錢六厘
第一部合計金六千六百貳拾五萬五千參百四拾五圓九拾錢七厘	
第二部	
第一款 免許及手數料	金百參拾六萬四千七百六拾四圓五拾四錢七厘
第一項 免許料	金貳萬六千五百六拾四圓八厘
第二項 手數料	金百參拾四萬四千五百五拾八圓八拾九錢九厘
第二款 郵便及電信收入	金參百四拾萬八千五百五拾九圓六錢貳厘
第一項 郵便收入	金貳百六拾六萬九千七百八拾貳圓貳拾六錢
第二項 電信收入	金七拾參萬七千七拾六圓八拾錢貳厘
第三款 森林收入	金六拾參萬參千五百拾四圓五厘
第一項 貸下料	金壹萬貳千六百參拾五圓九拾錢壹厘
第二項 拂下代	金六拾萬參千貳百五拾參圓九厘
第三項 雜入	金壹萬七千六百貳拾五圓九錢五厘
第四款 官有物貸下及拂下代	金九拾八萬四千七百六拾壹圓參拾九錢四厘
第一項 貸下料	金貳拾五萬七千貳百五拾壹圓參拾壹錢五厘
第二項 拂下代	金七拾貳萬七千五百拾圓七錢九厘
第五款 貸付返納金	金六拾八萬六千四百貳拾七圓七拾四錢七厘

第一項 貸付返納金	金六拾八萬六千四百貳拾七圓七拾四錢七厘
第六款 雜收入	金貳百四拾七萬六千八百五拾貳圓九拾八錢八厘
第一項 鐵山借區稅	金貳萬九千七百七拾五圓七拾四錢
第二項 官報賣下代	金拾五萬五千四百貳圓五拾六錢六厘
第三項 懲罰及沒收金	金參拾八萬七千六百六拾六圓參拾五錢參厘
第四項 辨償金	金壹萬貳千百參拾參圓四拾九錢五厘
第五項 雜入	金六拾四萬七千六百六拾五圓五錢九厘
第六項 敵傍艦保險金	金百貳拾四萬五千參百九圓七拾七錢五厘
第七款 官業諸收入	金百六拾七萬九千五百六圓參拾七錢貳厘
第一項 官業益金	金百六拾七萬參千七百四拾壹圓貳拾貳錢壹厘
第二項 官業收入	金五千七百六拾五圓拾五錢壹厘
第八款 官業資本返納金	金壹萬參千四百七拾六圓參拾六錢六厘
第一項 官業資本返納金	金壹萬參千四百七拾六圓參拾六錢六厘
第二部合計金千六百貳拾四萬百六拾貳圓四拾八錢壹厘	
第三部	
第一款 海軍公債募集金	金六百四萬八千七百貳拾五圓拾四錢九厘
第一項 海軍公債募集金	金六百四萬八千七百貳拾五圓拾四錢九厘
第二款 防海費御補助金	金拾萬圓
第一項 防海費御補助金	金拾萬圓
第三款 防海費獻納金	金百六拾四萬七千參百六拾四圓五拾五錢四厘
第一項 防海費獻納金	金百六拾四萬七千參百六拾四圓五拾五錢四厘

第四款 整理公債部繰入
 第一款 整理公債部繰入 金七拾貳萬九千貳拾八圓七拾九錢貳厘
 第二款 起業基金部繰入 金七拾貳萬九千貳拾八圓七拾九錢貳厘
 第一款 起業基金部繰入 金參萬八千貳百六拾參圓拾六錢五厘
 第二款 前年度繰越金 金參萬八千貳百六拾參圓拾六錢五厘
 第一款 前年度繰越金 金貳百拾萬貳千八百四拾四圓貳拾五錢貳厘
 第二款 前年度繰越金 金貳百拾萬貳千八百四拾四圓貳拾五錢貳厘
 第三部合計金千六百六拾五萬五千五百六拾五圓九拾壹錢貳厘
 歲入總計金八千八百拾六萬七千七拾四圓參拾錢

歲出

第一部
 第一款 國債費 金貳千四百拾壹萬九千六百九拾圓拾六錢七厘
 第二款 國債償還 金四百五拾參萬九千四百七拾六圓七拾錢參厘
 第三款 公債利子 金千五百九拾貳萬九千九百貳拾六圓八拾貳錢壹厘
 第四款 公債手續料 金七萬六千七百七拾參圓九拾七錢五厘
 第五款 大藏省證券 金七拾壹萬六千貳百貳拾五圓六拾貳錢四厘
 第六款 一時立替金 金拾貳圓八錢貳厘
 第七款 公債整理金部繰入 金拾萬四千四百八拾七圓九拾六錢
 第八款 一時借入金 金五萬參千五百八拾七圓貳厘
 第九款 賞勳年金 金拾四萬千參百拾五圓七拾六錢壹厘
 第十款 終身年金 金拾參萬八千八百拾五圓七拾六錢壹厘

第二項 有期年金

第三款 恩給 金貳千五百圓
 第一款 文官恩給 金貳拾五萬四千四百拾五圓四拾五錢四厘
 第二款 陸軍恩給 金貳萬九千參百貳拾九圓八拾五錢壹厘
 第三款 海軍恩給 金拾九萬七千六百八拾四圓貳拾參錢八厘
 第四款 諸祿 金貳萬四千四百參拾壹圓參拾六錢五厘
 第一款 沖繩縣金祿 金拾五萬五千八百六拾壹圓八拾七錢六厘
 第二款 鹿兒島縣金祿 金拾五萬貳千四拾七圓四拾壹錢四厘
 第三款 沖繩縣社祿 金貳拾四圓六錢六厘
 第四款 沖繩縣寺祿 金貳千六拾七圓七拾八錢五厘
 第五款 熊本縣遞減祿 金千六百九拾貳圓六拾壹錢六厘
 第一款 非職俸給 金貳拾九圓九拾九錢五厘
 第二款 非職俸給 金參拾五萬千七百五拾四圓八拾五錢參厘
 第一部合計金貳千貳百參拾貳萬六拾八圓拾壹錢壹厘
 第二款 帝室費 金貳百五拾萬圓
 第一款 帝室費 金貳百五拾萬圓
 第二款 神社費 金貳拾五萬六千五百貳拾參圓參拾壹錢六厘
 第一款 神社費 金壹萬六千六百九拾參圓
 第二款 神宮營繕費 金七百九拾圓
 第三款 招魂社費 金貳千七百六拾六圓八拾五錢參厘

- 第四項 招魂社營繕費 金九千五百拾五圓參拾四錢七厘
- 第五項 國幣社例祭幣帛料 金千七百四拾五圓
- 第六項 國幣社保存費 金九萬六千參百四拾貳圓
- 第七項 國幣社保存費 金六萬九千九百九拾四圓
- 第八項 神社補充費 金四萬七千五百九拾八圓
- 第九項 官國幣社營繕費 金參千九百八拾九圓拾壹錢六厘
- 第十項 靖國神社寄附金 金七千五百五拾圓

第二部合計金貳百七拾五萬六千五百貳拾參圓參拾壹錢六厘

第三部

內閣所管

- 第一款 內閣
 - 第一項 俸給及諸給 金五拾八萬參千五百貳拾壹圓六拾五錢貳厘
 - 第二項 廳費 金貳拾五萬四千百參圓參拾六錢壹厘
 - 第三項 旅費 金五萬參千六百八圓七拾六錢壹厘
 - 第四項 刊行費 金貳萬五千九拾四圓八拾八錢壹厘
 - 第五項 褒賞費 金拾貳萬七千五百五拾參圓五錢四厘
 - 第六項 營繕費 金壹萬九千百參拾四圓五拾錢貳厘
 - 第七項 機密費 金貳萬四千四拾參圓參拾七錢八厘
- 外務省所管
 - 第一款 外務本省
 - 第一項 俸給及諸給 金拾五萬九千參百八拾九圓七拾壹錢八厘
 - 第二項 旅費 金拾壹萬五千六百四拾五圓六拾錢參厘

- 第二項 廳費 金貳萬八千八百八圓九厘
 - 第三項 旅費 金六千九百五拾圓九拾七錢壹厘
 - 第四項 宴會費 金四千四百八拾七圓拾九錢八厘
 - 第五項 營繕費 金四千四百九拾七圓九拾參錢七厘
- 第二款 在外公館
- 第一項 俸給及諸給 金五拾七萬參千九百六拾壹圓六拾五錢六厘
 - 第二項 廳費 金參拾八萬七千六百六拾六圓參拾九錢八厘
 - 第三項 宴會費 金七萬五千四百九拾參圓七拾六錢
 - 第四項 旅費 金壹萬七千七拾六圓貳拾八錢貳厘
 - 第五項 裁判及囚徒費 金參萬六千七拾參圓貳拾五錢四厘
 - 第六項 外國留學生費 金八百八拾四圓八拾貳錢五厘
 - 第七項 機密費 金壹萬五百八拾六圓七拾九錢五厘
 - 第八項 在外國難民貸與金 金四萬四千圓
 - 第九項 營繕費 金參百拾參圓九拾五錢
- 第三款 現金仕拂殘翌年度繰越
- 第一項 現金仕拂殘翌年度繰越 金七千九百拾六圓參拾九錢貳厘
 - 外務省所管合計金七拾五萬四千七百七拾九圓七拾錢貳厘
 - 內務省所管
 - 第一款 內務本省
 - 第一項 俸給及諸給 金八拾六萬參千貳百四拾圓六拾錢六厘
 - 第二項 廳費 金貳拾七萬千六拾九圓四拾七錢貳厘

第三項	旅費	金貳萬七百九拾九圓九拾貳錢五厘
第四項	營繕費	金參萬貳千七百九拾八圓九拾五錢四厘
第五項	集治監費	金四拾五萬四千百拾壹圓七拾五錢參厘
第六項	警官練習所費	金壹萬四千五百八拾參圓八錢八厘
第二款 土木費		
第一款	土木監督區署費	金百四拾九萬四千九百八拾圓五厘
第二款	利根川筋改築工費	金拾貳萬五千六百四拾七圓四拾九錢五厘
第三款	富士川筋改築工費	金拾壹萬參百七拾六圓六拾參錢四厘
第四款	天龍川筋改築工費	金五萬九千四百九圓參拾貳錢七厘
第五款	大井川筋改築工費	金四萬九千九百九拾參圓拾六錢壹厘
第六款	北上川筋改築工費	金七百參拾六圓六拾八錢八厘
第七款	最上川筋改築工費	金八萬四千八百四拾五圓貳拾四錢四厘
第八款	阿武隈川筋改築工費	金參萬參千九百八拾參圓拾七錢參厘
第九款	信濃川筋改築工費	金四百七拾六圓九拾八錢參厘
第十款	阿賀野川筋改築工費	金拾貳萬七千六百九圓貳拾五錢
第十一款	庄川筋改築工費	金參百八拾九圓八拾參錢
第十二款	淀川筋改築工費	金五百貳圓四拾錢參厘
第十三款	水曾川筋改築工費	金五萬八千參百八拾八圓四拾七錢六厘
第十四款	吉野川筋改築工費	金貳拾八萬六千五百四拾七圓九拾壹錢
第十五款	筑後川筋改築工費	金參萬九千貳拾八圓七拾六錢九厘
第十六款	對馬國嚴原道路開鑿費	金四萬五千七百四拾八圓貳拾六錢五厘
金壹萬圓		

第十七項	土木費補助	金四拾六萬九千貳百九拾六圓參拾九錢七厘
第三款 補助費		
第一款	營繕費補助	金拾參萬千參拾貳圓四拾參錢四厘
第二款	測候費補助	金拾壹萬六千五百參拾貳圓四拾參錢四厘
第三款	古社寺保存費	金四千五百圓
第四款 流行病豫防費		
第一款	檢疫費	金壹萬圓
第二款	警視廳	金百貳拾七圓四拾壹錢五厘
第三款	俸給及諸給	金四拾貳萬九千貳拾圓八錢八厘
第四款	馬匹費	金貳拾八萬六千參百七拾參圓五拾五錢九厘
第五款	機密費	金參萬參千八百參拾四圓壹錢四厘
第六款	恩賞費	金五百九拾五圓
第七款	旅費	金五千貳百九拾九圓九拾壹錢貳厘
第八款	營繕費	金百五拾六圓七拾錢
第九款	東京府下外國人居留地取捨費	金貳千九百九拾九圓四拾貳錢五厘
第十款	伊豆七島警察費	金五萬八百貳拾八圓拾八錢貳厘
第十一款	特別警衛費	金參千貳百貳拾六圓拾九錢七厘
第十二款	府縣費	金千六百五圓參拾貳錢九厘
第十三款	備給及諸給	金四萬四千百壹圓七拾七錢
第十四款	廳費	金二百拾五萬參千六百七圓七拾六錢六厘
第十五款	府縣費	金貳百八拾四萬參千貳百九拾五圓八拾五錢四厘
第十六款	廳費	金參拾五萬七千七百五拾圓九拾參錢九厘

- 第三項 旅費 金六拾五萬九千貳百九拾五圓四拾五錢壹厘
- 第四項 恩賞及救助費 金拾參萬五百四拾圓八拾八錢壹厘
- 第五項 難破船及海員取扱費 金貳千圓參拾參錢六厘
- 第六項 獸疫費 金八百四拾九圓六拾錢
- 第七項 船舶費 金八百參拾五圓七拾參錢壹厘
- 第八項 警察費 金百參拾萬參千六百五拾六圓參拾貳錢貳厘
- 第九項 賠償金 金六百九拾圓貳拾壹錢貳厘
- 第十項 雜金爲換手數料 金四拾八圓六拾錢五厘
- 第十一項 古墳取款費 金貳拾參圓六錢
- 第十二項 製糖資本貸下金 金五千五百五拾九圓四拾壹錢八厘
- 第十三項 隱岐國國稅金取扱費 金拾九圓六拾貳錢壹厘
- 第十四項 外國人居留地取扱費 金八萬千參拾壹圓貳拾貳錢壹厘
- 第十五項 營繕土木費 金拾九萬五千七百貳拾七圓四拾貳錢七厘
- 第十六項 公使館敷地買上及修繕費 金千四拾九圓參拾四錢參厘
- 第十七項 橫濱水道改築工費 金參拾貳萬四千六圓拾七錢參厘
- 第十八項 新江用水路腐蝕米手當 金參千四拾四圓八拾貳錢壹厘
- 第十九項 道敷買上代利子 金參拾七圓四錢八厘
- 第二十項 蠶種檢查費 金參百五拾九圓貳拾六錢八厘
- 第二十一項 栃木縣火災費 金壹萬貳千九拾壹圓八拾七錢八厘
- 第二十二項 和歌山縣火災費 金九百九拾四圓貳拾壹錢九厘
- 第二十三項 臨時汽船借入及通信費 金百七圓九拾八錢

- 第二十四項 授產及補助費 金五千七百五拾圓七拾四錢四厘
- 第二十五項 小笠原島地方費 金壹萬參百參拾參圓八拾錢四厘
- 第二十六項 沖繩縣地方費 金拾九萬參千五百五拾五圓四拾貳錢
- 第二十七項 沖繩縣會及學校社寺臨時修繕費 金五千八百八拾七圓五拾九錢
- 第二十八項 對馬地方警察費 金八千七拾圓七拾錢八厘
- 第二十九項 大島地方警察費 金八千九拾四圓九錢貳厘
- 第七款 奈良縣創立費 金四千五百五拾五圓七拾參錢九厘
- 第一項 俸給及諸給 金拾五圓
- 第二項 廳費 金千九百九拾參圓五拾六錢九厘
- 第三項 旅費 金貳千四拾七圓拾七錢
- 第八款 現金仕拂殘翌年度繰越 金五拾六圓六拾八錢四厘
- 第一項 現金仕拂殘翌年度繰越 金五拾六圓六拾八錢四厘
- 內務省所管合計金九百七萬六千六百貳拾圓七拾參錢七厘
- 大藏省所管
- 第一款 大藏本省 金百五拾六萬四千八百貳拾貳圓參拾貳錢九厘
- 第一項 俸給及諸給 金四拾壹萬五千七百七拾九圓八拾參錢九厘
- 第二項 廳費 金拾四萬貳千九百九拾五圓六拾四錢九厘
- 第三項 貨幣取扱費 金六拾四萬八千四百貳拾九圓拾錢五厘
- 第四項 旅費 金六萬九千貳百參拾四圓八拾九錢參厘
- 第五項 證券印紙類製造及買戻費 金貳拾參萬千五百參拾九圓拾七錢五厘
- 第六項 海軍公債募集費 金貳萬八百九拾參圓四拾五錢參厘

第七項 營繕費

- 第二款 稅關
 - 第一項 俸給及諸給 金貳拾萬參百六拾圓貳拾六錢五厘
 - 第二項 廳費 金拾五萬千四拾六圓貳拾六錢六厘
 - 第三項 船舶費 金貳萬九千八百七拾九圓九錢壹厘
 - 第四項 旅費 金參千六百七拾七圓八拾錢參厘
 - 第五項 營繕費 金六千壹圓七拾四錢
 - 第六項 從價稅品買上代 金七千五百七拾八圓貳錢五厘
- 第三款 內國稅徵收費
 - 第一項 俸給及諸給 金百八拾五萬九千貳百八拾四圓九拾四錢九厘
 - 第二項 廳費 金九拾四萬七百六圓五拾六錢八厘
 - 第三項 印紙鑑札取扱費 金拾參萬貳千貳百四拾七圓五拾八錢九厘
 - 第四項 旅費 金壹萬五千貳百七拾四圓拾錢六厘
- 第四款 諸拂戻及缺損金
 - 第一項 租稅過誤納下戻 金六萬九千六百貳拾八圓五拾六錢九厘
 - 第二項 租稅拂戻 金貳萬九千九百七拾九圓四拾壹錢八厘
 - 第三項 賭收入過誤納下戻 金千五百參拾六圓貳拾貳錢壹厘
 - 第四項 缺損金 金壹萬六千貳百九拾圓八拾錢六厘
 - 第五項 印紙返納代金道拂 金貳萬千六百拾八圓貳拾五錢參厘
 - 第六項 印紙返納代金 金百五拾九圓四拾九錢
 - 第五款 備荒儲蓄 金四拾四圓參拾八錢壹厘
 - 金百貳拾萬圓

第一項 中央儲蓄

- 第二款 府縣下渡金
 - 第一項 日本鐵道會社補助 金參拾萬圓
 - 第二項 日本郵船會社補助 金九拾萬圓
- 第七款 勸業資本
 - 第一項 勸業資本 金參拾四萬參千七百五拾圓
- 第八款 紙幣銷却元資繰入
 - 第一項 紙幣銷却元資繰入 金參百萬圓
- 第九款 森林資金繰入
 - 第一項 森林資金繰入 金五拾貳萬千六百四拾圓五拾參錢八厘
 - 第十款 興業費
 - 第一項 三池鑛山局 金五拾貳萬千六百四拾圓五拾參錢八厘
 - 第二項 生野鑛山局 金拾九萬八千八百九拾壹圓八拾八錢參厘
 - 第三項 佐渡鑛山局 金七萬參百五拾圓
- 第一款 陸軍本省
 - 第一項 陸軍本省所管 大藏省所管合計金千拾參萬九千八百八拾六圓六拾七錢七厘
 - 陸軍省所管 金八萬五千圓
- 第一款 陸軍本省
 - 第一項 俸給及諸給 金參拾六萬六千四拾圓六拾四錢九厘
 - 第二項 廳費 金貳拾五萬百貳拾九圓拾八錢八厘
 - 第三項 旅費 金六萬八千六百參拾參圓九拾錢六厘
 - 金四萬七千貳百七拾七圓五拾五錢五厘

第二款 軍事費

- 第一項 俸給及諸給 金千百拾七萬千四百九圓拾壹錢參厘
- 第二項 廳費 金四百壹萬貳千六百八拾九圓六拾錢四厘
- 第三項 機密費 金七拾四萬五千貳拾圓八拾貳錢
- 第四項 行軍及演習費 金壹萬四千八百六拾四圓四拾七錢
- 第五項 兵器彈藥費 金參拾萬參千參百參拾九圓八拾四錢四厘
- 第六項 旅費 金九拾八萬參千七百四拾參圓六拾五錢六厘
- 第七項 糧食費 金參拾壹萬六千貳百參拾六圓參拾參錢
- 第八項 被服費 金百六拾八萬千四百拾壹圓參拾壹錢參厘
- 第九項 營繕費 金百七拾四萬七千八拾五圓九拾五錢九厘
- 第十項 馬匹費 金八拾四萬九千貳拾六圓貳拾八錢壹厘
- 第十一項 治療費 金四拾貳萬參千六百貳拾六圓七拾五錢九厘
- 第十二項 囚徒費 金參萬五千九拾六圓六拾七錢參厘
- 第十三項 供奉費 金貳萬八百參拾七圓參拾五錢參厘
- 第十四項 賠償金 金參百參拾九圓貳拾五錢五厘
- 第十五項 缺損金 金百九拾五圓壹錢貳厘
- 第十六項 練兵場買入費 金千參百四拾九圓八拾貳錢七厘
- 第十七項 憲兵費 金參萬六千七百拾五圓九拾五錢七厘
- 第十八項 俸給及諸給 金貳拾貳萬七千五百九拾貳圓九拾四錢
- 第十九項 廳費 金六萬四千五百拾貳圓四拾九錢六厘
- 第二十項 旅費 金參千八百參拾壹圓五拾四錢壹厘

第四項 營繕費

第五項 機密費

第六項 囚徒費

第四款 營業資本

第一項 東京砲兵工廠

第二項 大阪砲兵工廠

第五款 興業費

第一項 東京砲兵工廠火藥製造所建設

第二項 千住製鐵所

陸軍省所管合計

海軍省所管

第一款 海軍本省

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第三項 旅費

第四項 營繕費

第二款 軍事費

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第三項 旅費

第四項 營繕費

第五項 機密費

第六項 囚徒費

第七項 營業資本

第八項 東京砲兵工廠

第九項 大阪砲兵工廠

第十項 興業費

第十一項 東京砲兵工廠火藥製造所建設

第十二項 千住製鐵所

陸軍省所管合計

海軍省所管

第一款 海軍本省

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第三項 旅費

第四項 營繕費

第二款 軍事費

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第三項 旅費

第四項 營繕費

第五項 機密費

第六項 囚徒費

第七項 營業資本

第八項 東京砲兵工廠

第九項 大阪砲兵工廠

第十項 興業費

第五項	機密費	金壹萬千參百七拾圓貳拾六錢參厘
第六項	石炭費	金拾四萬四千參百七拾五圓六拾五錢
第七項	下士卒被服費	金參拾萬七千參百六拾五圓參拾七錢參厘
第八項	囚徒費	金五千八百拾圓五拾壹錢九厘
第九項	艦船修理費	金參拾壹萬九千七百九拾參圓貳拾八錢九厘
第十項	兵器及水雷費	金五拾參萬九千九百四拾壹圓貳拾九錢八厘
第十一項	治療費	金貳萬貳千六百貳拾參圓六拾五錢四厘
第十二項	學生費	金七萬六千八百四拾圓拾參錢七厘
第十三項	扶助金	金拾壹萬千六百九拾四圓八拾貳錢七厘
第十四項	行軍演習費	金壹萬千四百五拾壹圓五拾九錢五厘
第三款 特別費		
第一項	造船費	金四百六拾七萬貳千五百貳拾五圓貳拾五錢八厘
第二項	海防水雷費	金貳百參拾參萬六千五百五拾貳圓七拾七錢九厘
第三項	吳鎮守府設立費	金五拾貳萬貳千五百參拾參圓九拾壹錢
第四項	佐世保鎮守府設立費	金六拾六萬四千四百五拾參圓拾貳錢四厘
第五項	火藥製造所建築費	金四拾萬貳千貳百貳拾參圓拾壹錢
第六項	長浦海堀割費	金六千九百五拾七圓六拾貳錢五厘
第七項	兵器費	金五萬千九百六拾七圓參拾壹錢八厘
第八項	兵學校設立費	金參拾貳萬貳千八百九拾六圓參拾參錢八厘
第九項	火藥費	金拾九萬參千九百六拾四圓四錢九厘
第四款	興業費	金拾七萬四千參百七拾七圓壹錢五厘
		金九萬貳千八百參圓五拾八錢九厘

第一項	小野濱造船所購買費	金九萬貳千八百參圓五拾八錢九厘
第五款	營業資本	金四萬千七百四拾參圓七錢五厘
第一項	小野濱造船所	金四萬千七百四拾參圓七錢五厘
海軍省所管合計金九百七拾四萬八千五百九拾五圓六拾九錢八厘		
司法省所管		
第一款	司法本省	金貳拾參萬八千參百參拾參圓貳拾四錢七厘
第一項	俸給及諸給	金拾六萬四千四百九拾七圓七錢貳厘
第二項	廳費	金四萬八千參百參拾八圓九拾七錢七厘
第三項	旅費	金壹萬貳千九百貳拾參圓七拾貳錢六厘
第四項	生徒費	金壹萬貳千九百貳拾參圓七拾貳錢六厘
第五項	營繕費	金四千四百四拾壹圓四拾五錢參厘
第二款	大審院及各裁判所	金貳百六拾九萬貳千九百參拾圓壹錢參厘
第一項	俸給及諸給	金百六拾九萬七千五百八拾參圓貳拾壹錢八厘
第二項	廳費	金參拾壹萬五千六百九拾七圓拾錢壹厘
第三項	旅費	金九萬參拾參圓五拾壹錢參厘
第四項	學生養成費	金參萬圓
第五項	機密費	金四百拾貳圓五拾七錢九厘
第六項	營繕費	金貳拾七萬四千七百七拾五圓七拾錢六厘
第七項	那區役所戶長役場登記所費	金貳拾參萬七千九百五拾八圓九拾五錢貳厘
第八項	登記所補助費	金四萬六千拾參圓
第九項	賠償金	金四百五拾五圓九拾四錢四厘

司法部所管合計金貳百九拾參萬千貳百六拾參圓貳拾六錢

文部省所管

- 第一款 文部本省
 - 第一項 俸給及諸給 金五拾壹萬九千參百六拾圓八拾八錢八厘
 - 第二項 廳費 金拾五萬貳百拾六圓拾九錢九厘
 - 第三項 旅費 金參萬貳千七百八拾六圓七拾七錢參厘
 - 第四項 學生費 金壹萬六千七百七拾八圓八錢九厘
 - 第五項 圖書標本費 金參千參百六拾五圓八拾九錢參厘
 - 第六項 營繕費 金貳拾九萬千四百七拾七圓五拾九錢四厘
- 第二款 諸學校
 - 第一項 俸給及諸給 金五拾八萬九千七百貳拾七圓五拾九錢九厘
 - 第二項 校費 金拾壹萬千貳百六拾參圓五厘
 - 第三項 旅費 金壹萬貳拾圓拾九錢四厘
 - 第四項 學生費 金貳萬參千參百貳拾壹圓五拾五錢貳厘
 - 第五項 營繕費 金貳萬參千六百拾壹圓五拾錢九厘
 - 第六項 高等中學校創立費 金貳萬六千五百圓
 - 第七項 缺損金 金九拾五圓六拾參錢壹厘
- 第三款 補助金
 - 第一項 獨逸學協會學校補助 金壹萬圓
 - 第二項 明盲啞院補助 金參千圓

文部省所管合計金百拾貳萬貳千八百八圓五拾壹錢七厘

農商務省所管

- 第一款 農商務本省
 - 第一項 俸給及諸給 金五拾萬六千六百參拾圓七拾九錢六厘
 - 第二項 廳費 金貳拾四萬七千七百六拾圓貳拾八錢壹厘
 - 第三項 旅費 金九萬七千七百拾六圓貳拾參錢九厘
 - 第四項 營繕費 金參萬四千四百參拾四圓五拾七錢九厘
 - 第五項 試驗費 金貳萬貳千七百六拾五圓七拾八錢壹厘
 - 第六項 府縣聯合共進會費 金四千六百八圓貳拾八錢四厘
 - 第七項 農林學校費 金壹萬圓
 - 第八項 下總牧場費 金七萬七千八百七拾四圓八錢四厘
- 第二款 補助費
 - 第一項 農工業費補助 金壹萬四千七百參拾四圓五拾參錢九厘
 - 第二項 營業資本缺額補助 金壹萬四千四百六拾八圓六拾九錢貳厘
- 第三款 營業資本缺額補助
 - 第一項 富岡製絲所 金壹萬四千四百六拾八圓六拾九錢貳厘
 - 第二項 農商務省所管合計金五拾參萬五千八百參拾四圓貳錢七厘
- 遞信省所管
 - 第一款 遞信本省
 - 第一項 俸給及諸給 金參百六拾四萬千貳百參拾貳圓六拾七錢九厘
 - 第二項 廳費 金九拾四萬八百參拾參圓拾錢七厘
 - 第三項 旅費 金參拾六萬貳千七百四圓四厘
 - 第四項 營繕費 金六萬七千四百七拾五圓六拾六錢八厘

農商務省所管合計金百拾貳萬貳千八百八圓五拾壹錢七厘

第五項	燈臺諸標營繕費	金壹萬九百六拾七圓拾九錢六厘
第六項	電信機營繕費	金拾八萬八千參百九拾圓五錢
第七項	船舶費	金五千百拾貳圓九拾四錢
第八項	切手類製造買戻及取扱費	金貳拾七萬八千六拾圓貳錢九厘
第九項	萬國郵便及電信聯約費	金八百貳拾八圓拾參錢
第十項	郵便及電信費	金百四拾貳萬八千拾七圓貳拾九錢七厘
第十一項	爲換及貯金費	金六萬九千貳百參拾九圓五拾參錢壹厘
第十二項	東京商船學校費	金貳萬千貳百參拾九圓五拾七錢六厘
第十三項	電信修技學校費	金參千四圓拾五錢九厘
第十四項	東京電信學校費	金貳萬參千參百九拾貳圓拾錢九厘
第十五項	缺捐金	金四千九百八拾參圓四拾參錢貳厘
第二款	補助費	金貳萬八千圓
第一項	航海補助費	金貳萬八千圓
第二款	逕信省所管合計金參百六拾六萬九千貳百參拾貳圓六拾七錢九厘	
元老院所管		
第一款	元老院	金貳拾八萬八千八百九拾六圓五拾八錢四厘
第一項	俸給及諸給	金貳拾七萬參千七百拾八圓參拾四錢六厘
第二項	廳費	金壹萬參千九百七拾四圓九拾八錢貳厘
第三項	旅費	金貳百九拾貳圓九拾貳錢
第四項	營繕費	金九百拾圓參拾參錢六厘
會計検査院所管		

第一款	會計検査院	金八萬參千五百六拾壹圓六錢六厘
第一項	俸給及諸給	金七萬參千五百拾八圓五拾貳錢參厘
第二項	廳費	金六千五百五拾參圓貳拾四錢貳厘
第三項	旅費	金貳千九百九拾壹圓五拾貳錢
第四項	營繕費	金四百九拾七圓七拾八錢壹厘
第二款	鐵道局所管	
第一款	鐵道局	金壹萬八千七百六拾五圓七拾四錢參厘
第一項	俸給及諸給	金壹萬四千四百參拾四圓貳拾參錢六厘
第二項	廳費	金千七百四拾六圓五拾八錢七厘
第三項	旅費	金千九百七拾圓
第四項	營繕費	金參百五拾九圓九拾貳錢
第五項	學生費	金貳百五拾五圓
第三款	北海道廳所管	
第一款	北海道廳	金貳百貳拾壹萬貳千五百拾八圓拾九錢六厘
第一項	俸給及諸給	金四拾四萬參千八百參拾壹圓四拾四錢六厘
第二項	廳費	金拾參萬四千六拾參圓六拾七錢五厘
第三項	旅費	金九萬九千九百四圓拾壹錢九厘
第四項	營繕土木費	金四萬五千六百五拾參圓八拾參錢四厘
第五項	土地買上代	金千五拾七圓八拾錢五厘
第六項	印紙鑑札取扱費	金五拾參圓貳拾八錢八厘
第七項	新起事業費	金五拾九萬九千參百貳拾四圓拾參錢八厘

準備繰入額 金貳百八拾參萬四千七百九拾五圓七拾壹錢五厘

朕陸軍高等官銜副官條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第八號(官報一月十八日)

陸軍高等官銜副官條例第二條七項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス
八 屯田兵副官

〔參照〕

勅令第三十三號陸軍高等官銜副官條例(明治二十一年五月十四日官報抄録)
第二條 高等官銜副官ト稱スルモノ左ノ如シ

- 一 陸軍省副官
- 二 監軍本部副官
- 三 監軍部副官
- 四 監軍部各監副官
- 五 近衛副官
- 六 師團副官
- 七 旅團副官

朕海軍大佐及同等官並海軍大尉及同等官ノ恩給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月二十五日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第九號(官報一月二十六日)

明治二十四年勅令第五百五十七號海軍武官官階制定ノ後ニ於ル海軍大佐及同等官並同大尉及同等官ノ恩給ハ左ノ通取扱フヘシ

- 一 大佐及同等官ニシテ實役停年最下限ノ半數ヲ過キサル者ニハ奏任二等ノ欄内ニ掲クル金額ヲ支給ス
- 二 大尉及同等官ニシテ實役停年最下限ノ半數ヲ過キサル者ニハ奏任五等ノ欄内ニ掲クル金額ヲ支給ス

朕明治二十四年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月二十五日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第十號(官報一月二十六日)

震災ニ罹ル土地検査及檢稅旅費ハ明治二十四年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充スルコトヲ得

朕公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ豫戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年一月二十八日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
司法大臣 子爵 田中不二麿
內務大臣 子爵 品川彌二郎

勅令第十一號

豫戒令

- 第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒令ヲ爲スコトヲ得
 - 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
 - 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
 - 三 公私ヲ問ハズ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
 - 四 第二號又ハ第三號ニ掲グル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者
- 第二條 豫戒令ハ左ノ如シ
 - 一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ従事スヘキコトヲ命ス
 - 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
 - 三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハズ暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

命ス

- 四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス
- 第三條 豫戒令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ
- 第四條 豫戒令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス
 - 第二條第一號ノ違反者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 第二條第二號ノ違反者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス
 - 第二條第三號ノ違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ
 - 第二條第四號ノ違反者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第三條ノ違反者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五條 豫戒令ヲ爲スニハ命令書ヲ作リ其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違反者

ノ罰例竝ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ後改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違反ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕コロンブス世界博覽會ニ關スル物件ノ買賣貸借及工事請負ヲ隨意契約ニ依リ處分スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年二月一日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第十二號 (官報二月二日)
 明治二十六年北米合衆國シカゴ府ニ於テ開設スルコロンブス世界博覽會ニ關スル物件ノ買賣貸借及工事請負ハ隨意契約ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

朕副領事特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年二月二日

外務大臣子爵榎本武揚

勅令第十三號 (官報二月三日)
 副領事特別任用令
 第一條 領事館書記生ニシテ二級以上ノ俸給ヲ受ケ引續三箇年以上領事代理ヲ勤務シ功績顯著ナル者ハ高等試験ヲ要セス高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ副領事ニ任用スルコトヲ得
 第二條 前條ニ依リ副領事ニ任用セラレタル者ハ高等試験ヲ經スシテ領事ニ陞任スルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ任用シタル領事及副領事ハ高等試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

朕茲ニ朝鮮國左勸警部巡查任用及支給規則ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十五年二月二日

外務大臣子爵榎本武揚

勅令第十四號(官報二月三日)

朝鮮國在勸警部巡查任用及支給規則

第一條 朝鮮國在勸警部及巡查ハ外務大臣之ヲ任命ス

第二條 朝鮮國在勸警部ノ任用ハ一般判任官ノ任用法ニ從フ

朝鮮國在勸巡查ノ任用法ハ外務大臣之ヲ定ム

第三條 朝鮮國在勸警部及巡查ハ同國駐劄帝國公使又ハ同國各地駐在帝國領事又ハ其代理者ノ指揮監督ニ屬ス

第四條 朝鮮國在勸警部及巡查ハ引續三箇年間勤務スヘキモノトス

傷疾若クハ疾病ニシテ職務ニ從事スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ外務大臣ハ前項ノ期限ニ拘ラス共辭職ヲ許可スルコトヲ得

第五條 朝鮮國在勸警部巡查三箇年以上勤務シタルトキハ外務大臣ハ公務差支ナキ場合ニ限リ本人ノ願ニ依リ往復日數ヲ除キ警部ハ三箇月巡查ハ二箇月以内賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第六條 朝鮮國在勸巡查ニシテ其職務執行ニ關スル規則又ハ上官ノ命令ニ違背シ又ハ職務上怠慢

アルトキハ公使又ハ領事ニ於テ其情狀ヲ審案シ月俸百分ノ一以上一箇月分以下ノ罰俸ヲ科ス但犯狀最モ輕キ者ハ譴責ニ止ム

犯狀重クシテ公使又ハ領事ニ於テ其職ヲ免スルヲ相當ト認メタルトキハ其情狀ヲ外務大臣ニ具申スヘシ

第七條 前條ニ依リ罰俸ヲ科シタルトキハ月俸三分ノ一以内ノ額ヲ毎月俸給ヨリ控除シテ完納セシム

罰俸完納前ニ於テ本人其職ヲ免セラレ又ハ死亡シタルトキハ之ヲ追徵スルコトナシ

第八條 朝鮮國在勸警部ノ月俸ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

朝鮮國在勸巡查ノ月俸ハ八圓乃至拾五圓トス但俸給支給方ハ前項ニ同シ

第九條 朝鮮國在勸警部及巡查ニハ月俸ノ外任地著翌日ヨリ任地出發前日マテ在勸月手當ヲ給ス其金額左ノ如シ

警部 一箇月貳拾圓乃至三拾圓
巡查 一箇月拾五圓乃至貳拾圓

第十條 臨時ノ須要ニ依リ朝鮮國在勸巡查ニ代用スル傭員ニハ月俸拾圓以内ヲ給シ在勸手當ヲ給セス

第十一條 朝鮮國在勸警部及巡查ノ旅費ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ニ依ル但巡查ハ總テ傭員ノ例ニ倣フ

第十二條 旅費ハ警部及巡查ノ赴任官用歸朝賜暇歸朝任所替其他官務旅行ノトキニ限リ給スルモノトス

第十三條 朝鮮國在勸巡查又ハ其遺族ニハ左ノ諸項ニ依テ給助ヲ爲ス

第一 勸續四年ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾

圓ヲ増給ス勸績十年ニシテ退職ノ者ニハ一時金百圓ヲ給シ十年以上ハ一年毎ニ金拾五圓ヲ増給ス

同上ノ年限間勸績シテ死亡シタルトキハ各同上ノ金額ヲ其遺族ニ給ス

第二 職務ノ爲メ負傷又ハ疾病ニ罹ル者ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ適宜療治料ヲ給ス

第三 職務ノ爲メ負傷シ終身不具トナリタル者ハ一時金百圓以上百五十圓以下ニ於テ適宜之ヲ給ス

第四 職務ノ爲メ死亡シタルトキハ第一項賜金ノ外一時金貳百圓ヲ其遺族ニ給ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ給助ヲ爲サス

第一 他ノ報酬ヲ受クヘキ官職ニ轉シタルトキ

第二 懲罰ニ依リ免職セラレタルトキ

第十四條 明治十九年外務省令第二號朝鮮國在勤巡查給與規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

朕會計検査院ノ検査確定シタル明治二十年度中山道鐵道公債金歳出入ノ決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年二月四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第十五號 (官報二月五日)

第一條 明治二十年度中山道鐵道公債金ノ歳出額ハ四百拾五萬圓ナリトス

第二條 前年度歳入餘贏金千七百八拾壹圓九錢八厘過年度返納金四拾八錢貳厘

合計千七百八拾壹圓九錢八厘ノ内前條歳出額四百拾五萬圓ヲ扣除シ其殘額七百貳拾壹萬貳千七百八拾壹圓六拾八錢ハ翌年度ノ歳出ニ充用ス

明治二十年度中山道鐵道公債金歳出決算

歳出

款 中山道鐵道建設費

金參拾萬圓

款 東海道鐵道建設費

金參百八拾五萬圓

合計金四百拾五萬圓

朕會計検査院ノ検査確定シタル明治二十年度ノ整理公債金歳入歳出決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年二月四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第十六號 (官報二月五日)

第一條 明治二十年度ノ整理公債金歳入決算額ハ四百拾七萬貳千五百八圓六拾錢八厘歳出決算額ハ七百六拾貳萬五千五百拾壹圓貳拾七錢六厘ナリトス

第二條 前條歳入額四百拾七萬貳千五百八圓六拾錢八厘前年度歳入餘贏金參百五拾六萬七千七百八拾六圓八拾參錢八厘合計七百七拾參萬九千六百九拾五圓四拾四錢六厘ノ内前條歳出額七百六拾貳萬五千五百拾壹圓貳拾七錢六厘ヲ扣除シ其殘額拾壹萬四千六百四拾四圓拾七錢八厘翌年度ノ歳出ニ充用ス

明治二十年整理公債金歲入歲出決算

歲入

- 第一款 整理公債募集金 金四百壹萬貳千七百八拾壹圓四拾四錢五厘
 - 第一項 整理公債募集金 金四百壹萬貳千七百八拾壹圓四拾四錢五厘
 - 第二款 過年度返納金 金參千四百五拾圓
 - 第一項 過年度返納金 金參千四百五拾圓
 - 第三款 國債費殘餘繰入 金拾五萬六千貳百七拾七圓拾六錢參厘
 - 第一項 國債費殘餘繰入 金拾五萬六千貳百七拾七圓拾六錢參厘
- 歲入合計金四百拾七萬貳千五百八圓六拾錢八厘

歲出

- 第一款 公債償還 金六百七拾六萬五千參百八拾五圓
 - 第一項 公債償還 金六百七拾六萬五千參百八拾五圓
 - 第二款 常用部繰入 金七拾貳萬九千貳拾八圓七拾九錢貳厘
 - 第一項 常用部繰入 金七拾貳萬九千貳拾八圓七拾九錢貳厘
 - 第三款 整理公債募集費 金拾參萬六百參拾七圓四拾八錢四厘
 - 第一項 證書製造費 金四萬九千六百六拾六圓參拾九錢五厘
 - 第二項 證書發行諸費 金八萬九百七拾壹圓八錢九厘
- 歲出合計金七百六拾貳萬五千五拾壹圓貳拾七錢六厘

朕府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及其在職年數ノ算定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年二月八日

文部大臣伯爵大木喬任

勅令第十七號(官報二月九日)

- 第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於テ府縣立師範學校及公立中學校ノ正教員トハ教諭助教諭訓導トシ準教員トハ其他ノ教員トス
- 第二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第六條ニ掲クル府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ準スヘキ官立公立學校職員ト認ムヘキ者左ノ如シ
 - 一 官立學校ノ學校長及教官
 - 二 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十九條第二項ニ依リ退隱料等ノ制ヲ設ケタル公立學校ノ學校長教員ニシテ退隱料等ヲ受クヘキ資格アル者
 - 三 明治二十六年三月三十一日以前小學校ニアラサル公立學校ノ學校長教員ニシテ判任官ノ待遇又ハ判任以上文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者
- 第三條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
- 明治十四年六月以前ヨリ在職ノ者ハ同年同月ヨリ起算ス
- 府縣立師範學校長非職中ノ年數及月數並府縣立師範學校長補在職中ノ年數及月數ハ在職年數ニ算入スヘシ
- 第四條 第二條ニ掲クル官立公立學校職員ヨリ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ轉

- シタル者ノ退隱料等ノ給與上在職年數ニ算入スヘキ年數及月數左ノ如シ
- 第一條 第一ニ掲クル者ニ在テハ官立學校ニ於ケル在官年數ニ對シ官吏恩給法ニ於テ算入スヘキ在官ノ年數及月數
 - 第二條 第二ニ掲クル者ニ在テハ該公立學校ニ於テ退隱料等ノ給與上算入スヘキ在職ノ年數及月數但該公立學校ニ於ケル勤務ニ對シ退隱料ヲ受クル者ハ其退隱料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル前ノ在職年數及月數ヲ算入セシ
 - 第三條 第三ニ掲クル者ニ在テハ該公立學校ニ於ケル在職ノ年數及月數
 - 第五條 左ニ掲クル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ
 - 一 男子年數二十年未滿女子年數十八年未滿ノ在職年數及月數
 - 二 退隱料ヲ受クルノ權利又ハ資格ヲ失ヒタル者再ヒ就職シタルトキハ其前在職ノ年數及月數
 - 三 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項ノ給與ヲ受ケタル者又ハ同條第三項但書ノ申立ナクシテ之ヲ受ケサリシ者再ヒ就職シタルトキハ其前在職ノ年數及月數
 - 四 恩給若クハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ヲ兼ヌルトキハ其兼職中ノ年數及月數

御名 御璽

明治二十五年二月八日

文部大臣 伯爵 大木喬任

朕市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第十八號(官報二月九日)

- 第一條 市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル正教員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
- 第二條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ニ算入スヘシ
 - 一 市町村立小學校正教員休職中ノ年數及月數
 - 二 明治十四年六月以後市町村立小學校訓導ノ職ニ在リタル年數及月數
 - 第三條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ヨリ除算スヘシ
 - 一 男子年數二十年未滿女子年數十八年未滿ノ在職年數及月數
 - 二 退隱料ヲ受クルノ權利又ハ資格ヲ失ヒタル者再ヒ就職シタルトキハ其前在職ノ年數及月數
 - 三 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第八條第一項ノ給與ヲ受ケタル者又ハ同條第三項但書ノ申立ナクシテ之ヲ受ケサリシ者再ヒ就職シタルトキハ其前在職ノ年數及月數
 - 四 恩給若クハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ市町村立小學校正教員ヲ兼ヌルトキハ其兼職中ノ年數及月數

御名 御璽

明治二十五年二月十五日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
 文部大臣 伯爵 大木喬任
 外務大臣 伯爵 大木喬任
 遞信大臣 伯爵 藤原義典

海軍	大臣	臣子 齋藤 山 資 紀
農商務	大臣	臣 陸 奥 宗 光
陸軍	大臣	臣子 齋 高 島 綱 之 助
司法	大臣	臣子 齋 田 中 不 二 麻 呂
內務	大臣	臣子 齋 品 川 彌 二 郎

勅令第十九號
 憲兵隊高知縣派遣費ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支出ス
 一金貳千六百貳拾七圓七拾六錢 憲兵隊高知縣派遣費

御名 御璽

明治二十五年三月二日

内閣總理大臣 齋藤 方正 義
 文部 大臣 齋藤 大 木 喬 任

朕茲ニ札幌農學校教官俸給ノ件ヲ裁可ス
 勅令第二十號(官報 三月三日)
 札幌農學校教官ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ年俸等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

御名 御璽

明治二十五年三月二日

内閣總理大臣 齋藤 方正 義
 陸軍 大臣 齋藤 高 島 綱 之 助

朕陸軍省官制職員定員表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 勅令第二十一號(官報 三月四日)
 陸軍省官制職員定員表中左ノ通改正ス
 大臣官房ノ區畫内副官ノ下「大中尉」ノ四字及秘書官ノ下「少佐」ノ二字ヲ削リ計「二十八」ヲ「三十七」ニ改メ軍務局ノ區畫内第二軍事課課員ニ「少佐大尉」ヲ加ヘ計「七十二」ヲ「七十三」ニ改ム

朕茲ニ屯田步兵隊家屋其他燒失品再給費及憲兵隊派遣費トシテ明治二十四年度豫算外支出ノ件ヲ
 明治二十五年三月 勅令 第二十號 第二十一號 第二十二號 四五

裁可ス

御名 御璽

明治二十五年三月四日

内閣總理大臣兼大藏大臣	伯耆松方正義
文部大臣	伯耆大木喬任
外務大臣	臣子爵榎本武揚
逓信大臣	臣伯爵後藤象二郎
海軍大臣	臣子爵樺山資紀
農商務大臣	臣陸奥宗光
陸軍大臣	臣子爵高島綱之助
司法大臣	臣子爵田中不二麻呂
内務大臣	臣子爵品川彌二郎

勅令第二十二號 (官報 三月五日)
 屯田歩兵隊家屋其他燒失品再給費及憲兵隊派遣費ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支出ス
 一金五百七拾五圓五拾貳錢 屯田歩兵隊家屋其他燒失品再給費
 一金貳千八百壹圓八拾錢 憲兵隊高知縣派遣費増額
 一金千六百六拾壹圓四拾壹錢 憲兵隊佐賀縣派遣費

朕臨時博覽會事務局官制中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二十三號 (官報 三月十一日)
 明治二十四年六月勅令第五十二號臨時博覽會事務局官制中左ノ通改正追加ス
 第二條中事務官五人ヲ八人ト改ム
 第三條 總裁ハ農商務大臣副總裁ハ勅任官事務官ハ奏任官書記ハ判任官又ハ特別ノ技術者ハ經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ
 第十一條ノ次ニ左ノ一箇條ヲ追加ス
 第十二條 出品物鑑査ノ爲メ臨時博覽會事務局ニ鑑査官ヲ置クコトヲ得
 鑑査官ハ第四條ノ手續ニ依リ之ヲ命シ經費豫算定額内ニ於テ金五百圓以下ノ手當金ヲ給與スルコトヲ得

〔参照〕

勅令第五十二號臨時博覽會事務局官制(明治二十四年六月六日官報抄録)
 第三條 總裁ハ農商務大臣副總裁ハ勅任官事務官ハ奏任官書記ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

朕學習院卒業生高等試験竝ニ任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十日

内閣總理大臣 伯耆松方正義

勅令第二十四號 (官報 三月十一日)
 學習院高等學科卒業證書ヲ有スル者ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ高等試験ヲ受クルコトヲ

得

前項ノ卒業證書ヲ有スル者及學習院中等學科卒業證書ヲ有スル者ハ判任官見習ヲ命シ又ハ直チニ判任文官ニ任スルコトヲ得

〔參照〕

明治二十年五月二十號勅令第三十七號ハ文官試驗試補及見習規則ナリ

朕茲ニ判事檢事俸給令中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十五年三月十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
司法大臣 齋田中不三麻呂

勅令第二十五號(官報三月十五日)

判事檢事俸給令中左ノ通改正ス

第二條中地方裁判所長「四十八人」ヲ「四十九人」ニ地方裁判所檢事局、檢事正「四十八人」ヲ「四十九人」ニ改ム

第八條中「百人」ヲ限リ「五字」ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百三十四號判事檢事俸給令(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第八條 地方裁判所判事ニシテ豫審ヲ爲スコトヲ命ゼラレタル者ハ百人ヲ限リ其事務取扱中一箇年百圓以内ノ加俸ヲ之ニ給スルコトヲ得

朕鑛業ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十四日

農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二十六號(官報三月十五日)

第一條 鑛業ニ關シ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 試掘認可願 一件毎ニ金參圓
- 一 試掘地訂正願 一件毎ニ金壹圓
- 一 試掘延期願 一件毎ニ金壹圓
- 一 採掘特許願 一件毎ニ金拾五圓
- 一 鑛區訂正願 一件毎ニ金五圓
- 一 鑛業特許證書換願 一件毎ニ金五圓
- 一 採掘權書入登錄願 一件毎ニ金參圓
- 一 鑛區ノ合併若クハ分割願 一件毎ニ金五圓
- 一 鑛業特許證再下渡願 一件毎ニ金壹圓
- 一 坑内實測圖證明請求 一件毎ニ金五圓
- 一 測量認可請求 一件毎ニ金壹圓
- 一 鑛山監督署長ノ判定請求 一件毎ニ金五圓
- 一 農商務大臣ノ裁定請求 一件毎ニ金拾圓

第二條 鑛業條例第九十條ニ依リ明治二十六年五月三十一日迄ニ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ手数料

料金五圓ヲ納ムヘシ

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條 本令ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治二十三年勅令第五百一十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

法律第八十七號礦業條例(明治二十三年九月二十六日官報)抄録

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借入ノ許可ヲ得借入年限滿期後尙ホ引續キ續業ヲ爲サントスル者ハ借入滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

明治二十三年七月三十日 勅令第五百一十一號ハ坑業ニ關スル手数料徵收ノ件ナリ

陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十六日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第二十七號(官報 三月十七日)

陸軍定員令中左ノ通改正ス

一 附表第七號平時對馬警備隊編制表中助卒並ニ其下ノ三〇ヲ總テ削リ一等卒ノ下「二〇」ヲ「二二」ニ「四六」ヲ「四八」ニ二等卒ノ下「三三」ヲ「四三」ニ「八七」ヲ「九五」ニ計ノ下「二二」ヲ「一〇」ニ「三三」ヲ「二一」ニ「一〇」ニ合計ノ下「二二」ヲ「一〇」ニ「二八」ヲ「二四」ニ改メ備考ノ第五項ヲ削ル

〔參照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報)抄録

附表第七號備考第五項

助卒ノ在營期限ハ四箇月トシ毎年二回ニ入隊ス

朕明治二十五年度ニ於テ前年度豫算施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣	伯爵松方正義
文部大臣	伯爵大木喬任
外務大臣	臣子爵榎本武揚
逓信大臣	臣伯爵後藤藤象二郎
海軍大臣	臣子爵樺山資紀
陸軍大臣	臣子爵高島鞞之助
司法大臣	臣子爵田中不二麻呂
內務大臣	臣伯爵副島種臣
農商務大臣	臣河野敏鎌

勅令第二十八號(官報 三月十八日)

明治二十五年度ノ豫算成立ニ至ラサルヲ以テ帝國憲法第七十一條ニ據リ同年度ニ於テ明治二十四年度ノ豫算ヲ施行ス

〔參照〕

大日本帝國憲法抄録

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セヌ又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

○ 朕府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタリトスル者ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月二日

文部大臣伯爵大木喬任

勅令第三十二號(官報四月四日)

○ 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ文部大臣若クハ府縣知事ノ裁定ハ終審確定ノモノトス
一 傷疾疾病ノ原因及其輕重
二 職務ニ堪ユルト否ヲサルト

○ 朕徵兵事務條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月四日

海軍大臣子爵樺山資紀
陸軍大臣子爵高島鞆之助
內務大臣伯爵副島種臣

勅令第三十三號(官報四月五日)

徵兵事務條例中左ノ通改正ス
 第九條中「警備隊司令官ヲ」警備隊區司令官ニ改ム
 第十條乃至第十八條ヲ左ノ如ク改ム
 第十條 第八條第九條ニ掲グル徵兵官ノ外旅管内府縣毎ニ旅管徵兵參事員大隊區內徵募區毎ニ大隊區徵兵參事員警備隊區內徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク
 第十一條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十條ニ當ル徵集延期及徵集免除ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具中スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス
 第十二條 旅管徵兵參事員ハ府縣名譽職參事員ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事員ヲ以テ之ニ充ツ但府ニ在テハ其府名譽職參事員ニ於テ郡市部各二名ヲ互選シ市ニ在テハ其市名譽職參事員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム
 島廳ヲ置ク島嶼ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル
 第十三條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス郡市參事員ヲ兼ヌル府參事員ニシテ互選ニ當リタル者又ハ縣參事員ニシテ郡市參事員ヲ兼ヌル者ハ旅管徵兵參事員ニ充ツ此場合ニ於テ郡ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ缺員ハ郡制第四十八條ニ依リ補充員ノ内ヨリ之ヲ補缺ス可シ
 第十四條 毎年徵募事務及徵集準備事務執行中ハ旅管徵兵醫官及大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク
 旅管徵兵醫官ハ旅管内徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ總管シ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢查ニ從事ス

第十五條 旅管徵兵醫官ハ陸軍二等軍醫正一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一二三等軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツ
 第十六條 毎年徵募事務及徵集準備事務執行中ハ旅管徵兵醫務員旅管徵兵醫務補助員及大隊區徵兵醫務員又ハ警備隊區徵兵醫務員ヲ置ク
 旅管徵兵醫務員ハ旅管徵兵醫務員一般ノ事務ヲ掌理シ旅管徵兵醫務補助員及大隊區徵兵醫務員又ハ警備隊區徵兵醫務員ハ該徵兵醫務ノ庶務ニ從事ス
 第十七條 旅管徵兵醫務員ハ旅團副官一名府縣兵事擔任ノ課長ヲ以テ之ニ充テ旅管徵兵醫務員補助員ハ旅團書記一名府縣屬若千名及島廳郡市書記各一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫務員又ハ警備隊區徵兵醫務員ハ大隊區書記又ハ警備隊區書記一名島廳書記又ハ郡市書記一名若クハ二名ヲ以テ之ニ充ツ
 第十八條 毎年徵募準備事務執行中ハ地方醫師若千名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス
 徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體檢查ノ事ヲ補助ス
 第二十一條中「師團長ハ」下「第十九條ノ勅令及第二十條ノ配賦ニ基キ」ノ十八字ヲ加フ
 第二十三條中「三月一日」ヲ「二月十五日」ニ改ム
 第二十五條中「警備隊」ノ下「區」ノ一字ヲ加フ
 第二十六條中「徵兵委員」ヲ「徵兵官及徵兵參事員」ニ改ム
 同條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 若シ兵役ノ適否判定シ難キ者アルトキハ他ノ徵兵署又ハ檢查所ニ於テ其檢查ヲ續行スルコトヲ得
 第二十七條中「警備隊」ノ下「區」ノ一字ヲ加フ

第二十三條中「警備隊」ノ下「區」ノ一字ヲ加フ
 第二十四條第一項中「タル」ヲ「現役ニ徵ス可キ」ニ改ム
 同條第二項中「旅管徵兵委員」ヲ「旅管徵兵官旅管徵兵參事員」ニ改ム
 第二十五條ヲ左ノ如ク改ム
 第二十五條 旅管徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ島司郡市長ニ交付ス可シ
 第二十六條中「免役名簿及國民兵編入」ヲ「徵集免除名簿及兵役免除」ニ改ム
 第二十七條中「處分ヲ爲シタル者」ノ下「徵集免除」ノ九字ヲ加フ
 第二十八條第一項中「都督」ヲ「師團長」ニ改ム
 同條第三項中「免役名簿及國民兵編入」ヲ「徵集免除名簿及兵役免除」ニ改ム
 第四十一條中「及國民兵編入並免役」ヲ「編入徵集免除及兵役免除」ニ改ム
 第四十二條中「第二十一條第二十八條」ノ十字ヲ削ル
 第四十八條ヲ左ノ如ク改ム
 第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ新兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ在大隊區司令部所在ノ入營地ニ當該隊長ニ交付ス但新兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム
 近衛新兵及海軍新兵ハ其集合地ニ引率シ新兵受領員ニ交付スルモノトス但新兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム
 第四十九條中「警備隊」ノ下「區」ノ一字ヲ加フ
 同條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 其延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添

ハ差出スヘシ

第五十條ヲ左ノ如ク改ム
 第五十條 新兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入モ含有スルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ
 徵兵令第二十七條ニ當リ翌年同ト爲リタル者其年ノ徵集事務終結迄ハ前項ノ限ニ在ラス
 第五十一條中「認タル者」ノ下又ハ入營後直ニ施行スル身體検査ニ於テ永久兵役及常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ノ三十六字ヲ加ヘ「同月同日迄ニ入營セシム」ノ十一字ヲ削ル
 第五十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 其願書ニハ同徵集區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長及大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス
 同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 島司郡市長ハ其事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ
 第五十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 新兵入營前轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ届出可シ
 同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ
 第五十五條中「七日」ヲ「十四日」ニ「者」ハ「ヲ」トキハ其往先ヲ詳ニシ市町村長ヲ經テニ改ム
 第五十六條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 豫備徵員ヲ徵集スルトキハ島廳若クハ郡市吏員之ヲ入營地又ハ臨時指定ノ地ニ引率シテ大隊區

司令官又ハ陸海軍派出所ニ交付スルモノトス
 第五十七條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者翌年一月一日以後本籍ニ復歸シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル但徵
 募年ノ十二月三十一日以前本籍ニ復歸シタル者同月同日迄ニ徵集ノ命ナキトキ亦同シ
 第五十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 豫備徵員轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ係ル
 トキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ届出可シ
 同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ
 第五十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 豫備徵員寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其往先ヲ詳ニシ市町村長ヲ經テ監
 視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ
 第六十條ヲ左ノ如ク改ム
 第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主或ハ後見人連署シ
 身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守
 府ニ願出テ許可ヲ受ケ可シ但軍隊又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際大隊區徵兵署
 又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出
 ルコトヲ得
 検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス
 第六十二條第一項中「願出可シ」ノ下「但徵兵令第二十條ニ當リ其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサ
 ル者ハ本條ノ保證書ヲ添ヘ届出可シ」ヲ四十三字ヲ加フ

同條第二項中「其願書」ノ下「及屆書」ノ三字ヲ加フ
 第六十三條第一項中「一月三十一日」ヲ「三月一日」ニ改ム
 同條第三項中「壯丁名簿」ノ下「若クハ前年ノ假決名簿」ノ十字ヲ加フ
 同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 本條ノ願出已ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地島司郡
 市長ニ協議シ徵集上故障ナキモノニ限リ許可ス可シ
 第六十四條中「診斷書」ヲ「診斷證書」ニ改ム
 第六十五條中「警備隊」ノ下「區」ノ一字ヲ加ヘ「診斷書」ヲ「診斷證書」ニ改ム
 第六十六條中「府縣郡市島嶼」ノ六字ヲ削リ「地方徵兵醫員」ヲ「徵兵醫官補助員」ニ改ム
 第六十七條中「永久服役」ヲ「永久兵役」ニ改メ「近衛都督」ノ四字ヲ削ル
 同條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 其疾病傷痍ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ國民兵ニ編入ス
 第六十八條第一項中「近衛都督」ノ四字ヲ削ル
 同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 其願書ニハ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長大隊區司令官又ハ警備隊區
 司令官及旅團長ヲ經テ師團長又ハ鎮守府司令官ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證
 印ヲ受ケ可キモノトス
 同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 島司郡市長ハ其實情ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付
 ス可シ
 第七十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第七十五條 第十條ノ旅管徵兵參事員ハ未タ府縣制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ府縣會常置委員ニ於テ四名ヲ互選シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

〔參照〕

勅令第十三號徵兵事務條例(明治二十二年二月二十七日官報抄録)

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三等軍醫一名並郡市長及徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 郡市長及島嶼徵兵參事員ハ其郡市長及島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市長島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身檢檢査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三等軍醫ハ身檢ノ檢査ニ從事ス

第十五條 府縣郡市長及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集續限ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任ストス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ヲキモノトス

第十六條 第十條ニ掲ケル徵兵委員ノ外旅管徵兵一名府縣郡市長若クハ地方徵兵委員一名ヲ以テ旅管徵兵事務員トシ大隊區警備又ハ警備隊警備各一名島嶼附府縣又ハ郡市長若クハ地方徵兵委員若クハ以テ大隊區徵兵事務員又ハ警備隊區徵兵事務員トス

第十七條 旅管副官府縣郡市長大隊區警備隊警備各一名附府縣郡市長及郡市長若クハ徵兵事務ノ庶務ニ從事ス

第十八條 地方徵兵警員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍警員ノ指揮ヲ受ケ身檢檢査ノ事ヲ補助ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ片籍簿ニ照數シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ提出シ島司郡市長ハ該簿ノ後之ヲ一徵募區ニ取歸シ前年徵兵ノ請名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ檢附シ徵兵署及檢査所送同日期ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

第二十六條 島司郡市長ハ檢査ノ日時徵兵署及檢査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十七條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及檢査所ニ於テ壯丁ノ身檢檢査ヲ行フ其檢査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十八條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身檢檢査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十九條 旅團長ハ府縣警備隊司令官ニ檢附シ徵兵署送同日期ヲ定メ之ヲ同管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送ス可シ

第三十條 府縣警備隊司令官ハ抽籤ノ日時及徵兵身檢檢査ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ管内ニ告示ス可シ

第三十一條 身檢檢査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等級及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

第三十二條 抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ提出シ他一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十三條 抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十四條 抽籤總代人ハ旅管徵兵官ハ旅管徵兵署ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ送シタル籤類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿準備員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十五條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其籤番ヲ附與ス

第三十六條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ送出し又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及準備員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

第三十七條 近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令官長ニ送致ス可シ

第三十八條 免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ス可シ

第三十九條 假決ハ徵集延期及徵集續限ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募準備員及國民兵編入免役ノ事ヲ裁決ス

第四十條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ既願ハ納税者ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモハ受理セズ
 第四十八條 新兵入營ノトキハ地方大隊區司令官若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應ジ大隊區副官若クハ書記ヲシテ
 ア入營地ニ引率セシム但新兵五人未満ナルトキハ引率セシムルヲ要セズ
 近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシム新兵受領委員ニ交付スルモノトス
 但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム
 第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令
 官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ
 第五十條 新兵入營前ハ歸郷ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ但歸國ノ請兵ニシテ師範ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス
 第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病危篤其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營セシム者ト認メタル者アルトキハ
 其徵集區ヨリ同兵種ノ預備員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵集區ヨリ徵集スルコト
 難ハサルトキハ大隊區内他ノ徵集區ヨリ補フ其配賦ハ各徵集區預備員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十二條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス
 其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ之ニ同徵集區内新兵ノ月主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ
 經テ旅團長ニ差出ス可シ
 第五十三條 新兵入營前歸郷セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監
 視區長ニ届出可シ
 第五十四條 新兵入營前寄留者ハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ
 第五十五條 新兵入營前寄留者ハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ
 第五十六條 預備員徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ其配賦ノ法ハ預備員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十七條 預備員他ノ徵集區ニ轉籍スルトキハ新籍所在地徵集區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ
 列セシム
 第五十八條 預備員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地
 監視區長ニ届出可シ
 第五十九條 預備員ハ徵集年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ願可ク受ケシテ寄留者クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコト
 ノ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ
 第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服セント志願スル者ハ其願書ニ月主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前

自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ領事府ニ届出テ許可ヲ受ケ可シ
 第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵集區内其ノ年ノ徵集ニ應ジ可キ壯丁ノ月主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ
 當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊徵
 兵官ニ届出可シ
 其願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受ケ可キモノトス
 第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵集區ニ於テ徵集ニ應ジセント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡
 市長ニ届出可シ
 島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證明ヲ受ケ可キモノトス
 島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添ヘ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ
 第六十四條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又
 ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ
 島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受ケ可キモノトス
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五歳以上一四九十五歳以下ノ科料ニ處ス
 第六十五條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又
 ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ可キモノト
 ス
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五歳以上一四九十五歳以下ノ科料ニ處ス
 第六十六條 徵兵官及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤代理人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣都市島嶼徵兵委員ノ手當金旅
 費地方徵兵委員ノ給料旅費ハ官給ス
 第六十七條 現役中疾病或ハ傷疾ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ領守府司令官ニ於テ兵役ヲ免ス其
 一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ預備員ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム
 第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ領守府司令官
 ニ於テ現役ヲ免シ預備員ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム
 其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ之ニ同徵集區内現役兵ノ月主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官
 及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ領守府司令官ニ差出ス可シ

本條ノ既願ハ給付受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモハ受理セズ
 第四十八條 新兵入營ノトキハ先テ大隊區司令官若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應ジ大隊區副官若クハ書記ヲシ
 ア入籍地ニ引率セシム但新兵五人未満ナルトキハ引率セシムルヲ要セズ
 近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシム新兵受領委員ニ交付スルモノトス
 但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム
 第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令
 官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ
 第五十條 新兵入營前ハ歸郷ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ與ニスルトキハ此限ニ在ラス
 第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病危篤其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ
 其隊區ヨリ同兵種ノ隊員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵集區ヨリ徵集スルコト
 難ハサルトキハ大隊區内他ノ隊區ヨリ補充ヲ其配賦ハ各隊區隊員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十二條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本八ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス
 其願亦ニハ市町村長ノ與書印ヲ受ケ之ニ同徵集區内新兵ノ月主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官
 經テ旅團長ニ差出ス可シ
 第五十三條 新兵入營前歸郷セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監
 視區長ニ届出可シ
 第五十四條 新兵入營前寄居若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ
 第五十五條 新兵入營前寄居若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ
 第五十六條 預備隊員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ其配賦ノ法ハ預備隊員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十七條 預備隊員他ノ徵集區ニ轉籍スルトキハ新居住地徵集區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ
 列セシム
 第五十八條 預備隊員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地
 監視區長ニ届出可シ
 第五十九條 預備隊員ハ徵集年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスニテ寄居若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコト
 不得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ許シ監視區長ニ届出可シ其後歸郷シタルトキ亦同シ
 第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服セント志願スル者ハ其願書ニ月主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前

自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ領守府ニ届出テ許可ヲ受ケ可シ
 第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵集區内其ノ年ノ徵集ニ應ジ可キ壯丁ノ月主二名ノ保證書第二十條第一項ニ
 當ル者ハ學校校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊徵
 兵官ニ願出可シ
 其願書ニハ町村長ノ與書印ヲ受ケ可キモノトス
 第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵集區ニ於テ徵集ニ應ジント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡
 市長ニ願出可シ
 島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書印ヲ受ケ可キモノトス
 島司郡市長其願ヲ許シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添ヘ本人寄居地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ
 第六十四條 疾病傷殘或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又
 ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷殘ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ
 島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書印ヲ受ケ可キモノトス
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五箇以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第六十五條 疾病傷殘或ハ犯罪等ニテ期限ニ應ジ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又
 ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷殘ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ其願書ニハ市町村長ノ與書印ヲ受ケ可キモノト
 ス
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五箇以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第六十六條 徵兵官及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤代理人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣郡市島嶼徵兵委員ノ手當金旅
 費、地方徵兵委員ノ給料旅費ハ官給ス
 第六十七條 現役中疾病或ハ傷殘ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令官官ニ於テ兵役ヲ免ス其
 一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ預備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム
 第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令官官
 ニ於テ現役ヲ免シ預備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム
 其願書ニハ市町村長ノ與書印ヲ受ケ之ニ同徵集區内現役兵ノ月主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官
 及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令官官ニ差出ス可シ

朕徵兵事務條例中徵集區及市長市書記市徵兵委員ニ關スル規定中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
 明治二十五年四月 勅令 第三十四號

布シム

御名 御璽

明治二十五年四月四日

海軍大臣子爵樺山資紀
陸軍大臣子爵高島綱之助
内務大臣伯爵副島種臣

勅令第二十四號(官報 四月五日)

明治二十二年勅令第六十四號第三項左ノ通改正ス

東京市京都市大阪市ニ於テハ市ニ大隊區徵兵參事員ヲ置カス區ニ大隊區徵兵參事員四名ヲ置キ市

ノ大隊區徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム

區ノ大隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其區内ニ住スル市民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉ス但其任

期ハ市會議員ノ任期ニ同シ

〔參照〕

勅令第六十四號(明治二十二年五月九日官報)抄録

第三項

東京市京都市大阪市ニ於テハ市徵兵參事員ヲ置カス區ニ區徵兵參事員ヲ置キ市徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人ノ選舉

入數選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徵兵參事員ニ同シ區徵兵參事員ノ選舉月日及選舉開會並投票開會ノ時期ハ明治

二十二年ニ限り府知事ヨリ選舉開會五日以前ニ告示スルコトヲ得

朕茲ニ公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

外務大臣子爵板本武揚

明治二十五年四月四日

勅令第二十五號(官報 四月五日)

公使館領事館費用條例第二條別表中總領事領事及貿易事務官本俸左ノ通改正ス

總領事

一級 貳千五百圓

二級 貳千貳百圓

一級 千八百圓

二級 千六百圓

三級 千四百圓

領事

貿易事務官

〔參照〕

勅令第三十三號公使館領事館費用條例(明治二十四年三月三十一日)抄録

第二條 外交官及領事官ノ本俸ハ別表ニ依ル但左ノ場合ニ於テハ其半額ヲ給ス

一 照會時期ヲ許サレタル者ニシテ歸朝後六個月ヲ過キタルトキ

二 疾病ノ爲メ歸朝ヲ許サレタル者ニシテ歸朝後三箇月ヲ過キタルトキ

外交官及領事官ニシテ任所ナキ者ハ本俸三分ノ一ヲ給ス

別表

總代理	公使	二	千	五	百	圓
領事	領事	千	八	百	圓	
貿易事務官	貿易事務官	千	四	百	圓	

朕電話交換局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月 勅令 第三十六號

明治二十五年四月七日

内閣總理大臣伯耆松方正義
逓信大臣伯耆後藤象二郎

勅令第三十六號(官報四月八日)
電話交換局官制中左ノ通改正ス
第三條中「二人ヲ四人」ニ改ム
第六條中「十四人ヲ二十四人」ニ改ム

(參照)

勅令第五百五十二號電話交換局官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録
第三條 技師ハ二人ヲ以テ定員トス(電話交換局長トナリ逓信大臣ノ命ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス)
第六條 常駐技師ハ十四人ヲ以テ定員トス

朕逓信省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月十五日

内閣總理大臣伯耆松方正義
逓信大臣伯耆後藤象二郎

勅令第三十七號(官報四月十六日)

逓信省官制中左ノ通改正ス

第十條 逓信省ニ專任逓信事務官五人ヲ置ク奏任トス

逓信事務官ハ大臣官房郵務局管船局及電務局ニ屬シテ各共事務ヲ分掌ス

(參照)

勅令第九十五號逓信省官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第十條 逓信省ニ逓信事務官五人ヲ置ク奏任トス(大臣官房郵務局及電務局ニ屬シテ各共事務ヲ分掌ス)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ稅關規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月二十一日

大藏大臣伯耆松方正義

勅令第三十八號(官報四月二十二日)

明治二十三年九月勅令第二百三號稅關規則中左ノ通追加ス

第五十五條 帝國政府ノ參同スル外國博覽會及共進會ニ出品スル物品及其附屬品ハ輸出稅及國品

積戻ノ際輸入稅ヲ課スルノ限ニ在ラス

朕公立學校職員等級配當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年四月二十八日

内閣總理大臣伯耆松方正義
文部大臣伯耆大木喬任

勅令第二十九號(官報四月二十九日)

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ等級ハ其俸給額ニ應ジ別表ニ依リ文

武高等官官職等級又ハ文武判任官等級ニ配當ス

但同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次序タルヘシ

- 一 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ノ規程ニ依リ難キ場合アルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得
- 二 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ郡長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ市長町村長若クハ市參事會ノ職務ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ
- 第二條 區町村ハ北海道廳長官府縣知事ノ指定スル區域及位置ニ於テ一小學校若クハ數小學校ヲ設置スヘシ
- 第三條 本令施行ノ時期ハ北海道廳長官府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム
- 第四條 明治十九年勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ地方ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

朕海軍准士官服役條例ヲ廢シ海軍准士官服役令制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年五月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第四十一號 (官報 五月九日)

海軍准士官服役令

- 第一條 准士官ノ服役ヲ分ツコト左ノ如シ
 - 第一 現役
 - 第二 豫備
 - 第三 後備
- 第二條 現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者修學ヲ命セラレタル者及待命者ヲ云フ休職停職ニ在ル者ハ現役ニ準ス
- 待命トハ現職ナクシテ命ヲ待ツ者ヲ云フ
- 休職トハ左ニ掲グル事項ノ一ニ依リ職務ナキ者ヲ云フ
 - 一 待命一箇年ヲ過タル者
 - 二 本人ノ請願ニ依リ修學ヲ許容シタル者
 - 三 前項ノ修學者ニシテ修學滿期ノ後就職ノ命ナキ者
 - 四 傷痍若クハ疾病六箇月ニ至リ尙快復ノ候ナキ者
 - 五 禁錮ノ刑ニ處セラレ剝官ヲ附加セラレサル者

停職トハ其行為懲戒ス可キコトアリ其情狀稍輕クシテ免官ニ至ラサルモ在職又ハ就職ヲ停メラ
ル、者ヲ云フ但停職者ハ一箇年ノ後ニ非サレハ就職スルコトヲ得ス

第三條 豫備トハ年齡滿限ニ至ラスシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ因リ現役ヲ退キタル者ヲ云ヒ其服
役年期ハ現役年齡滿限マテトス

一 明治二十三年^六勅令第九十九號第三條ニ依リ現役ヲ退キタルトキ

二 休職ニ入り二年ニ至リ就職セサルトキ但第二條第三項ノ第二ニ該ル者ハ此限ニアラス

三 停職ニ入り一箇年半ニ至リ就職セサルトキ

第四條 後備トハ年齡滿限ニ至リ現役若クハ豫備役ヲ退キタル者ヲ云ヒ其服役年期ハ五箇年トス

第五條 豫備後備者ハ召集ニ應ス可キモノトス

第六條 准士官後備滿期ニ至リタルトキ又ハ傷痍疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ヘスシテ現役又ハ豫備
後備ヲ退キタルトキハ其官ヲ免ス

附則

第七條 本令公布ノ日休職ニ在ル者ハ其休職ニ入りタル日ヨリ起算シ三箇年ニ至リ豫備ニ入ルモ
ノトス

(參照)

勅令第九十九號(明治二十三年六月二十一日官報抄録)

第三條 陸海軍軍人定限ノ年齡ニ達セサルモ現役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサルトキハ將官ハ上諭ニ依リ、上長官士官ハ
陸海軍大臣准士官ハ所管長官ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

朕明治二十五年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治二十五年五月十一日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第四十二號(官報 五月十二日)

明治二十五年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

死亡 賜金

死傷 手当

訴訟 費

外國爲替 差金

裁判 費

在外公館地所家屋借料 費

巡査 給助

遣骸 回送 手當

埋葬 葬料

受繼 電信 料

阿片 費

藥品検査印紙製造費

看守俸給及給助

囚徒及在監人諸費

看守及巡查滿年賜金

褒賞恩賜及救助費

外國債元利及手数料並金貨又ハ外國貨幣ヲ以テ支給額ヲ定メタ

ル係給手當旅費其他在外公館經費ノ爲替差金

在外公館費中ノ裁判費裁判所費中ノ刑事裁判費

外交官領事官及書記生ノ妻遺骸回送手當

陸海軍軍人及屯田兵家族ノ埋葬料

徵兵參事員手當及旅費
 海兵附添人旅費
 檢丁旅費及新兵入營旅費
 難破船費
 在外國難民貸與金
 海員取扱費
 警察費連帶支辨金
 沖繩縣地役人役俸
 北海道製糖會社利益不足補給
 北海道製糖會社利益不足補給
 北海道札幌製糖會社利益不足補給
 北海道興産社利益不足補給
 北海道炭礦鐵道會社利益不足補給
 糧米扶助米代及鹽菜料
 萬國關稅表刊行同盟費
 公債證書及銀行紙幣製造費
 整理公債ノ交換シタル各
 種公債ノ利子及手数料
 各種公債ノ交換シタル各
 種公債ノ利子及手数料
 大藏省證券利子及手数料
 文官恩給及文官遺族扶助
 退官賜金

軍人恩給及軍人遺族扶助
 沖繩縣僧侶飯米代
 議長副議長議員旅費及旅費
 從價稅品買上代
 密輸出入及違犯申告者給與
 賠償金
 所得稅調查委員手當
 國稅事務取扱市町村交付金
 國稅滯納處分費
 印紙製造買戻雜札製
 造及小切手押印費
 拾錢紙幣交換諸費
 諸拂戻及缺損補填金
 日本鐵道會社利益不足補給
 軍馬飼養品費
 供奉費
 執達吏手當
 萬國測地學協會費
 萬國度量衡會費
 郵便切手類製造費
 民金及賣下手数料
 電信取扱手数料
 電信料還付金

爲替貯金受拂費
 海外信支拂金
 萬國郵便電信聯約費
 官報刊行費
 刑事被告人及犯人護送旅費
 陸軍軍隊附料
 司法裁判臨檢旅費
人民救濟及土木工事監督地地
 検査及検税ノ爲メ要スルモノ
災害ノ爲メ要スル臨費雜給旅費

朕會計検査院ノ検査確定シタル明治二十一年度ノ整理公債金歳入歳出決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年五月二十三日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四十三號(官報五月二十四日)

第一條 明治二十一年度ノ整理公債金歳入決算額ハ八百四拾五萬八拾貳圓五拾五錢七厘歳出決算額ハ七百貳拾七萬六千七百五拾四圓四拾貳錢九厘ナリトス
 第二條 前條歳入額八百四拾五萬八拾貳圓五拾五錢七厘前年度歳入餘積金拾壹萬四千六百四拾四圓七錢合計八百五拾六萬四千七百貳拾六圓七拾貳錢七厘ノ内前條歳出額七百貳拾七萬六千七百五拾四圓四拾貳錢九厘ヲ控除シ其殘額百貳拾八萬七千九百七拾貳圓貳拾九錢八厘ハ翌年度ニ

繰越シ同年度ノ歳出ニ充用スヘキモノトス

明治二十一年度整理公債金歳入歳出決算

歳入

- 第一款 公債整理金 金八百四拾五萬八拾貳圓五拾五錢七厘
- 第一項 整理公債募集金 金五拾萬圓
- 第二項 整理公債臨時發行代金 金七百五拾萬圓
- 第三項 過年度返納金 金參拾四萬五千四百七拾五圓
- 第四項 辨納金 金百拾九圓五拾九錢七厘
- 第五項 國債費殘餘繰入 金拾萬四千四百八拾七圓九拾六錢
- 歳入合計金八百四拾五萬八拾貳圓五拾五錢七厘

歳出

- 第一款 公債償還 金六百八拾九萬五千貳百參拾圓
- 第一項 公債償還 金六百八拾九萬五千貳百參拾圓
- 第二款 常用部繰入 金參拾參萬五千五百八拾貳圓四拾錢四厘
- 第一項 常用部繰入 金參拾參萬五千五百八拾貳圓四拾錢四厘
- 第三款 整理公債募集費 金四萬九千九百四拾貳圓貳錢五厘
- 第一項 證書製造費 金四千八百八拾八圓貳拾七錢五厘
- 第二項 證書發行諸費 金四萬五千百貳拾參圓七拾五錢
- 歳出合計金七百貳拾七萬六千七百五拾四圓四拾貳錢九厘

朕海軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年五月二十六日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
海軍大臣 子爵樺山資紀

勅令第四十四號 (官報 五月二十七日)

海軍省官制中左ノ通改正シ職員定員表中大臣官房欄内秘書官ノ部主計大監ノ上ニ大佐又ハノ四字ヲ加フ

第二條 海軍大臣秘書官ハ一人トシ大佐又ハ主計大監ヲ以テ之ニ補ス

〔參照〕

勅令第九十一號海軍省官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄錄
第二條 海軍大臣秘書官ハ一人トシ主計大監ヲ以テ之ニ補ス
海軍省職員定員表中

大 官 房	主 計 大 監	一
秘 書 官	大 佐	一
主 事	主 計 大 監	一
副 主 事		

朕日本帝國領事規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年五月二十六日

外務大臣 子爵榎本武揚

勅令第四十五號 (官報 五月二十七日)

日本帝國領事規則第二十九條ヲ左ノ通改正ス

第二十九條 領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直接通信アルコトヲ得ス
外務大臣ノ承諾ヲ得直接通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫書ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

〔參照〕

勅令第八十號日本帝國領事規則(明治二十三年五月二十日官報)抄錄
第二十九條 領事ト本邦他官廳トノ往復文書ハ開封ニテ外務省ヲ經由スヘキモノトス但緊急ノ場合ニ於テ直接ノ通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年五月三十日

陸軍大臣 子爵高島鞆之助

勅令第四十六號 (官報 五月三十一日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十九條中「露營」ノ下ニ「若クハ夜間作業」ノ七字ヲ加フ

第三十條中第一項ヲ左ノ如ク改メ及第二項中「依ル」ヲ「依ルコトヲ得」ニ改ム

明治二十五年五月 勅令 第四十六號

准士官以上及下士以下野外演習中自炊ヲ爲ストキ又ハ衛戍線外ノ在哨中ハ糧食ヲ給ス其定額ハ第九表ニ依ル軍馬丁モ亦之ニ準ス但糧食ノ定額ハ所屬部隊ニ交付シ其經理ヲ委任ス

第三十七條第三項中「大學校」ノ上ニ「憲兵隊」ノ三字ヲ加フ

第三十八條中「第三十五條第三十六條」ノ被服給與ノ區別ハ左ノ如シ「第三十五條」ノ給與及第三十六條第三十七條ノ備用品ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ交付スニ改メ同條第三ノ下士以下現員ノ下ニ又ハ備附定數ノ六字ヲ加フ

第十二表中左ノ如ク改ム

肩章ノ供用期限三年ヲ「十八月」ニ改ム

日覆ノ供用期限六年ヲ「三年」ニ改ム

革製手套ノ區畫中「山砲隊砲兵卒騎砲(野戰)輜重兵縫靴工」ノ給與員數「一組」ヲ「二組」ニ其給與區別ノ「一組」ヲ「二組」ニ改ム

半長靴ノ區畫中「騎兵兵卒同縫靴工」ノ給與員數「三組」ヲ「四組」ニ改メ其給與區別ニ「一畫」ヲ設ケ「初度」二組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給スノ十九字ヲ加フ

作業頭巾作業衣袴作業袴ノ各供用期限一年ヲ「十八月」ニ改ム

仕業衣袴ノ供用期限六月ヲ「一年」ニ改ム

蚊帳ノ區畫中「青森」ノ上ニ「仙臺新發田」ノ五字ヲ加ヘ供用期限十二年ヲ「十四年」「十五年」ヲ「十六年」ニ改ム

第六年ニ改ム

第十三表中左ノ如ク改ム

日覆ノ供用期限六年ヲ「三年」ニ改ム

外套ノ區畫中「警備隊歩砲兵兵卒」ノ下ニ「縫靴工」ノ三字ヲ加フ

蚊帳ノ供用期限十二年ヲ「十四年」ニ改ム

第十四表中左ノ如ク改ム

日覆ノ供用期限六年ヲ「三年」ニ改ム

作業頭巾衣袴ノ供用期限一年ヲ「十八月」ニ改ム

蚊帳ノ供用期限十二年ヲ「十四年」ニ改ム

第十六表及第十七表中左ノ如ク改ム

蚊帳ノ供用期限十二年ヲ「十四年」ニ改ム

備考ノ第一項中「青森」ノ上ニ「仙臺新發田」ノ五字ヲ加ヘ「十五年」ヲ「十六年」ニ改ム

第十八表中左ノ如ク改ム

大蚊帳蚊帳ノ各供用期限十二年ヲ「十四年」ニ改ム

備考ノ第一項中「青森」ノ上ニ「仙臺新發田」ノ五字ヲ加ヘ「十五年」ヲ「十六年」ニ改ム

第二十四表第二十六表乃至第三十一表及第四十五表別表ノ如ク改ム

附則

本令中第四十五表ノ改正ハ發布ノ日ヨリ施行シ其他ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス

第二十四表

兵種	各隊消費品料月額		
	近衛師團	師團	
步兵	聯隊	貳百拾九圓四拾貳錢六厘	貳百貳拾七圓八錢貳厘
	大隊	百〇貳圓六拾三錢貳厘	七拾四圓八拾八錢八厘
騎兵	大隊	百拾三圓八拾貳錢四厘	百拾三圓八拾貳錢四厘
	聯隊	百〇九圓拾七錢貳厘	百五拾圓四錢九厘

第二十六表

兵種	各隊	月	額	品	料	乘	率	一週	日額
野戰砲兵	野砲大隊		四拾圓拾五錢貳厘						
	山砲大隊		三拾八圓三拾貳錢八厘						
要塞砲兵	大隊		貳百貳拾壹圓六拾壹錢						
	大隊		六拾九圓拾錢貳厘						
工兵	大隊		四拾壹圓貳拾八錢						
	大隊		六拾七圓三拾三錢六厘						
輜重兵	大隊		八拾圓九拾七錢六厘						
對馬警備隊	隊		四拾九圓拾九錢貳厘						
軍樂	隊		拾三圓八拾貳錢四厘						
備考	歩兵一聯隊ノ内他ニ分屯スル大隊ニ在リテ八月額ノ外ニ金三圓貳拾五錢壹厘ヲ增加ス								
步兵	大隊		拾三錢貳厘						
騎兵	隊		貳拾貳錢貳厘						
	隊		五錢貳厘						
野戰砲兵	野砲		貳拾錢九厘						
	砲		四錢九厘						
	砲		四錢七厘						
要塞砲兵	隊		拾三錢壹厘						
工兵	隊		拾四錢八厘						

第二十七表

兵種	各隊	月	額	品	料	乘	率	一週	日額
輜重兵	隊		貳拾壹錢八厘						
對馬警備隊	隊		貳拾錢四厘						
軍樂	隊		貳拾六錢六厘						
備考	軍樂學舎ハ軍樂隊ノ金額ニ據ル								
步兵	大隊		七拾壹圓九拾錢七厘						
	大隊		三拾壹圓九拾五錢五厘						
騎兵	大隊		貳拾六圓四拾八錢九厘						
	大隊		三拾貳圓九拾六錢						
野戰砲兵	大隊		拾貳圓八拾八錢九厘						
	大隊		四拾五圓五拾三錢四厘						
要塞砲兵	大隊		八拾七圓五拾九錢八厘						
	大隊		貳拾六圓八拾六錢六厘						
工兵	大隊		拾九圓貳拾八錢三厘						
	大隊		貳拾圓八拾錢七厘						
輜重兵	大隊		貳拾圓六錢四厘						
對馬警備隊	隊		拾五圓貳拾五錢九厘						
軍樂	隊		五圓七拾貳錢九厘						

第二十八表

兵種	各隊中具		師團	師團
	近衛師團	師團		
步兵	大隊	五圓拾八錢壹厘	六圓七拾貳錢八厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	貳圓貳拾五錢四厘	貳圓壹錢八厘	
騎兵	大隊	貳圓五拾三錢	貳圓五拾三錢	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	三圓七拾五錢三厘	五圓拾六錢	
野戰砲兵	大隊	壹圓四拾六錢六厘	壹圓四拾六錢六厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	壹圓四拾六錢六厘	六圓八拾三錢壹厘	
要塞砲兵	大隊	壹圓五拾壹錢九厘	貳圓三錢七厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	貳圓貳錢八厘	貳圓貳錢八厘	
工兵	大隊	貳圓貳錢八厘	壹圓三拾五錢八厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	壹圓五拾壹錢九厘	四拾五錢五厘	
輜重兵	大隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	
對馬警備隊	大隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	
軍樂	大隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	四拾五錢五厘	四拾五錢五厘	

第二十九表

兵種	各隊中具		師團	師團
	近衛師團	師團		
步兵	大隊	五拾壹圓七拾七錢九厘	五拾四圓貳拾七錢四厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	貳拾五圓五拾五錢八厘	拾七圓八拾六錢	
騎兵	大隊	拾五圓八拾壹錢壹厘	拾五圓八拾壹錢壹厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	拾七圓八拾五錢六厘	貳拾六圓五拾六錢	
野戰砲兵	大隊	八圓六拾五錢四厘	八圓六拾五錢四厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	八圓六拾五錢四厘	五拾三圓七拾六錢六厘	
要塞砲兵	大隊	九圓四拾六錢九厘	拾三圓貳錢	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	九圓四拾六錢九厘	拾七圓六拾四錢七厘	
工兵	大隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾貳圓貳拾五錢六厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	拾壹圓拾四錢九厘	八圓六拾壹錢八厘	
輜重兵	大隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	
對馬警備隊	大隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	
軍樂	大隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	五拾四圓貳拾七錢四厘
	聯隊	拾壹圓拾四錢九厘	拾壹圓拾四錢九厘	
步兵	大隊	百五拾三圓八拾貳錢四厘	百五拾三圓八拾貳錢四厘	百五拾三圓八拾貳錢四厘
	聯隊	八拾壹圓拾三錢五厘	百圓六錢五厘	
野戰砲兵	大隊	三拾九圓七拾貳錢九厘	三拾九圓七拾貳錢九厘	百五拾三圓八拾貳錢四厘
	聯隊	三拾九圓七拾貳錢九厘	拾八圓八拾六錢	
山砲大隊	大隊	三拾九圓七拾貳錢九厘	拾八圓八拾六錢	百五拾三圓八拾貳錢四厘
	聯隊	三拾九圓七拾貳錢九厘	拾八圓八拾六錢	

第三十一表

兵種	陣營具永續料乘車月額		同一週日額	
	營中隊中	應府	每馬	營中隊中
步兵隊	五錢壹厘	四厘	三錢三厘	壹錢貳厘
騎兵隊	五錢貳厘	五厘	三錢貳厘	壹錢貳厘
野戰砲兵隊	六錢三厘	七厘	三錢九厘	壹錢五厘
要塞砲兵隊	五錢貳厘	四厘	三錢四厘	壹錢貳厘
工兵隊	六錢四厘	五厘	三錢四厘	壹錢五厘
輜重兵隊	五錢六厘	五厘	三錢五厘	壹錢三厘
對馬醫備隊	六錢三厘	六厘	三錢九厘	壹錢五厘
軍樂隊	拾錢	九厘	拾六錢九厘	貳錢六厘
備考	軍樂隊ハ軍樂隊ノ金額ニ據ル			

八拾壹圓九拾壹錢九厘

百貳圓五拾六錢四厘

第四十五表

學費	額月	派遣手當		額月
		額月	額月	
馬飼料	千六百圓以下	額月	額月	五拾圓
學費	額月	額月	額月	五拾圓

〔參照〕

勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報抄録)
 第二十九條 准士官以上及下士以下演習中露餐又ハ夜中行軍スルトキ及ヒ撤兵下士上等兵夜中巡邏スルトキ其他下士兵卒不露餐ヲ爲ストキハ夜食料ヲ給ス其金額ハ第九表ニ依ル軍團並馬丁モ亦之ニ準ス但軍隊ニ於テハ定額ヲ交付シ其經理ヲ委任ス

軍樂隊軍樂會教練團各隊及ロ士官學校幼年學校戸山學校乘馬學校砲兵射的學校軍醫學校 要塞砲兵幹部練習所 砲兵工科學會 被服工學會ニ於テハ軍隊ニ準シ定額ヲ交付シ其經理ヲ委任ス

第三十條 准士官以上及ヒ相當軍團野外演習中自炊ヲ爲シタルトキ又ハ衛戍線外ノ在哨中ハ第九表ノ食料ヲ給シ下士以下及ヒ相當軍團並馬丁野外演習中自炊ノ中ハ同表ノ糧食ヲ給ス但糧食ノ定額ハ所屬隊ニ交付シ其經理ハ第二十五條ニ依ル

第三十七條 騎兵砲兵輜重兵ノ各隊馬匹防乘用品ハ其定馬數ニ照シ之ヲ備附ケ其員數ハ第九表ニ依ル

其各隊馬用品ハ該隊定馬數ノ十分一ヲ備附ケ其員數ハ前項ニ準ス
 大學校砲工學校士官學校幼年學校乘馬學校砲兵射的學校教導團モ亦前二項ニ準ス
 第三十八條 第三十五條第三十六條ノ被服給與ノ區別ハ左ノ如シ
 一 軍隊ニ在リテ給與ノ被服ハ下士兵卒定員ニ應ジ又ハ備附定數ニ依リ地質ト金額トヲ以テ交付シ士官候補生六週間現役被服料及ヒ豫備役下士兵卒被服料ハ現員ニ應ジ金額ヲ以テ交付シ其經理ヲ該隊ニ委任ス
 野戰電信隊モ亦之ニ準ス
 二 憲兵隊軍樂隊軍樂學舍士官學校幼年學校山學校乘馬學校砲兵射的學校軍醫學校軍醫學部練習所教導團附屬學舍砲兵工科學舍被服工長學舍並ニ各病院ニ於テハ下士以下現員又ハ備附定數ニ依リ地質ト金額トヲ以テ交付ス
 三 前二項ヲ除クノ外ハ下士以下現員ニ應ジ總テ金額ヲ以テ交付ス

第二十四表

兵種	各隊	消耗品	料月額	步兵		騎兵		砲兵		工兵大(中)隊	輜重兵大隊	對馬警備隊	軍樂隊	
				近衛	師團	大隊	聯隊	山砲兵大隊	野砲兵大隊					
步兵	近衛	師團	料月額	百五拾四圓四錢貳厘	貳百貳拾五圓七拾貳錢貳厘	七拾壹圓六拾八錢	七拾壹圓六拾八錢	六拾八圓九錢六厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘
騎兵	大	聯	料月額	七拾壹圓六拾八錢	七拾壹圓六拾八錢	六拾八圓九錢六厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘	百拾壹圓三拾貳錢八厘
砲兵	山砲兵大隊	野砲兵大隊	料月額	三拾八圓七拾六錢	四拾圓五拾八錢四厘	四拾圓五拾八錢四厘	四拾圓五拾八錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘	三拾七圓貳錢四厘
工兵大(中)隊	輜重兵大隊	對馬警備隊	料月額	貳拾六圓五拾五錢	五拾九圓四拾錢	八拾壹圓四拾錢	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘	五拾壹圓七拾九錢貳厘
軍樂隊	拾四圓四錢	拾四圓四錢	料月額	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢	拾四圓四錢

第二十六表
 老備 步兵一聯隊ノ内他ニ分屯スル大隊ニ在リテハ月額ノ外ニ金三圓貳拾五錢壹厘ヲ增加ス

第二十七表

兵種	各隊	營中具	永續料	料月額	砲兵隊		工兵		輜重兵		對馬警備隊		軍樂隊	
					山砲	野砲	砲	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
砲兵隊	山砲	野砲	料月額	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘
工兵	砲	兵	料月額	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘
輜重兵	兵	兵	料月額	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘
對馬警備隊	兵	兵	料月額	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘
軍樂隊	兵	兵	料月額	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘	拾七錢八厘
考備	要器砲兵隊ノ步兵隊ノ金額ニ野戰電信隊ハ工兵隊ノ金額ニ軍樂學舍ハ軍樂隊ノ金額ニ據ル													

第二十八表

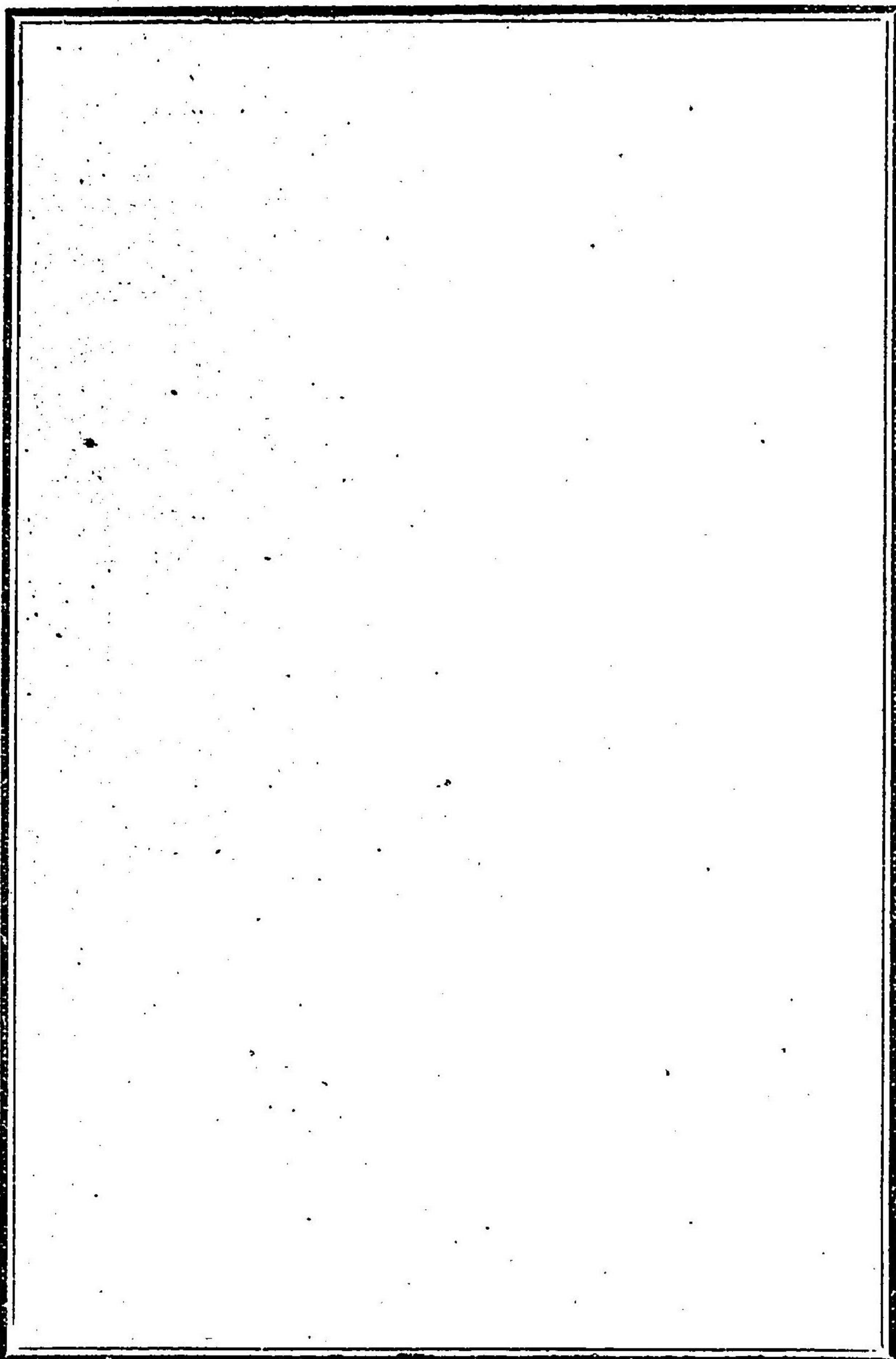
軍樂	對馬警備隊	輜重兵大隊	工兵大(中)隊	砲兵		騎兵	步兵		兵種	各隊々中具	永續料	月額
				大	聯		大	聯				
四圓七拾七錢壹厘			拾壹圓四拾貳錢四厘	拾三圓貳拾五錢三厘	四拾壹圓三拾七錢八厘	貳圓貳拾八錢九厘	貳圓貳拾八錢四厘	五圓拾五錢八厘	近衛師	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘
四圓七拾七錢壹厘	拾五圓四拾六錢壹厘	貳拾圓拾錢八厘	貳拾五圓拾壹錢三厘	拾三圓三拾三錢四厘	四拾七圓八拾四錢五厘	貳圓九拾壹錢壹厘	貳圓九拾壹錢七厘	七圓三拾錢七厘	師團	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘
四圓七拾七錢壹厘	拾五圓四拾六錢壹厘	貳拾圓拾錢八厘	貳拾五圓拾壹錢三厘	拾三圓三拾三錢四厘	四拾七圓八拾四錢五厘	貳圓九拾壹錢壹厘	貳圓九拾壹錢七厘	七圓三拾錢七厘	師團	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘

第二十九表

軍樂	對馬警備隊	輜重兵大隊	工兵大(中)隊	砲兵		騎兵	步兵		兵種	各隊	應府具	永續料	月額
				大	聯		大	聯					
四圓七拾七錢壹厘			拾壹圓四拾貳錢四厘	拾三圓貳拾五錢三厘	四拾壹圓三拾七錢八厘	貳圓貳拾八錢九厘	貳圓貳拾八錢四厘	五圓拾五錢八厘	近衛師	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	
四圓七拾七錢壹厘	拾五圓四拾六錢壹厘	貳拾圓拾錢八厘	貳拾五圓拾壹錢三厘	拾三圓三拾三錢四厘	四拾七圓八拾四錢五厘	貳圓九拾壹錢壹厘	貳圓九拾壹錢七厘	七圓三拾錢七厘	師團	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	四圓七拾七錢壹厘	

第三十表

騎兵	大	隊	兵種		各隊	應府具	永續料	月額
			近衛	師團				
九拾四圓九拾三錢五厘			九拾四圓九拾三錢五厘	九拾四圓九拾三錢五厘	九拾四圓九拾三錢五厘	九拾四圓九拾三錢五厘	九拾四圓九拾三錢五厘	九拾四圓九拾三錢五厘



朕帝國憲法第八條第二項ニ依リ明治二十四年勅令第四十六號ノ效力ヲ將來ニ失ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月九日

- 内閣總理大臣 兼 伯爵 松方正義
- 大藏大臣 內務大臣 伯爵 大木喬任
- 文部大臣 伯爵 大木喬任
- 外務大臣 伯爵 大木喬任
- 逓信大臣 伯爵 藤原義典
- 海軍大臣 伯爵 高島綱之助
- 陸軍大臣 伯爵 高島綱之助
- 司法大臣 伯爵 河野敏錄
- 農商務大臣 伯爵 河野敏錄

勅令第四十七號 (官報 六月十日)

明治二十四年勅令第四十六號ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フモノトス

〔参照〕

大日本帝國憲法抄錄

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ必要ニ由リ帝國議會開會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

勅令第四十六號(明治二十四年五月十六日)
内務大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ新聞紙雜誌又ハ文書圖畫ニ外交上ニ係ル事件ヲ記載スル者ヲシテ豫メ其草案ヲ提出セシメ之ヲ檢閲シテ其部態ヲ察スルコトヲ得之ヲ犯ストキハ發行人編輯人又ハ發行著作者ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
内務大臣ノ檢閲ヲ經タル事項ヲ轉載スルハ前項ノ限ニアラス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕明治二十五年徵集ス可キ新兵ノ員數ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀
陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第四十八號(官報 六月十四日)
明治二十五年徵集ス可キ新兵ノ員數左表ノ通定ム

明治二十五年徵集新兵員數表

所屬	陸		海		計
	歩兵	騎兵	砲兵	工兵	
近衛師團	一九四七	九四二	〇	七四	二、〇六四
第一師團	一九四九	九四一	〇	〇	三、九〇〇
第二師團	一九七四	九六一	〇	〇	二、九〇一
第三師團	一九二六	一〇二二	〇	〇	二、九四八
第四師團	一九三五	一〇二五	〇	〇	二、八八〇
總計	一、九三三	一、〇一〇	〇	〇	二、九四三

對馬警備隊區ノ壯丁ニシテ檢査合格ノ者ハ悉皆警備隊ニ充フルヲ以テ本表ニ其員數ヲ掲ケス

軍	海		計
	第五師團	第六師團	
第五師團	一九二八	九五二	〇、一一〇
第六師團	一九七八	九六一	〇、一五九
海	〇	〇	〇、〇〇〇
總計	三、九〇六	一、九〇三	五、八〇九

朕陸軍總工靴工入營期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十三日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第四十九號(官報 六月十四日)

明治二十五年徵集ス可キ陸軍總工靴工ハ來明治二十六年四月一日ニ入營セシム但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ四月一日ニ入營シ難キ者及補缺員ハ同月三十日迄ニ入營セシム

朕海軍懲罰令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月十六日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五十號(官報 六月十七日)

海軍懲罰令中左ノ通改正ス

第九條 候補生及軍屬本令ヲ犯シタルトキハ軍人ト同シク處分ス海軍所屬ノ生徒乘艦中本令ヲ犯シタルトキ亦同シ但委任官及候補生ハ將校ト同シク處分シ判任官ハ准士官ト同シク處分シ生徒ハ下士ト同シク處分シ其他ノ軍屬ハ卒ト同シク處分ス

第十六條 甲所ニ於テ本令ヲ犯シ未タ處分ヲ受ケスレテ乙所ニ轉シタル者ハ甲所其罰ヲ擬定シ乙所之ヲ處罰ス

〔參照〕

勅令第三百三十四號海軍懲罰令(明治二十二年十二月二十四日官報)抄錄

第九條 軍屬本令ヲ犯シタルトキハ軍人ト同シク處分ス海軍所屬ノ生徒乘艦中本令ヲ犯シタルトキ亦同シ但委任官ハ將校ト同シク處分シ判任官一等ハ准士官ト同シク處分シ判任官二等以下及生徒ハ下士ト同シク處分シ其他ハ卒ト同シク處分ス

第十六條 甲所ニ於テ本令ヲ犯シ未タ處分ヲ受ケスレテ乙所ニ轉シタル者ハ乙所ニ於テ之ヲ處分ス

朕鐵道會議規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日

内閣總理大臣兼內務大臣伯爵松方正義

勅令第五十一號(官報 六月二十一日)

鐵道會議規則

- 第一條 鐵道會議ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ其諮詢ニ應ジ左ノ事項ヲ審議スルモノトス
 - 一 鐵道敷設法第十五條ニ掲グル事項
 - 二 新設鐵道ノ線路及設計並工費豫算

三 私設鐵道買收ノ方法順序

四 汽車發着ノ度數及運賃定率ニ關スル事項

五 技術上ノ規程ニ關スルモノヲ除ク外鐵道運輸規則及鐵道警察規則ニ關スル事項

六 其他內務大臣ノ諮詢スル事項

第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ制定シ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十人及臨時議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

內務省及鐵道廳高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人大藏省海軍省農商務省逓信省高等官各一人ハ議員中ニ加フヘキモノトス

第五條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ議員及臨時議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ議員及臨時議員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

議員ノ任期ハ三年トス但滿期ノ後再任セララルコトヲ得

第六條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ內務大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第七條 議長事故アルトキハ其指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條 鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ委任官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ヲ整理ス

第九條 議長議員臨時議員及幹事ハ無俸給トス但其他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限り一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ內務廳又ハ鐵道廳屬ヲ以テ之ニ充ツ

朕土木會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日

内閣總理大臣兼内務大臣伯耆松方正義

勅令第五十二號(官報 六月二十一日)

土木會規則

- 第一條 土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路築港ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス
- 第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第四條 土木會ハ會長一人委員二十人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
内務省及鐵道廳高等官三人陸軍省及參謀本部高等官二人農商務省高等官二人海軍省遞信省工科大學教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス
- 第五條 土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得
- 第五條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員及臨時委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第六條 會長ハ任期ハ三年トス但滿期ノ後再任セラルハコトヲ得
- 第七條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ内務大臣及主任各省大臣ニ具申ス
- 第七條 會長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ委任官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條 會長委員臨時委員及幹事ハ無俸給トス但他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限り一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 土木會ニ書記ヲ置ク會長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス
書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

朕臨時橫濱築港局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十日

内閣總理大臣兼内務大臣伯耆松方正義

勅令第五十三號(官報 六月二十一日)

臨時橫濱築港局官制

- 第一條 臨時橫濱築港局ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ橫濱築港工事ヲ施行スルコトヲ掌ル
 - 第二條 臨時橫濱築港局ニ左ノ職員ヲ置ク
- | | |
|----|-----|
| 局長 | 一人 |
| 次長 | 一人 |
| 技師 | 四人 |
| 屬 | 十四人 |
| 技手 | 十六人 |

- 第三條 局長ハ神奈川縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 局長ハ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第五條 局長ハ局中處務細則ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 局長ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第七條 局長ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第八條 局長ハ其局豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第九條 次長ハ奏任トス局長ノ事務ヲ助ケ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第十條 技師ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ築港ノ事業ヲ分掌ス
- 第十一條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第十二條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ工事造クハ船舶ノ運用ニ從事ス

朕茲ニ臨時橫濱築港局次長俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十五年六月二十日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第五十四號(官報 六月二十一日)
臨時橫濱築港局次長 年俸千五百圓

朕明治十二年三月第十一號布告萬國郵便聯合條約及明治十九年二月第二號布告萬國郵便聯合條約里斯本追加書改正ノ萬國郵便條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十二日(官報 六月二十三日)

内閣總理大臣伯爵松方正義
外務大臣子爵榎本武揚
遞信大臣伯爵後藤藤象二郎

萬國郵便聯合

日耳曼、日耳曼保護國、亞米利加合衆國、亞然的音共和國、埃地利洪島利、白耳義、ボリビア、伯西兒、勃爾瓦利、智利、古倫比亞共和國、公果獨立國、古西多利加共和國、丁抹及其殖民地、ドミニカン、共和國、埃及、エクトワドル、西班牙及其殖民地、佛蘭西及其殖民地、大不烈顛及其殖民地、深太刺利英領殖民地、加那太、英領印度、希臘、ガテマラ、ハイチ、共和國、布哇王國、ホンジュラス、共和國、伊太利、日本、リベリア、共和國、歷山堡、墨西哥、滿得涅各羅、ニカラガ、那威、パナグ、和蘭及其殖民地、白露、波斯、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼亞、露西亞薩瓦多、塞爾維亞、暹羅王國、南亞弗利加共和國、瑞典、瑞典西、突尼斯、蘇丹、土耳其、ウルグー、及「ベネズエラ」合衆國ノ間ニ締結セル萬國郵便條約

下ニ氏名ヲ連署スル前掲各國政府ノ全權委員ハ千八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結セシ萬國郵便條約第十九條ニ據リ維也納ニ於テ大會議ヲ開キ更ニ各國ノ批准ヲ受クヘキモノトシテ前記條約及千八百八十五年三月二十一日里斯本ニ於テ締結セシ追加書ヲ協議修正セシ條款左ノ如シ

第一條

本條約ヲ締結スル諸國竝ニ今後之ニ加盟スル諸國ハ各々其郵便局ノ間ニ互ニ郵便物ヲ交換スル爲メ萬國郵便聯合ノ名稱ヲ以テ單一ノ郵便邦羣ヲ組成ス

第二條

本條約ノ條款ハ聯合中ノ甲國ヨリ發シ聯合中ノ乙國ニ宛タル信書、通常端書、往復端書、各種印刷物、訴訟用及商業用書類並ニ商品見本及聯合中ノ諸國ト聯合外ノ諸國トノ間ニ二箇以上ノ聯合國ノ媒介ニ依リ前記郵便物ノ郵送交換ニ適用スヘキモノトス

第三條

一 境界相接スル國或ハ他國ノ媒介ヲ借ラシテ相互直接ニ郵便物ヲ交換シ得ヘキ國ノ郵政廳ハ協議ノ上其境界ヲ互ニ通過シ或ハ其一國ノ境界ヨリ他ノ一國ノ境界迄各自ノ郵便物ヲ遞送スル條件ヲ約定スヘシ

二 甲乙兩國ノ間ニ其一國ニ屬スル郵船又ハ船舶ヲ以テ直チニ海運ヲ爲ストキハ特殊ノ約定アルモノヲ除キ媒介ノ運搬ト見做スヘシ此海運ヲ以テ遞送スルモノ竝ニ甲國ニアル兩郵便局ノ間ニ於テ乙國ノ管スル海運若クハ陸運ノ媒介ヲ以テ遞送スルモノハ共ニ左ノ條款ニ照シテ處理スヘキモノトス

第四條

一 聯合邦羣内ニ於テハ互ニ繼續遞送ノ自由ヲ保護シ之ヲ妨害スルコトナカルヘシ
二 故ニ聯合ノ諸郵政廳ハ郵便事務ノ需用ト其必要トニ從ヒ閉塞或ハ開塞ヲ以テ一應若クハ數廳ノ媒介ニ依リ互ニ其郵便物ヲ差立ルヲ得
三 聯合中ナル兩郵政廳ノ間ニ聯合中ナル他ノ一廳或ハ數廳ノ運搬ニ依リ閉塞若クハ開塞ニテ郵便物ヲ交換スルトキハ其郵便物ノ通過スル諸國或ハ其運搬ヲ爲ス諸國へ各々左ノ繼續遞送貨

ヲ拂フヘシ

第一 陸路ハ信書或ハ端書「キログラム」ニ付「二フランク」其他ノ物品ハ「キログラム」ニ付二十五「サンチム」

第二 海路ハ信書或ハ端書「キログラム」ニ付十五「フランク」其他ノ物品ハ「キログラム」ニ付「二フランク」

四 左ニ記載スルモノハ前項ノ限ニアラス

第一 現今已ニ繼續遞送ヲ納メス或ハ更ニ低下ノ約束ヲ實行スル國々ニ於テハ左ノ第三ニ記載スル場合ヲ除キ其他ハ從前ノ通タルヘシ

第二 現時海路繼續遞送貨ヲ信書或ハ端書「キログラム」ニ付五「フランク」其他ノ物品「キログラム」ニ付五十「サンチム」ト定メタル國々ニ於テハ今後モ此割合ヲ改メサルヘシ

第三 三百海里ヲ超過セサル海運ヲ以テ遞送スル郵便物ハ其海運ヲ管スル郵政廳已ニ陸地運送ノ部ニ於テ其郵便物ニ付陸運貨ヲ收メタルトキハ復其海運貨ヲ收メサルヘシ若シ然ラスシテ陸地運送ノ部ニ於テ其郵便物ニ付陸運貨ヲ收メサルトキハ信書或ハ端書「キログラム」ニ付「二フランク」其他ノ物品「キログラム」ニ付二十五「サンチム」ヲ徴收スヘシ

第四 二國以上ノ郵政廳ニ於テ海運ヲ爲ストキハ其全路ノ運送貨ハ信書或ハ端書「キログラム」ニ付十五「フランク」其他ノ物品「キログラム」ニ付「二フランク」ヲ超過スヘカラス而シテ斯ノ如キ場合ニ於ケル運送貨ハ其運送ノ距離ニ應シテ各廳ノ間ニ分割スヘシ尤モ其關係スル諸國ノ間ニ特殊ノ約定アルモノハ此限ニアラス

第五 本條記載ノ運送貨ハ聯合外郵政廳ノ管理ニ係ル運搬ト聯合内ト雖モ一廳ニ於テ他ノ

一 應若クハ敷騰ノ利益ヲ謀リ或ハ其依頼ニ依リ特ニ開設若クハ維持スル特殊ノ運搬トニハ之ヲ適用セス此兩種ノ運搬ニ關スル條件ハ其關係スル諸國ノ間ニ於テ協議約定スルコトヲ得

五 繼續運送貨ハ郵便物差立國ノ郵政廳之ヲ負擔スヘシ

六 此繼續運送貨ノ總勘定ハ每三箇年第二十條ニ記載スル細目規則ヲ以テ定ムル二十八日ノ期限内ニ調製スル統計表ニ基キ之ヲ施行スヘシ

七 各郵政廳相互ノ間ニ發着スル郵便物差立國へ返送スル返信端書再發又ハ誤達ノ郵便物沒費到達證郵便爲替其他都テ郵便事務ニ關スル書類ハ其海陸ノ繼續運送貨ヲ免除スヘシ

第五條

一 聯合邦國內郵便物運送ノ税金ハ從來配達ノ設ケアル聯合國又ハ彼來配達ヲ開クヘキ聯合國共ニ其名宛人ノ住所へ配達スル迄ヲ合シ左ノ如ク定ムヘシ

第一 信書ハ一通毎ニ且ツ十五「グラム」又ハ十五「グラム」ノ端數ニ付前拂ノトキハ二十五「サンチメートル」前拂ナキトキハ其一倍

第二 郵便端書ハ通常端書或ハ往復端書ノ各片ニ付十「サンチメートル」未納稅ノ郵便端書ハ未納稅信書ノ稅ヲ徵收ス

第三 各種ノ印刷物訴訟用及商業用書類並ニ商品見本ハ一ノ名宛アル一箇ノ物品若クハ一箇ノ包束物毎ニ且ツ五十「グラム」又ハ五十「グラム」ノ端數毎ニ五「サンチメートル」但シ

如斯物品若クハ包束物ハ決シテ信書若クハ現ニ相互ノ間ニ往復スル通信文ノ性質ヲ具フル書類ヲ包含スヘカラス且ツ檢査シ易ク包裝スヘシ
訴訟用及商業用書類ノ郵便稅ハ一箇ニ付二十五「サンチメートル」又商品見本ノ郵便稅ハ一箇ニ付十「サンチメートル」ヲ降下スヘカラス

二 前項ニ定ムル郵便稅ノ外左ノ増稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一 信書或ハ端書「キログラム」ニ付十五「グラム」其他ノ物品「キログラム」ニ付「一」「グラム」ノ海路繼續運送貨ヲ拂フヘキ郵便物ニ付テハ其運送貨ヲ適用スル諸國ノ關係ニ於テ信書一通分ニ付二十五「サンチメートル」端書一枚ニ付五「サンチメートル」其他ノ物品ハ五十「グラム」若クハ五十「グラム」ノ端數ニ付五「サンチメートル」ヲ超過セサル均一ノ増稅

第二 聯合外ノ郵政廳ニ於テ管理スル運搬或ハ聯合内ニ於テ特ニ費用ヲ要スル特殊ノ運搬ニ屬スル各郵便物ニ就テハ其費用相當ノ増稅

三 不足稅ノ郵便物ハ其種類ニ拘ハラズ都テ受取人ヨリ其不足額ノ二倍ヲ徵收スヘシ但シ此二倍額ハ名宛國ニ於テ同種類同重量及同出處未納稅郵便物ニ付徵收スル稅額ヲ超過スルヲ得ス

四 信書及郵便端書ヲ除キ其他ノ郵便物ハ少クモ郵便稅ノ一部分ヲ前拂スヘシ

五 商品見本ノ包束物ハ市價ヲ有スル物品ヲ封入スルヲ得ス其重量ハ二百五十「グラム」且ツ其尺度ハ長サ三十「サンチメートル」幅二十「サンチメートル」厚サ十「サンチメートル」若シ卷物體ノモノナルトキハ長サ三十「サンチメートル」中徑十五「サンチメートル」ヲ超過スルヲ得ス但シ關係國郵政廳ハ協議ノ上其相互ノ交換ニ於テ前記ノ制限ヲ超過シタル重量尺度ヲ採用スルヲ得訴訟用及商業用書類並ニ印刷物ノ包束物ハ其重量「キログラム」及其一面ノ寸尺ハ四十五「サンチメートル」ヲ超過スルヲ得ス但シ卷物體ノ包束物ニシテ其中徑十「サンチメートル」其長サ七十五「サンチメートル」ヲ超過セサルモノハ之ヲ郵送スルヲ得

第六條

一 第五條ニ記載スル郵便物ハ書留トシテ差立ツルコトヲ得

二 書留郵便物ハ差出人ヨリ左ノ郵便稅ヲ徵收ス

第一 郵便物ノ種類ニ依リ通常前拂ノ税額

第二 差出人ハ交付スル領收證ヲ合シ二十五「サンチーム」ヲ超過セサル書留手數料

第三 書留郵便物ノ差出人ハ二十五「サンチーム」ヲ超過セサル手數料ヲ前拂スルトキハ其郵便物ノ到達證ヲ請求スルヲ得

第七條

一 書留郵便物ハ其金額五百「フランク」迄ヲ限リ代金引換渡方法ノ開設ヲ承諾シタル國々ノ間ニ於テハ該方法ニ據リ之ヲ差立ツルヲ得此郵便物ハ書留郵便物ト同一ノ手續ニ依リ同一ノ税金ヲ徴收スヘシ

二 名宛人ヨリ取立タル金額ハ其郵便爲替料及ロ十「サンチーム」ノ取立手數料ヲ扣除シタル後郵便爲替ニ依リ差出人ニ送付スヘシ

第八條

一 書留郵便物ノ紛失セシトキハ天災地變其他防止シ難キ場合ヲ除キ其差出人或ハ差出人ノ依頼ニ由リ其名宛人ハ五十「フランク」ノ償金ヲ要求スルコトヲ得

二 償金支拂ノ義務ハ差立局ヲ管理スル郵政廳之ヲ負擔ス但シ該郵政廳ハ辨償ノ責アル郵政廳即チ其領地内或ハ其管掌中ニ於テ紛失ヲ生シタル郵政廳ニ對シ償金ノ拂戻ヲ要求スルコトヲ得

三 郵便物ヲ異議ナク受領シタル後其名宛人ニ配達シ若クハ規則ニ依リ繼續郵政廳ニ引渡シタルコトヲ證明シ能ハサル郵政廳ハ其反對ノ證左ヲ舉グル迄ハ償金支拂ノ責ニ任スルモノトス但シ留置郵便物ニ就テハ名宛國ノ現行規則ニ據リ姓名、身分共ニ該郵便物ノ表記ト同一ナルコトヲ證明セル人ニ交付シタルトキハ其責ヲ免カルモノトス

四 差立廳ニ於テ償金ノ任拂ハ可成速ニ之ヲ爲スヘシ遲クモ其要求ノ日ヨリ起算シ一箇年ヲ超過スルヲ得ス又辨償ノ責アル郵政廳ハ遲滞ナク差立廳ヘ拂戻スヘシ若シ責任郵政廳ニ於テ償金

ノ任拂ヲ承諾セサル旨ヲ差立郵政廳ヘ通知スル場合ニ於テハ責任廳ハ其任拂ノ不承諾ヨリ生スル費用ヲ差立廳ヘ辨償スヘシ

五 償金ノ要求ハ書留郵便物差出ノ日ヨリ一箇年間ヲ限り之ヲ受理ス此期限ヲ經過シタル後ハ要求者ハ何等ノ辨償ヲ受ルノ權利ナキモノトス

六 書留郵便物遞送中紛失シ其紛失何國ノ領地内ニ於テ生シヤヤ確定スル能ハサルトキハ關係諸郵政廳ハ平等ニ其償金ヲ分擔スヘシ

七 書留郵便物ノ權利者受取證ヲ差出シ受領シタル後ハ諸郵政廳其責ニ任セサルモノトス

第九條

一 郵便物ノ差出人ハ其郵便物ノ未タ名宛人ニ配達セラレザル間ハ之ヲ取戻シ又ハ其名宛ヲ變更スルコトヲ得

二 取戻又ハ名宛變更ノ請求ハ差出人左ノ税金ヲ自辨スルトキハ郵便又ハ電信ニテ之ヲ送達ス

第一 郵便ニ依リ請求スルトキハ書留信書一通分ノ郵便税

第二 電信ニ依リ請求スルトキハ通常ノ電報料

三 本條ノ條款ハ郵便物ノ遞送中差出人ヲシテ隨意ニセシムルコトヲ許サ、ル法制ノ國ニ於テハ必スシモ之ヲ遵守スルノ義務ヲ有セサルモノトス

第十條

「フランク」ヲ以テ貨幣ノ單位トセサル聯合諸國ハ第五條及第六條ニ定ムル割合ニ從ヒ各其國ノ貨幣ヲ以テ税額ヲ定ムヘシ而シテ其端數ハ本條約第二十條ニ記載スル實施細目規則ニ附スル表ニ從ヒ全數ニ切上クルヲ得

第十一條

一 郵便物ノ何種類ヲ問ハス郵便税ノ前拂ハ必ス其差立國ニ於テ效力ヲ有スル郵便切手ヲ以テス

ヘシ但シ返信端書ニシテ其發行國ノ郵便切手ヲ有スルモノハ均シク正當ニ前拂セシモノト見做スヘシ

二 郵便事務ニ關シ諸郵政廳ノ間ニ交換スル官用郵便物ニ限リ何等ノ郵便税ヲ課セサルヘシ

三 郵便船航海中其船上ニ設ケアル函内ニ投入シ或ハ其船長ニ交附スル郵便物ハ該郵便船ノ所屬國又ハ維持國ノ税表ニ從ヒ其國ノ郵便切手ヲ以テ前拂スルヲ得若シ船舶其航海ノ甲乙兩極點ニ若クハ航海途中ノ寄港地ニ碇泊スルトキ投函若クハ交付スル郵便物ハ投錨スル國ノ税表ニ從ヒ其國ノ郵便切手ヲ以テ納税セサレハ前拂ノ效力ナキモノトス

第十二條

一 第五條第六條第七條第十條及第十一條ニ從ヒ徵收スル金額ハ全ク各郵政廳ノ所得ニ歸スヘシ但シ第七條第二項ニ記載スル爲替ヨリ生スル收入金ハ此限ニアラス

二 故ヨ本條第一項ニ記載スル爲替ヨリ生スル收入金ヲ除キ聯合各郵政廳ノ間ニ何等ノ計算ヲ爲スヲ要セス

三 信書及其他ノ郵便物トモ差立國若クハ名宛國ニ於テ差出人或ハ名宛人ヨリ前記諸條ニ記載スルモノヲ除キ其他ノ郵便税若クハ手数料ヲ徵收スヘカラス

第十三條

一 聯合諸國中其相互ノ關係ニ於テ別配達業務ノ開設ヲ承諾セシ國々ノ間ニ於テハ差出人ノ請求ニ依リ各種郵便物ノ到着スルヤ直チニ特別配達人ヲ以テ其名宛人ノ住居ヘ配達ス

二 此郵便物ハ別配達ト稱シ特別配達料ヲ徵收ス此配達料ハ二十「サンテーム」ト定メ差出人通常郵便局ヲ設置セサル地方ニ宛テタル別配達ノ郵便物ニ付テハ名宛郵政廳ニ於テ其内地郵便物別配達ノ爲メニ定メタル税額ニ達スル迄更ニ補充税ヲ徵收スルヲ得但シ此補充税ハ差出人ノ

前拂シタル別配達料ノ額ヲ引去リ或ハ補充税徵收國ノ通貨ニ對スル其相當額ヲ引去リ計算スヘキモノトス

第十四條

一 聯合内ニ於テハ郵便物ノ再發ニ對シ何等ノ増税ヲ徵收セス

二 配達シ能ハサル郵便物ニ付テハ先キニ遞送セシトキ媒介廳ニ於テ收入シタル繼續運送賃ヲ返還スルヲ要セス

三 未納税信書及郵便端書並ニ不足税ノ諸郵便物ニシテ再發ノ爲メ若クハ配達シ能ハサル爲メ差立國ニ返送セラレタルトキハ第一名宛國ヨリ差立國ヘ直チニ發送シタル同性質ノモノト同一ナル郵便税ヲ差出人若クハ名宛人ヨリ徵收スヘシ

第十五條

一 閉塞郵便ハ締盟國ノ或ル一國ノ郵便局ト外國ニ碇泊スル同國ノ艦隊司令官若クハ軍艦長トノ間ニ他國ノ管理ニ屬スル海陸郵便ノ媒介ニ依リ之ヲ交換スルコトヲ得

二 閉塞郵便ニ含有スル諸郵便物ハ軍艦ノ乘組士官及ヒ其他ノ乘組員ヨリ發シ或ハ是等ニ宛タルモノニ限ルヘシ此郵便物ニ適用スヘキ税額及遞送法ハ軍艦所屬國ノ郵政廳其内地ノ規則ニ從ヒ之ヲ定ムルモノトス

三 關係諸國郵政廳ノ間ニ於テ特殊ノ約定アルモノヲ除キ閉塞郵便差立廳若クハ名宛廳ハ其媒介廳ニ對シ第四條ニ定ムル條款ニ據リ算定セル繼續運送賃ヲ仕拂フヘシ

第十六條

一 左ニ掲グルモノハ郵送セサルヘシ

甲 少クモ郵便税ノ一部分ヲ前拂セサル若クハ容易ニ検査シ得ル如ク包装セサル訴訟用及

商業用書類商品見本並ニ印刷物

乙 第五條ニ定ムル重量及尺度ノ制限ヲ超過スル同種類ノ郵便物

丙 市價ヲ有スル商品見本

二 前項ニ記載スル郵便物ハ差立國へ返送シ違付ノ途アルトキハ差出人ニ還付スヘシ

三 禁制ノ事項左ノ如シ

第一 左記ノモノヲ郵便ニテ發送スル事

甲 其品質郵便更員ニ危害ヲ及ホシ若クハ他ノ郵便物ヲ汚穢、損害スヘキ商品見本及其他ノ物品

乙 爆發性、燃爆性若クハ危険ナル物品、生死ノ獸類及虫類但シ實施細目規則ニ記載スル例外ノモノハ此限ニアラス

第二 左記ノモノヲ通常又ハ書留郵便物ニ封入郵送スル事

甲 流通正貨

乙 關稅ヲ課スヘキ物品

丙 金銀、寶石、珠玉其他高價ノ物品但シ其國ノ法制ニ於テ封入若クハ遞送ヲ許サ、ル場合ニ限ル

四 前第三項ノ禁制ニ觸レタル郵便物ニテ誤テ發送セラレタルモノハ其差立國へ返還スヘシ但シ名宛國郵政廳ニ於テ其内地ノ法律規則ニ據リ他ニ之ヲ處分シ得ヘキモノハ此限ニアラス

五 聯合各國ノ政府ハ低稅遞送ノ郵便物ニシテ其國內ニ於テ發行或ハ流布ノ條件ヲ規定スル法律勅令若クハ命令ニ抵觸シ又ハ現行ノ法規ニ依リ禁セラレタル文章、字句、圖畫等ヲ明記スル各種ノ郵便物ヲ其領地内ヲ經テ遞送又ハ配達スルコトヲ拒ムノ權利ヲ有ス

第十七條

一 聯合外ノ諸國ト關係ヲ有スル聯合内ノ郵政廳ハ聯合内ノ他國ヲシテ此聯合外ノ諸國ト郵便物ヲ交換セシムル爲メ其相互關係ノ利益ヲ享有セシムヘシ

二 聯合内ノ一國ト聯合外ノ一國トノ間ニ聯合他國ノ媒介ニ依リ開蕪ヲ以テ交換スル郵便物其聯合國外ノ遞送ニ付テハ其媒介國ト其聯合外ノ國トノ間ニ於テ郵便ノ關係ヲ制定スル特殊ノ條約約定又ハ規則ニ據リ處理スヘシ

三 聯合外ノ國ニ發著スル郵便物ノ聯合疆内ニ係ル繼越遞送貨ニ就テハ聯合外ノ國ト關係ヲ有スル聯合國ヨリ發著スルモノト同一視スヘシ

四 聯合外ノ國ニ宛テタル郵便物ハ聯合疆外ニ係ル繼越遞送貨トシテ聯合外ノ國ト關係ヲ有スル聯合國へ左ノ運賃ヲ拂フヘシ

甲 聯合外ノ海運ニ付テハ信書又ハ郵便書一「キログラム」ニ付「二十」フランク其他ノ物品一「キログラム」ニ付「二十」フランク

乙 聯合外ノ陸運ニ付テハ時宜ニ依リ聯合外ノ媒介國ト關係ヲ有スル聯合國ヨリ通知スル重量毎一「キログラム」ノ運賃

五 二國以上ノ郵政廳ニ於テ海運ヲ爲ストキハ聯合ノ内外ニ拘ハラス其全路ノ遞送貨ハ信書又ハ郵便書一「キログラム」ニ付「二十」フランク其他ノ物品一「キログラム」ニ付「二十」フランクヲ超過スヘカラス而シテ如斯場合ニ於ケル運送貨ハ其運送ノ距離ニ應ジテ各廳ノ間ニ分配スヘシ尤モ其關係スル諸廳ノ間ニ特殊ノ約定アルモノハ此限ニアラス

六 前記ノ聯合疆外ニ係ル繼越遞送貨ハ差立國郵政廳之ヲ負擔シ其運送貨ハ開蕪ト閉蕪トニ拘ハラス總テ之ヲ適用ス然レトモ聯合國ヨリ發シ聯合外ノ國ニ宛テ又ハ聯合外ノ國ヨリ發シ聯合國へ宛テタル閉蕪郵便ノ場合ニ於テ其繼越遞送貨ノ計算法ニ付テハ豫メ關係郵政廳ノ間ニ協議約定スヘシ

聯合國ト聯合外ノ國トノ間ニ聯合ノ他國ノ媒介ニ依リ交換スル郵便物ノ繼續運送賃ニ關スル總勘定ハ聯合内ニ於ケル繼續運送賃算定ノ爲メ第四條ニ從ヒ調製スル統計表ト同時ニ調製スル統計表ニ基キ之ヲ施行スヘシ

八 聯合國ノ媒介ニ依リ聯合外ノ國ヨリ發著スル郵便物ニ付聯合國ニ於テ徵收スル郵便稅額ハ聯合稅額ヲ降下スヘカラス此郵便稅ハ之ヲ徵收セシ國ノ全ク所得ニ歸ス

第十八條

締盟各國政府ハ郵便稅前拂ノ爲メ偽造若クハ已ニ使用セシ郵便切手ノ詐欺使用ヲ所罰スル爲メ必要ノ處分法ヲ設ケ或ハ此處分法ヲ其議會ニ提出スヘキコトヲ約定シ且ソ他ノ加盟國郵政廳ノ發行スル郵便切手ト區別シ難ク摸造又ハ偽造セシ郵便切手ノ詐欺製造販賣行賣及分配ヲ禁遏責罰スル爲メ必要ノ處分法ヲ設ケ或ハ此處分法ヲ其議會ニ提出スヘキコトヲ約定ス

第十九條

價額公記書狀及箱物並ニ郵便爲替郵便小包除金取立商券身元證明帳新聞豫約等ノ事務ハ聯合國中ノ數國又ハ團體ノ間ニ特別ノ約定ヲ以テ定ムルモノトス

第二十條

一 聯合諸國郵政廳ハ協議ノ上實施ニ必要ト認ムル總テノ手續細目ヲ實施規則ヲ以テ定ムルコトヲ得

二 聯合諸國ノ郵政廳ハ聯合一般ニ關セサル事項ニ付テハ互ニ必要ノ約定ヲ締結スルコトヲ得但シ其約定ハ本條約ニ抵觸スルヲ得ス

三 然レトモ聯合諸國ノ郵政廳ハ三十「キロメートル」以内ノ地ニ限り其郵便稅ノ低減ヲ約定スルコトヲ得

第二十一條

一 本條約ノ諸條款ニ記載スルモノヲ除キ本條約ハ各國ノ制法ニ何等ノ變更ヲ及ホスコトナシ又本條約ハ締盟各國カ其郵便事務ヲ改良スルノ目的ヲ以テ他ノ條約ヲ締結又ハ保持シ或ハ更ニ親密ナル聯合ヲ開設又ハ保持スルノ權利ヲ齎束スルコトナシ

第二十二條

一 萬國郵便聯合總局ノ名義ヲ以テ一箇ノ中央局ヲ保持シ瑞西郵政廳ヲシテ之ヲ監理セシメ其費用ハ各聯合郵政廳之ヲ分擔スヘシ
二 萬國郵便聯合總局ノ任務ハ萬國郵便事務ニ關スル各般ノ狀況報告ヲ集メテ印刷配付シ若シ聯合諸國ノ間ニ異議ヲ生スルトキハ其異見ヲ有スル各廳ノ請求ニ應ジテ意見ヲ付シ又大會議ノ決議ヲ變更スルノ建議アルトキハ之ヲ通知シ及其決局ヲ通告シ且ソ聯合ノ利益ニ關スル各般ノ事項ヲ考察施行スルニアリ

第二十三條

一 本條約ノ解釋又ハ書留郵便物紛失ニ關スル郵政廳ノ責任ニ對シ聯合ノ二廳以上ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ仲裁ヲ以テ之ヲ裁決ス而シテ之ヲ裁決セシムル爲メ異見ヲ有スル各廳ハ此事件ニ直接ノ關係ヲ有セサル聯合ノ他ノ一廳ヲ各自ニ推撰スヘシ
二 仲裁ノ裁決ハ其仲裁員ノ過半數ノ意見ヲ以テ之ヲ決定スヘシ
三 若シ可否ノ意見同數ナルトキハ其異見ヲ決定セシムル爲メ仲裁總員ハ等シク此事件ニ關係ヲ有セサル他ノ一廳ヲ推撰スヘシ

四 本條ノ條款ハ前第十九條ニ據リ締結セル諸約定ニモ亦均シク適用スルモノトス

第二十四條

一 本條約ニ加盟セサル諸國ハ其請求ニ依リ加盟スルコトヲ得
二 此加盟ヲ爲サント欲スルトキハ外交上ノ手續ヲ經テ瑞西聯邦政府ヘ通知スヘシ瑞西聯邦政府

ハ之ヲ聯合各國ニ轉知スヘシ

三 聯合ニ加盟シタルモノハ本條約ノ定ムル諸節目ヲ遵奉シ且ツ其利益ヲ享有スルハ勿論タルヘシ

四 瑞西聯邦政府ハ加盟セント欲スル國ノ政府ト協議ノ上其國ノ郵政廳ニ於テ分擔スヘキ萬國郵便聯合總管理局ノ經費ヲ定メ且ツ時宜ニ依リ第十條ニ從ヒ同應ノ徵收スヘキ稅額ヲ定ムヘシ

第二十五條

一 聯合諸國ノ政府若クハ郵政廳三分ノ二以上ヨリ會議ノ開設ヲ要請シ或ハ贊成スルトキハ其事項ノ輕重ニ從ヒ締盟各國全權委員ノ大會議若クハ單ニ郵政廳員ノ小會議ヲ開クヘシ

二 然レトモ此大會議ハ少クトモ五年毎ニ一回必ス之ヲ開クヘシ

三 締盟各國ハ一名若クハ數名ノ委員ヲ派出シ或ハ他國ノ委員ヲシテ代表セシムルコトヲ得然レトモ一國ノ委員ハ自國ヲ合セテ二國以上ノ委員タルコトヲ得ス

四 會議ニ於テハ諸國各、一ノ表決權ヲ有スルモノトス

五 各大會議ニ於テハ豫メ其次回大會議ノ開設地ヲ定ムヘシ

六 小會議ハ萬國郵便聯合總管理局ノ發議ニ依リ其開設地ヲ定ムヘシ

第二十六條

一 聯合各國郵政廳ハ大會議ノ時期ニ至ラサルモ萬國郵便聯合總管理局ヲ經テ聯合ノ成規ニ關スル發議ヲ他廳ニ提出發送スルノ權利ヲ有ス

二 凡テ發議ハ左ノ方法ニ準據スヘシ

聯合各國郵政廳ハ發議ヲ審查シ且ツ時宜ニ依リ其意見修正又ハ反駁ノ書類ヲ萬國郵便聯合總管理局ヘ送付スル爲メ五箇月間ノ猶豫ヲ受クヘシ總管理局ハ各國ヨリ到達セシ回報ヲ取覽メ可否ノ發言ヲ促ス書狀ト共ニ各國ヘ通知スヘシ萬國郵便聯合總管理局カ各國ヨリ回報セシ意

見テ通告スル第二次回章ノ日附ヨリ起算シ六箇月以内ニ投票ヲ送付セサル各郵政廳ハ別ニ何等ノ意見ヲ有セサルモノト見做スヘシ

三 發議ハ左ノ同意ヲ得サレハ實施スルヲ得ス

第一 本條約ニ新條ヲ追加シ又ハ本條約ニ第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十二條、第十三條、第十四條、第十五條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十三條、第二十四條、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十三條、第三十四條、第三十五條、第三十六條、第三十七條、第三十八條、第三十九條、第四十條、第四十一條、第四十二條、第四十三條、第四十四條、第四十五條、第四十六條、第四十七條、第四十八條、第四十九條、第五十條、第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十四條、第五十五條、第五十六條、第五十七條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條、第六十六條、第六十七條、第六十八條、第六十九條、第七十條、第七十一條、第七十二條、第七十三條、第七十四條、第七十五條、第七十六條、第七十七條、第七十八條、第七十九條、第八十條、第八十一條、第八十二條、第八十三條、第八十四條、第八十五條、第八十六條、第八十七條、第八十八條、第八十九條、第九十條、第九十一條、第九十二條、第九十三條、第九十四條、第九十五條、第九十六條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百條、第一百零一條、第一百零二條、第一百零三條、第一百零四條、第一百零五條、第一百零六條、第一百零七條、第一百零八條、第一百零九條、第一百一十條、第一百一十一條、第一百一十二條、第一百一十三條、第一百一十四條、第一百一十五條、第一百一十六條、第一百一十七條、第一百一十八條、第一百一十九條、第一百二十條、第一百二十一條、第一百二十二條、第一百二十三條、第一百二十四條、第一百二十五條、第一百二十六條、第一百二十七條、第一百二十八條、第一百二十九條、第一百三十條、第一百三十一條、第一百三十二條、第一百三十三條、第一百三十四條、第一百三十五條、第一百三十六條、第一百三十七條、第一百三十八條、第一百三十九條、第一百四十條、第一百四十一條、第一百四十二條、第一百四十三條、第一百四十四條、第一百四十五條、第一百四十六條、第一百四十七條、第一百四十八條、第一百四十九條、第一百五十條、第一百五十一條、第一百五十二條、第一百五十三條、第一百五十四條、第一百五十五條、第一百五十六條、第一百五十七條、第一百五十八條、第一百五十九條、第一百六十條、第一百六十一條、第一百六十二條、第一百六十三條、第一百六十四條、第一百六十五條、第一百六十六條、第一百六十七條、第一百六十八條、第一百六十九條、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十二條、第一百七十三條、第一百七十四條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十七條、第一百七十八條、第一百七十九條、第一百八十條、第一百八十一條、第一百八十二條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條、第一百八十六條、第一百八十七條、第一百八十八條、第一百八十九條、第一百九十條、第一百九十一條、第一百九十二條、第一百九十三條、第一百九十四條、第一百九十五條、第一百九十六條、第一百九十七條、第一百九十八條、第一百九十九條、第二百條

第二 第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十二條、第十三條、第十四條、第十五條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十三條、第二十四條、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十三條、第三十四條、第三十五條、第三十六條、第三十七條、第三十八條、第三十九條、第四十條、第四十一條、第四十二條、第四十三條、第四十四條、第四十五條、第四十六條、第四十七條、第四十八條、第四十九條、第五十條、第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十四條、第五十五條、第五十六條、第五十七條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條、第六十六條、第六十七條、第六十八條、第六十九條、第七十條、第七十一條、第七十二條、第七十三條、第七十四條、第七十五條、第七十六條、第七十七條、第七十八條、第七十九條、第八十條、第八十一條、第八十二條、第八十三條、第八十四條、第八十五條、第八十六條、第八十七條、第八十八條、第八十九條、第九十條、第九十一條、第九十二條、第九十三條、第九十四條、第九十五條、第九十六條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百條、第一百零一條、第一百零二條、第一百零三條、第一百零四條、第一百零五條、第一百零六條、第一百零七條、第一百零八條、第一百零九條、第一百一十條、第一百一十一條、第一百一十二條、第一百一十三條、第一百一十四條、第一百一十五條、第一百一十六條、第一百一十七條、第一百一十八條、第一百一十九條、第一百二十條、第一百二十一條、第一百二十二條、第一百二十三條、第一百二十四條、第一百二十五條、第一百二十六條、第一百二十七條、第一百二十八條、第一百二十九條、第一百三十條、第一百三十一條、第一百三十二條、第一百三十三條、第一百三十四條、第一百三十五條、第一百三十六條、第一百三十七條、第一百三十八條、第一百三十九條、第一百四十條、第一百四十一條、第一百四十二條、第一百四十三條、第一百四十四條、第一百四十五條、第一百四十六條、第一百四十七條、第一百四十八條、第一百四十九條、第一百五十條、第一百五十一條、第一百五十二條、第一百五十三條、第一百五十四條、第一百五十五條、第一百五十六條、第一百五十七條、第一百五十八條、第一百五十九條、第一百六十條、第一百六十一條、第一百六十二條、第一百六十三條、第一百六十四條、第一百六十五條、第一百六十六條、第一百六十七條、第一百六十八條、第一百六十九條、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十二條、第一百七十三條、第一百七十四條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十七條、第一百七十八條、第一百七十九條、第一百八十條、第一百八十一條、第一百八十二條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條、第一百八十六條、第一百八十七條、第一百八十八條、第一百八十九條、第一百九十條、第一百九十一條、第一百九十二條、第一百九十三條、第一百九十四條、第一百九十五條、第一百九十六條、第一百九十七條、第一百九十八條、第一百九十九條、第二百條

第三 本條約ノ解釋ニ關スルトキハ單ニ過半數ノ同意但シ前第二十三條ニ記載スル異見ヲ生スル場合ハ此限ニアラス

四 有效ノ決議ハ第一及第二ノ場合ニ於テハ外交上ノ宣言書ヲ以テ確認ス此宣言書ハ瑞西聯邦政府ニ於テ調製シ締盟各國ノ政府ニ送付スルモノトス而シテ第三ノ場合ニ於テハ單ニ萬國郵便聯合總管理局ヨリ聯合各郵政廳ヘノ通知書ヲ以テ確認スヘシ

五 凡テ可決セシ決議又ハ變更ハ報知ノ後少クモ二箇月ヲ經過セサレハ之ヲ實施セス

第二十七條

第二十二條、第二十五條及第二十六條ヲ實施スルニ當リ左ノ諸國ハ時宜ニ依リ各、一國或ハ一郵政廳ト看做スヘシ

第一 英領印度

第二 加那太領

第三 濠太刺利英領諸殖民地

- 第四 丁抹諸殖民地
- 第五 西班牙諸殖民地
- 第六 佛蘭西諸殖民地
- 第七 和蘭諸殖民地
- 第八 葡萄牙諸殖民地

第二十八條

本條約ハ千八百九十二年七月一日ヨリ實施シ永久無期ニ其效力ヲ有スヘシ然レトモ締盟各國ハ其政府ヨリ瑞西聯邦政府ヘ一箇年前ニ報知スルトキハ聯合ヨリ退盟スルノ權利ヲ有ス

第二十九條

一 從前各國或ハ各郵政廳ノ間ニ於テ締結セタル條約約定、約束及ヒ取極ノ條款中第二十一條ニ掲クル權利ヲ除キ本條約ノ節目ニ牴觸スルモノハ都テ本條約實施ノ日ヨリ廢止スヘシ

二 本條約ハ可成速ニ批准ヲ受クヘシ而シテ此批准書ハ維也納ニ於テ互ニ交換スヘシ

三 前掲諸國ノ全權委員ハ此條約ヲ確證セン爲メ千八百九十一年七月四日維也納ニ於テ此條約ニ姓名ヲ連署スルモノナリ

- 日耳曼及日耳曼保護
- 亞米利加合衆國
- 亞然的音共和國
- 埃地利

ドクトル、ベ、ステファン
ザクセ
フリツシュ
ダブリュニ、エム、ブルークス
ウ井リアム、ボウター
カルロス、カルボ
オーベントラウト
ドクトル、ホフマン
ドクトル、リ、エナウ
ハッペルダール

- 洪島利
- 白耳義
- ポリビア
- 伯西兒
- 勃爾瓦利
- 智利
- 古倫比亞共和國
- 公衆獨立國
- 古西多利加共和國
- 丁抹及其殖民地
- ドミニカン共和國
- 埃及
- エクワドル
- 西班牙及其殖民地
- 佛蘭西
- 佛蘭西殖民地
- 大不列顛及其殖民地

ペ、ハイム
エス、シュリンプ
リロテルフェルト
リニエズ、ベタン、バエス、レーウ
ペ、エム、マデーフ
ゼー、ミセルサン
スタセン
リロテルフェルト
ガパン
ド、クラエーヌ
ロンド
イグレック、サバー
フヘデリコー、パツス
モンマラン
ヂー、ド、ゼルブ
アンツール
ゼー、ガフリエー
エス、アブラックウード
アシヌボクストン、フホルマン

濠太刺利英領殖民地

加那太

英領印度

希臘

ガテマラ

ハイチ共和國

布哇王國

ホンヂユラス共和國

伊太利

日本

リベリア共和國

歴山堡

墨西哥

滿得涅各羅

ニカラガ

那威

パラゲー

ア、ペ、バゼー
アツシユ、エム、キツシユ
ヂー、ゼオルヂユ、ガンタヌ
ドクトル、ゴツデルフ、マイヤル
ウーゼーヌ、ボレール

エミヂオ、シヤラヂア
フヘリース、サリベトー

因藤成光

藤田四郎

ペー、エヌ、ド、スタイン
ズーブルベ、コエンツエル

セ、ゴエデルト

モンゼナスト

エル、ブルトン、井、ペドラ

オーベントラウド

ドクトル、ホフマン

ドクトル、リ、エナウ

ハツベルゲル

ヂアシユベ、ハイエルダール

和蘭

和蘭殖民地

白露

波斯

葡萄牙及其殖民地

羅馬尼

露西亞

薩瓦多

塞爾維

暹羅王國

南亞弗利加共和國

瑞典

瑞西

突尼斯攝政國

土耳其

ウルグー

ベネズエラ合衆國

ホフスデード
パロン、バンデル、フヘルツ

シヨス、シー、ベルク

ドクトル、セ、ユベア

將官エ、セミノ

ダレルミノ、オウギユスト、ド、パロス

大佐ア、ゴルヂア

エス、ヂミトレスク

將官ド、ベサツク

アスカールコブスキ

ルイー、ケルマン

スベトザール、ヂー、グボヂフ、レユ

エトツープルベ、ボフボロー、ビッチユ

リユアング、シユリア、ニウパトル

アシユ、グーシユニユース

エ、ボン、クリユザンストゼルナ

エド、ヘエド

セ、デレセル

モンマラン

エ、ベタレー

ア、フアラー

フヘデリコー、シユヌビエラ、ガルク

シヨス、ゼー、ビユスト

カルロス、マツチエナウセル

萬國郵便聯合

附屬條約

下ニ氏名ヲ連署スル各國政府ノ全權委員ハ維也納萬國郵便大會議ニ於テ議決セシ條約書ニ記名印スルニ當リ協議決定セシ條款左ノ如シ

第一條

條約第六條ニ於テ書留手數料ノ最高額ハ二十五「サンテーム」ト定メタル條款ノ存スルニ拘ハラズ歐羅巴以外ノ諸國ニ於テハ差出人ニ交付スル領收證ヲ合シ從前ノ如ク該最高額ヲ五十「サンテーム」ニ保持シ得ヘキコトヲ約定ス

第二條

條約第八條ノ條款ヲ存スルニ拘ハラズ歐羅巴以外ノ諸國中現時其法制上辨償責任ノ原則ヲ認許セサル國ノ郵政廳ハ其法制部ノ認許ヲ得ルトキ迄一時便宜ノ爲メ其原則ノ實施ヲ遷延スルノ自由ヲ保持スルコトヲ約定ス但シ其實施ノトキ迄ハ聯合ノ他郵政廳ニ於テモ同國ニ發着スル書留郵便物ノ遞送中ニ於ケル約定ニ對シ償金ヲ支拂フノ義務ヲ有セス

第三條

萬國郵便聯合ニ加盟セル「ボリビア」、「智利」、「古西多利加」、「ドミニカン」、「共和國」、「エクアドル」、「ハイチ」、「ホンデニラス」及「ニカラガ」ノ諸國ハ本大會議ニ其委員ヲ派出セザリシヲ以テ本大會議ニ於テ締結セシ諸條約若クハ單ニ其一部ニ加入シ得セシムル爲メ署名ノ場所ニ餘白ヲ存ス

濠太刺利英領殖民地ノ委員ハ本大會議ニ於テ千八百九十一年十月一日以降萬國郵便聯合ニ加盟スルノ意思ヲ宣言セシヲ以テ該殖民地ノ爲メ均シク署名ノ場所ニ餘白ヲ存ス

南亞弗利加共和國ノ委員ハ本大會議ニ於テ萬國郵便聯合ニ加入スルノ期日ハ他日決定スルノ約束ヲ以テ加盟スルノ意思ヲ宣言セシヲ以テ該共和國ノ爲メ均シク署名ノ場所ニ餘白ヲ存ス

現時萬國郵便聯合ニ加盟セサル諸國ヲシテ他日加盟スルノ便宜ヲ得セシムル爲メ均シク其署名ノ場所ニ餘白ヲ存ス

第四條

本大會議ニ於テ締結セシ本條約若クハ諸條約ノ或ル部分ヲ限リ本日委員ノ署名セシ國々ヲシテ他ノ諸條約若クハ其一部分ニ加盟シ得ルノ便宜ヲ得セシムル爲メ其署名ノ場所ニ餘白ヲ存ス

第五條

第三條ニ記載スル加盟ノ件ハ各國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ經テ埃地利洪高利帝王國政府へ報知スヘシ但シ其報知ノ期限ハ千八百九十二年六月一日トス

第六條

本日維也納ニ於テ署名セシ郵便條約ニ加盟セル一國又ハ數國ニ於テ此諸條約ノ一部分若クハ他ノ部分ニ付批准セサルコトアリト雖モ此條約ハ他ノ批准セラルヘキ國々ニ對シテ效力ヲ有スルモノトス

下ニ記載スル全權委員ハ之ヲ確證スル爲メ附屬條約ヲ調製シ各々之ニ氏名ヲ連署ス此附屬條約ノ條款ハ其諸條約本文中ニ記載シタルモノト同一ノ效力價值ヲ有シ其正本ハ埃地利政府ノ文庫ニ保管シ其正寫ハ一部ツ、各國ニ送付ス

千八百九十一年七月四日維也納ニ於テ調製ス

日耳曼及日耳曼保護國

ドクトル、ベ、ステファン

ザクセ

フリッペン

亞米利加合衆國

ダブリュー、エム、ブルークス

ウ井リアム、ボッター

亞然的音共和國

カルロス、カルボ

埃地利	オーベントラウト ドクトル、ホフマン ドクトル、リ、エナウ ハツベルゲル
洪葛利	ベ、ハイム
白耳義	エス、シュリンプ
ホリボア	リヒテルフェルド
伯西兒	リュイズ、ベタン、パエス、レーム
勃爾瓦利	ペ、エム、マテーフ
智利	ゼー、ミセルサン
古倫比亞共和國	スタセン
公果獨立國	リヒテルフェルド
古西多利加共和國	ガパン
丁抹及其殖民地	ド、クラエース
ドミニカン共和國	ロンド
埃及	イグレック、サパー
エクワドル	フヘデリコー、パッス
西班牙及其殖民地	モンマラン
佛蘭西	ヂー、ド、ゼルプ アンツール

佛蘭西殖民地	ゼー、ガブリエー
大不列顛及其殖民地	エス、ア、ブラックウード
濠太刺利英領殖民地	アシニ、ボクストン、フホルマン
加那太	ア、ペ、バセー
英領印度	アツシニ、エム、キツシユ
希臘	ヂー、ゼオルヂニ、ガンタス
ガテマラ	ドクトル、ゴンテルフ、マイヤル
ハイチ共和國	ウーゼーヌ、ボレール
布哇王國	
ホンチユラス共和國	
伊太利	エミヂオ、シヤラヂア フヘリリス、サリベトー
日本	因藤成光 藤田四郎
リベリア共和國	ベ、エヌ、ド、スタイン ズーブルベ、コエンツェル セ、ゴエデルト
歷山堡	モンゼナスト
墨西哥	エル、ブルトン、井、ベドラ
滿得涅各羅	オーベントラウト ドクトル、ホフマン ドクトル、リ、エナウ ハツベルゲル

ニカラガ	チアシユベ、ハイエルダール
那威	
巴拉ダ	
和蘭	ホフステード
和蘭殖民地	パロン、バンデル、フヘルツ
白露	シヨス、シー、ベルク
波斯	ドクトル、セ、ユベア
葡萄牙及其殖民地	將官エ、セミノ
羅馬尼	ダレルミノ、オウギニスト、ド、パロス
露西亞	大佐ア、ゴルヂアン
薩瓦多	エス、ヂミトレスク
塞爾維	將官ド、ベサツク
暹羅王國	アスカールコフスキー
南亞弗利加共和國	ルイー、ケルマン
瑞典	スベトザール、ヂー、グボヂンニ
瑞西	エト、ツープアルベ、ボッ、ポー、ビッチュ
突尼斯攝政國	リニアンク、シユリア、ニウパトル
土耳其	アシニ、ク、シーニ、ニユニス
	エ、ボン、クリニ、ザンストゼルナ
	エド、ヘエーン
	セ、デレセル
	モシマラン
	エ、ベタシ
	アフアラー

ウルグー
ベネズエラ合衆國
フヘアリコロ、シニスビエラ、ガルク
シヨス、ゼー、ピニスト
カルロス、マフチエナウエル

朕明治十九年二月第三號布告郵便爲替交換約定及郵便爲替交換約定里斯本追加書改正ノ郵便爲替事務約定ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年六月二十二日(官報六月二十三日)
内閣總理大臣 伯耆松方正義
外務大臣 齋藤實
逓信大臣 伯耆藤原二郎

萬國郵便聯合

日耳曼亞然的音共和國、澳地利、洪哥利、白耳義、伯西兒、勃爾瓦利、智利、古西多利加共和國、丁抹及其殖民地、埃及、佛蘭西及其殖民地、伊太利、日本、リベリア共和國、歷山堡、那威、和蘭及其殖民地、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼、薩瓦多、暹羅王國、瑞典、瑞西、突尼斯攝政國、土耳其及「ウルグー」ノ間ニ締結セル郵便爲替事務約定
下ニ氏名ヲ連署セル前掲各國政府ノ全權委員ハ郵便本條約第十九條ニ據リ更ニ各國ノ批准ヲ受クヘキモノトシテ協議決定セシ條款左ノ如シ

第一條

郵便爲替締結國中其郵政廳ニ於テ互ニ郵便爲替業務ノ開設ヲ承諾シタル諸國ノ間ニ郵便爲替ノ方法ニ依リ金錢ヲ交換スルハ本約定ノ諸條款ニ準據スヘシ

第二條

- 一 爲替金額ハ正金ニテ差出人ヨリ受領シ受取人ニ拂渡ヲ通則トス然レトモ各郵政廳ハ其國內ニ通用スル紙幣ヲ以テ爲替金受拂ニ充用スルヲ得但シ相場上差額ヲ生スルトキハ其差額ヲ算入スヘキモノトス
 - 二 爲替一口ノ金額ハ五百「フランク」若クハ其他ノ貨幣ナルトキハ之ニ最近ノ額ヲ超過スヘカラス
 - 三 關係郵政廳ノ間ニ特殊ノ約定アルモノヲ除キ其他ハ拂渡國ノ正貨ヲ以テ爲替券面ニ其金額ヲ記載スヘシ振出國郵政廳ハ時宜ニ依リ自國ノ貨幣ヲ拂渡國ノ正貨ニ換算スヘキ割合ヲ定ムヘシ
 - 四 振出國及拂渡國ニ於テ其貨幣ノ制度ヲ同フスルトキハ振出國ノ郵政廳ハ時宜ニ依リ前段ト同シク差出人ヨリ受領スヘキ相場額ヲ定ムヘシ
 - 四 締盟各國ハ其領地内ニ於テ締盟ノ他國ヨリ到達セル郵便爲替ノ所有權ヲ裏書ノ方法ニ依リ讓渡ヲ許可スルノ權利ヲ有ス
- 第三條
- 一 前條ニ據リ送付スル各爲替ニ對シ差出人ヨリ徵收スヘキ爲替料ハ二十五「フランク」或ハ其端數ニ付二十五「サンチム」又他ノ貨幣ニシテ端數ヲ生スルトキハ全數ニ切上ケ之ト相當ナル金額トス
 - 二 郵便事務ニ關シ諸郵政廳ノ間ニ互ニ送付スル事務用爲替ハ都テ其爲替料ヲ免除スヘシ
 - 三 振出國郵政廳ハ事務用爲替ヲ除キ拂渡國郵政廳ニ對シ手數料トシテ其拂渡シタル爲替金ノ全額二百分ノ一ヲ支拂フヘシ
 - 三 郵便爲替券及券面ニ記載スヘキ受取書並ニ差出人ニ交付スル領收證ニ付テハ本條第一項ニ依

- 四 徵收スル爲替料ノ外何等ノ税金或ハ料金ヲ差出人又ハ受取人ヨリ徵收スルヲ得ス但シ時宜ニ依リ受取人ノ住所ニ就キ拂渡ヲナス爲メ配達料ヲ徵收スルハ此限ニアラス
- 四 郵便爲替差出人振出國ニ於テ書留郵便物ノ到達證ニ課スル手數料ト同額ナル料金ヲ預メ仕拂フトキハ爲替金拂渡ノ通知書ヲ受クルコトヲ得但シ此料金ハ振出國郵政廳ノ所得ニ歸スルモノトス
- 五 郵便爲替差出人ハ郵便本條約第九條ニ依リ通常郵便物ニ關シ定ムル規則及特別ニ準據シ未ダ受取人ニ爲替ヲ配達セサル間ハ其取戻若クハ其名宛ヲ變更スルヲ得
- 六 又差出人ハ前記條約第十三條ニ定ムル規則ニ準據シ爲替到着ノ後直チニ特別ノ配達人ヲ以テ受取人ノ住所ニ就キ金錢拂渡ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 七 然レトモ到達國郵政廳ハ其内地ノ規則ニ依リ金錢ノ代リニ爲替到着ノ報知書若クハ爲替券ヲ別配達ニテ送付スルヲ得

第四條

- 一 郵便爲替ハ官設電線ニ依リ連通スル諸國郵政廳又ハ該爲替ノ爲メ私設電線ノ使用ヲ承諾スル郵政廳ノ間ニ於テハ電信ヲ以テ之ヲ交換スルヲ得此場合ニ在テハ電信爲替ト稱ス
- 二 電信爲替ハ通常電報ト均シク且ツ之ト同一ナル取扱ヲ以テ至急返信料濟照校受信報知郵便配達若クハ別配達ノ手數ヲ經ルコトヲ得ヘク又郵便ニ依リ送付シ差出人ニ交付スヘキ拂渡通知書ヲ請求スルヲ得
- 三 電信爲替ノ差出人ハ左ノ料金ヲ拂フヘシ
 - 甲 郵便爲替料又拂渡通知書ヲ請求スルトキハ其手數料
 - 乙 電信料
- 四 電信爲替ハ本條ニ定ムル料金若クハ萬國電信規則ニ準據シテ徵收スルモノ、外何等ノ料金等